同　同　勳八等　春木淺市
同　同　同　廣田熊市
同　同　同　內海善治
同　同　同　根本森太郎
同　同　同　春木寅雄
同　同　歩一等卒　鳥取五一郎
同　同　同　石田清治郎
同　同　同　石原竹太郎
同　同　同　出口梅藏
同　同　同　池上鐵治郎
同　同　輜輸卒　內海壽一
同　同　勳七等　牧賢輔
同　同　歩一等卒　日下茂兵
同　同　工一等卒　中谷近太郎
同　同　勳八等　佐々木哲雄
小田村　陸一等銃工長　勳七等　小林範知

同　同　砲一等工長　勳七等　小林晉四郎
同　同　陸一等看護長　同　入木佐五郎
同　同　歩軍曹　同　池田孫治
同　同　歩上等兵　勳八功七　大林喜十郎
同　同　勳八等　山本榮治
同　同　同　內田淺城
同　同　同　矢吹唯四郎
同　同　歩一等卒　勳七等　小林晉四郎
同　同　勳八等　齋木福作
同　同　同　居森紋兵衛
同　同　同　高田茂作
同　同　同　齋木實太郎
同　同　同　矢吹善一郎
同　同　同　友保福三郎
同　同　本田敬一郎

同　同　居森彌治郎
同　同　松本茂登治
同　同　定久靜五郎
同　同　東槇庄右衛門
同　同　東槇平左衛門
同　同　東槇民太郎
同　同　內田數治郎
同　同　池田杢治郎
同　同　砲一等卒　池田幾治郎
同　同　大林直治郎
同　同　歩二等卒　本田增四郎
同　同　砲輸卒　居森國太郎
同　同　輜重輸卒　宗森繼一
同　同　勳八等　居森利一
同　同　同　一本杉佐四郎

同　同　東槇義三郎
同　同　陸看護卒　池田榮一郎
同　同　歩少佐　正六勳四功四　宗本辰五郎
同　同　中谷村　三等主計正　正六勳五功五　中江貞市
同　同　三等軍醫　正八勳六等　戶田長次郎
同　同　三等計手　勳七等　田中泰次郎
同　同　歩特曹長　同　中江泰雄
同　同　輜重曹長　勳七功七　岡田才太郎
同　同　歩軍曹　同　戶田春藏
同　同　同　淺山數太郎
同　同　伍長　勳八功七　安藤繁藏
同　同　軍曹　勳八等　宗本堅助
同　同　同上等兵　勳八功七　宗本美之助
同　同　軍曹　勳七等　田中庄二郎
同　同　同一等卒　勳八等　右近貫市

同　同　安藤孫四郎
同　同　砲上等兵　池田峯藏
同　同　騎一等卒　淺山猪市
同　同　歩一等卒　岸井角治
同　同　牧野摩太郎
同　同　赤木照龜
同　同　淺山照市
同　同　岡本藤市
同　同　同二等卒　山崎嘉市
同　同　同上等兵　池田八百市
同　同　勳八功七　山崎舜太郎
同　同　工上等兵　勳八功七　申江稔
同　同　歩一等卒　勳八等　戸田與平
同　同　砲同　同　木村傳市
同　同　横田儀太郎

同　同　歩同　横田國次郎
同　同　騎同　安藤小四郎
同　同　歩同　田中薰
同　同　牧野郡太郎
同　同　牧田富次郎
同　同　同上等兵　岡本訣
同　同　同二等卒　安藤辨三郎
同　同　二等機關兵　岡本正譽
同　同　輜重輸卒　廣瀨菅右衛門
同　同　勳八等　安藤己太郎
同　同　藤澤友市
同　同　岡本量男
同　同　田村文藏
同　同　田淵光次郎
同　同　柚本隣太郎

同　同　井上茂登治
富村一　同　勳七等　山崎繁樹
同　同　輜重軍曹　同　小田儀一郎
同　同　歩伍長　勳八功七　小谷辨太郎
同　同　砲伍長　高橋虎一
同　同　機關三等兵曹　勳八功七　國上敦太郎
同　同　歩上等兵　勳八等　山崎章治郎
同　同　築山幸眞
同　同　大長順一
同　同　森正貴
同　同　砲上等兵　勳八等　横路治太郎
同　同　輸重兵同　同　杼元森太郎
同　同　歩一等卒　勳八功七　横山宗市
同　同　勳八等　中山辨太郎
同　同　同二等歩　難波茂太郎

同　同　切明百藏
同　同　山崎乙衛
同　同　砲輸卒　勳八等　岩佐定四郎
同　同　定雪四三
同　同　大谷金藏
同　同　輜重輸卒　勳八等　玉田冬之助
同　同　歩一等卒　三村則一
同　同　杼元藤市
同　同　岩佐久米治
同　同　杼元國重
同　同　垣內照一
同　同　池田留市
同　同　爲本正清
同　同　高橋仲治郎
同　同　森元金十郎

同　同　難波敬市
同　同　横山初藏
同　砲一等卒　山崎駒之助
同　同　難波爲一
同　同　難波福士郎
同　工同　難波治作
同　輜重輸卒　大長角治郎
同　同　大長重雄
同　同　森齋太郎
同　同　植田清市
久田村　海軍一等筆記　勳七等　武本源一
同　同一等看護　勳八等　武本邦孝
同　同二等看護　同　瀬尾敬太郎
同　歩軍曹　勳七功七　岡田嘉名一
同　曹長　同　石原和三郎

同　歩　少尉　勳六功六　青木喜會八郎
同　同軍曹　勳七等　岡田黨
同　伍長　勳八等　妹尾虎吉
同　同二等卒　杉山軍平
同　騎一等卒　勳八等　本莊原治郎
同　砲上等工長　勳七等　河野著
同　同上等兵　勳八等　堀内清三
同　工一等卒　武本松四郎
同　同特務曹長　勳七等　鈴木梅太郎
同　輜上等兵　勳八等　大山利市
同　同一等卒　勳八等　牧野琢二
同　砲輸卒　同　高橋健一郎
同　二等看護長　勳八等　石原叶
同　歩軍曹　勳七功七　本田忠五郎
同　同一等卒　勳八功七　坂手順平

同　同　勳八等　正躰萬治郎
同　同　同　本庄佐五郎
同　砲軍曹　勳七等　古林春一郎
同　同一等卒　勳八等　武本喜四郎
同　工曹長　勳七功七　正躰俊藏
同　歩伍長　勳八等　駒牧庄五郎
同　輜重輸卒　同　柳田兼太郎
同　歩伍長　勳七等　湯淺喜市
同　同一等卒　勳八等　森元利作
同　同　同　山崎富治郎
同　同上等兵　同　山元宗市
同　砲一等卒　勳八等　倉永茂太郎
同　歩特曹長　勳七等　石原慧
同　同軍曹　同　大山林治郎
同　同曹長　同　石田新五郎

同　同一等卒　勳八等　大林種五郎
同　同　同　横川彌市
同　工同　船引健一
同　歩一等卒　勳八等　丸尾伊勢市
同　同　同　山奥宇太郎
同　輜重輸卒　同　山根善太郎
同　憲上等兵　同　日笠岩五郎
同　砲輸卒　同　牧野福助
同　輜重輸卒　同　丸尾兵治郎
同　同　同　丸尾十四次郎
同　同　同　森元龜三
同　一等看護長　勳七等　石原知一
同　輜重輸卒　鈴木幸左衛門
同　憲上等兵　勳八等　小林清市
同　歩軍曹　勳七等　奥松藏

同　輜重輸卒　大上仙三郎
同　看護卒　石原勘藏
同　輜重輸卒　勳八等　池田作十郎
同　同　正躰光五郎
同　同　竹元吉藏
同　同　森長壽一
同　同　大山小太郎
同　歩伍長　勳八功七　牧野尹作
同　同一等卒　名郷直吉
同　同上等兵　古林繁太郎
同　同二等卒　山元弘
同　砲二等卒　武本善市
同　歩同　堀内源太郎
同　同　山崎榮作
同　同一等卒　勳八等　日笠利作

泉村　三等看護長　勳八功七　景森繁松
同　歩一等卒　勳八等　有元岩太郎
同　輜重輸卒　坂手柊太郎
同　歩一等卒　勳八等　牧野喜重
同　同　森安桂治郎
同　同二等卒　森田鶴市
同　同上等兵　勳八等　赤坂貞太郎
同　輜重輸卒　同　小谷小十郎
同　砲輸卒　小林源平
同　輜重輸卒　池上京太郎
同　同　勳八等　福井角助
同　同　森安儀三郎
同　砲二等卒　勳八等　宗森福士郎
同　同　軍曹　勳七功七　馬場茂義
同　歩伍長　勳八功七　牧野留四郎

羽出村　歩軍曹　七等功七　武本岩太郎
同　同　勳八功七　西村豊太郎
同　同　小椋宇一
同　同　勳八等　景山照
同　同　妹尾軍平
同　同　八等功七　小椋卯太郎
同　同看護卒　勳八等　小椋茂太郎
奥津村　歩一等卒　勳八等　吉田武平治
同　同　松隆稱吉
同　同　石原竹三郎
同　同　石原俊一
同　同　三浦孝一郎
同　同　小椋賴太郎
同　同　水田茂元
同　同　片田錯雄

同　同　船越歌治郎
同　砲同　勳八等　横木源藏
同　工同　小林寛一郎
同　歩二等卒　友保敬一郎
同　輜重輸卒　勳八等　石原柳吉
上齋原村　歩曹長　勳七等　三船傳治郎
同　同　勳七功七　牧野梅治郎
同　同　勳七等　宮崎直夫
同　同　勳八等　藤木平藏
同　同上等兵　勳八功七　小椋伴治郎
同　同一等卒　同　上藤木兩太郎
同　同一等卒　勳八等　柳井金太郎
同　同二等卒　同　片田孫市
同　輜重輸卒　同　小椋茂治郎
同　同　牧野壽逸

同　同　横木鐵治郎
同　同　後藤虎市
同　同　川島虎太郎
同　同　片田惣市
同　同　山本政太郎
同　同　小椋管治郎
同　同　向井乙五郎
羽出村　歩二等卒　勳八等　武本源逸
同　同一等卒　同　田淵義一
同　同　小椋安市
同　歩一等卒　小椋森太郎
同　同　美若伊五郎
同　歩同　上野保男
同　工同　山中松太郎
同　砲輪卒　藤木久米藏
同　歩一等卒

羽出村　同　勳八等　清水清一
同　同　勳八等　細川與太郎
同　輜重輸卒　土江六平
同　同　勳八等　田中榮太郎
同　同　小椋善造
同　同　森田乙四郎
同　砲一等卒　小原蔦五郎
同　砲輸卒　勳八等　西村鶴吉
同　輜重輸卒　勳八等　富阪安太郎
奥津村　歩曹長　勳七等　光永辰太郎
同　陸一等看護長　井手齊
同　陸一等計手　牧野精一
同　歩軍曹　勳七功七　光永正男
同　勳七等　友保貢一郎
同　友保瀧藏

奥津村　歩伍長　勳八等　水田淺一
同　輜重伍長　勳七等　石原光義
同　歩上等兵　勳八功七　石原留四郎
同　同　勳八等　難波陸市
同　同　同　水田文太郎
同　歩一等卒　勳八功七　石原嘉太郎
同　同　同　光永藤太郎
津山町　歩少尉　正八勳七　菅沼金次郎
同　海軍少佐　從六勳四　市村忠治郎
同　歩一等卒　勳八等　福田志摩男
同　輜重輸卒　福田米三
同　歩二等卒　奥村廣
同　同同　相田璞二
同　海中機關士　從七勳六　北島香苗
同　騎兵少尉　正八勳六　山口健一郎

同　一等計手　勳七等　若原拜四郎
同　歩曹長　勳七功七　岸鉉太郎
同　歩一等卒　勳八等　下山扶
同　輜重輸卒　山口鶴吉
同　歩少佐　竹峯三五郎
同　歩一等卒　勳八等　山田辰三郎
同　輜重輸卒　勳八等　小田己之助
同　難波幸一
同　岡田昇
同　森口春太郎
同　輜上等兵　勳七等　渡邊舜象
同　工上等兵　市村綠
同　歩軍曹　勳七功七　湯淺辰治郎
同　伍長　勳八等　田中貞一
同　軍曹　勳七等　小須賀馬

同　伍長　勳八等　宮川正賢
同　同二等卒　杉田榮登
同　同　小林源一
同　同　江口卓夫
同　同特務曹長　弓削純一
同　三等主計正　中西銈三郎
同　砲一等卒　勳八等　松下源吉
同　看護手　勳八等　桝本榮治郎
同　砲一等卒　有本常吉
同　看護手　竹中正雄
同　歩二等卒　平田虎吉
同　輜　卒　河本庄治
同　歩一等卒　勳八等　元木純三
同　同　神谷浩平
同　同一等卒　川島彙吉

同　騎少尉　正八勳六　森本辰治
同　陸二等看護長　勳八等　早瀨正夫
同　歩二等卒　浮田虎吉
同　同一等卒　中江熊藏
同　砲同　勳八等　好並幾治郎
同　輜　卒　同　石原竹太郎
同　一等縫工卒　同　福井熊治郎
同　歩一等卒　岸友吉
同　同同　勳八等　木村竹造
同　歩上等兵　綱島春治郎
同　同二等卒　藤田清治郎
同　同一等卒　勳八等　福井初太郎
同　工少尉　正八勳六功六　宇津木甚太郎
同　歩二等卒　岩田守
同上等兵　勳八等　内山圓藏

同　同　大尉　正六勳四功四　中山默識
同　同一等卒　勳八等　松野龜治郎
同　輸重輜卒　同　松野健治郎
同　同二等卒　山野英夫
同　同一等卒　勳八等　中尾衡平
同　同　大尉　松本謙吾
同　一等縫工卒　淺倉光五郎
同　一等縫工卒　勳八等　片山政太郎
同　二等計手　勳七等　小原新三郎
同　海軍醫總監　從四勳三　芳村晋
同　砲輜卒　勳八等　日下壽太郎
同　海中機關士　從七勳五功五黑田琢磨
同　歩中尉　同勳六同　藤田善雄
同　同二等卒　齋藤友吉
同　同一等卒　古市兵市

同　同　勳八等　渡邊靜江
同　同二等卒　津田正雄
同　同　少尉　正八勳六　齋藤昇太郎
同　砲曹長　近藤鐵藏
同　歩二等卒　金田寬
同　同　横山龔二
同　海三等兵曹　土井義次郎
同　輜二等卒　田淵廣次
同　歩二等卒　川端實吉
同　輜重輜卒　勳八等　中島圓治
同　歩一等卒　下山多作
同　輜重輜卒　勳八等　赤木祐三郎
同　歩上等兵　同　功七　秋山福治郎
同　輜　卒　奥村貢
同　歩二等卒　池田吉平

同　輸　卒　木原虎藏
同　歩二等卒　杉山貞市
同　同　木原常治郎
同　輜重輸卒　茅野義孝
同　歩二等卒　岩本敎太郎
同　歩上等兵　勳八等　江川庄治郎
同　同　竹村伊之助
同　同一等卒　勳八等　間山善一
同　同　大尉　從七勳五　本多國五郎
同　同一等卒　日下榮吉
同　同　福田芳五郎
同　輜重輸卒　水田態吉
同　同　京地米太郎
同　輜重輸卒　勳八等　清水常吉
同　砲伍長　中谷谷藏

同　歩一等卒　明平敎俊
同　同二等卒　吉田新五郎
同　同一等卒　勳八等　小松六治郎
同　輸　卒　畑房治郎
同　輸　卒　石村德治郎
同　二等縫工卒　森田福次郎
同　輜重輸卒　瀨戸德治郎
同　同　中島善吉
同　同　難波辰治郎
同　勳八等　北村秀造
同　歩一等卒　勳八等　今谷豊作
同　同上等兵　同功七　中村全藏
同　工一等卒　勳八等　山本富平
同　輸　卒　齋木齋太郎
同　歩二等卒　金井菁四郎

同　同一等卒　勳八等　赤堀治郎吉
同　同　小枝茂治郎
同　同　遠藤岸之助
同　同　龜尾助三郎
同　輸　卒　內海源治郎
同　歩一等卒　奥村榮吉
同　同　勳八等　山口太喜
同　同二等卒　小林龍太郎
同　同　井上利助
同　騎一等卒　福田晉吉
同　輜重輸卒　勳八等　櫻井寂全
同　歩二等卒　福井豊太郎
同　三等主計　正八勳五　茂渡金治郎
同　歩上等兵　富岡鶴治郎
同　工兵伍長　勳七等　中村宇太郎

同　歩一等卒　春名已之七
同　二等獸醫　野坂健治郎
同　歩一等卒　勳八等　藤原惣吉
同　同　富岡佐太郎
同　同　勳八等　中村國治郎
同　輸　卒　木谷孫一郎
同　歩二等卒　勳八等　須原壽萬治
同　輜重輸卒　同　矢野大藏
同　歩一等卒　勳八等　米原丈平
同　同上等兵　黑田住三郎
同　水　兵　加賀尾敬法
同　歩兵軍曹　勳七等　平田新吉
同　同二等卒　林民藏
同　歩二等卒　中川岸太郎
同　輸　卒　畑房治郎

同　歩軍曹　入江茂治郎
同　同一等卒　勳八等　平野幸之助
同　同上等兵　同　松島眞藏
同　同一等卒　同　淺野久太郎
同　同同　田川三代吉
同　同同　井上佐市
同　同同　勳八等　上田定吉
同　輸卒　大橋音治郎
同　輜重輸卒　勳八等　廣見鶴松
同　歩一等卒　勳八等　片田武士
同　輜重輸卒　淺野仙太郎
同　二等縫工卒　山本愛一郎
同　輜重輸卒　勳八等　紙戸熊治郎
同　輜重輸卒　勳八等　市村傳二郎
同　歩軍曹　勳七功七　百濟芳治郎

同　同一等卒　杉山芳太郎
同　同　勳八等　柳茂太郎
同　輜重輸卒　福島濱治郎
同　同一等卒　福島唯一郎
同　同軍曹　松本竹治郎
同　同一等卒　勳八等　北村千代吉
同　同二等卒　北村譲
同　輜重輸卒　勳八等　田村喜三郎
同　輜重輸卒　豊島才太郎
同　輜重輸卒　田口仙太郎
同　輜重伍長　木村繁太郎
同　歩二等卒　木村貞吉
同　同一等卒　勳八等　堀江嘉一郎
同　同二等卒　川口增二
同　海軍親治　茂渡虎治郎

同　歩一等卒　橋本品治郎
同　工兵伍長　勳七等　青木英四郎
同　歩一等卒　勳八功七　井谷伊之吉
同　同一等卒　勳八等　小西九二三
同　歩兵少尉　駒木良男
同　同一等卒　中原熊治郎
同　輜重輸卒　且齋四郎
同　歩二等卒　松本熊市
同　輜重輸卒　春木直市
同　歩二等卒　山崎伊助
同　同二等卒　高松正吉
同　同一等卒　山本儀太郎
同　同二等卒　岡田鶴一
同　輜重輸卒　牧安治郎
同　同一等卒　勳八等　水田春治郎

同　輜重輸卒　久山久助
同　歩二等卒　池茂治郎
同　同　櫻井米三郎
同　歩上等兵　勳八等　金道龜吉
同　歩一等卒　松下與一郎
同　同二等卒　渡治郎
同　同軍曹　勳七等　日下實三郎
同　同一等卒　妹尾龍太郎
同　同二等卒　原田光忠
同　同曹長　勳七功七　中村榮
同　樂手補　中村基
同　輜重輸卒　小林茂
同　歩二等卒　原田源治郎
同　輜重輸卒　勳八等　田丸要平
同　同一等卒　大竹蕃

同　輜重輸卒　日笠峯雄
同　歩一等卒　沼本賴太郎
同　輜重輸卒　勳八等　兒島茂治郎
同　看護手　大竹正一郎
同　歩二等卒　森岡吉太郎
同　歩兵軍曹　志茂熊太郎
同　二等主計　田口甚之助
同　歩一等卒　勳八等　田口恒三郎
同　同　古川善二郎
同　同　勳八等　鳥居福治郎
同　一等靴工卒　小倉作治郎
同　同二等卒　大村仲三郎
同　輜重兵　高田潤一
同　衛生部一等看護長　勳七　植森三平
同　歩一等卒　武房雄

同　同伍長　三森義秀
同　輜重輸卒　勳八等　千本甚左衛門
同　歩一等卒　西岡吉之助
同　輜重輸卒　伊藤榮藏
同　歩二等卒　今田助吉
同　同　岸田保治郎
同　同　入江縫
同　軍醫二等軍醫　從七勳六　宮地守治郎
同　海機關兵　石津壇
同　歩軍曹　勳七等　日下良四郎
同　獸醫部二等獸醫　從七勳六榊原八十二郎
同　輜重輸卒　勳八等　長橋繁太郎
同　輜重輸卒　同　平井龜治郎
同　歩一等卒　同　大岩道生
同　土井與四郎

同　同上等兵　小枝武夫
同　同一等卒　勳八等　平石一也
同　騎二等卒　金田完
同　歩一等卒　勳八等　山崎藤吉
同　歩二等卒　西山芳藏
同　同　勳八等　淺野春吉
同　輜重輸卒　宮城孝次
同　同　勳八等　竹內潔
同　歩一等卒　松岡茂次郎
同　歩一等卒　前原晉四郎
同　工上等工長　三谷百五郎
同　輜重輸卒　勳八等　水島亦一郎
同　一等計手　勳七等　木村宗一
同　歩二等卒　菱川勇治郎
同　歩一等卒　勳八等　平田與市

同　歩一等卒　上谷辰四郎
同　歩一等卒　小原淺太郎
同　歩二等卒　湯淺重成
同　輜重輸卒　勳八等　奥山長一郎
同　歩二等卒　川西五郎治
同　輜重輸卒　德光官一
同　輜重輸卒　勳八等　宮本德治郎
同　歩二等卒　古川辰治
同　同一等卒　馬淵豊次郎
同　同軍曹　勳七等　吉川十七八
同　砲上等兵　勳八等　庄司吉藏
同　輜重輸卒　倉見龜吉
同　歩一等卒　河本善次郎
同　歩同　岸房治郎
同　工軍曹　勳七等　保田喜一郎

同　歩二等卒　日笠勝五郎
同　歩一等卒　山内久藏
同　歩一等卒　河本昌三郎
同　　信定鐵藏
同　輜重輸卒　德永勝太郎
同　歩二等卒　廣本繁太郎
同　　柴田熊治郎
同　　山形寅次郎
同　同一等卒　倉常治郎
同　輜重輸卒　吉田伴治郎
同　歩曹長　黒瀬榮二
同　同一等卒　三谷貫一
同　同二等卒　青木重吉
同　工縫工　山崎竹藏
同　砲上等兵　湯淺克男

同　輜重輸卒　緒方虎一郎
同　歩二等卒　豊福傳
同　同一等卒　中山馬三郎
同　輜重輸卒　中村定之助
同　　高橋武治郎
同　歩二等卒　山本正次郎
同　　杉田久太郎
同　同一等卒　牧野喜重
同　二等軍醫　山上兼善
同　歩二等卒　坂手萬助
同　　宮崎又雄
同　輜重輸卒　河井藤太郎
同　輜重輸卒　秋山重吉
同　歩二等卒　曾田末吉
同　砲輸卒　定金勉治郎

同　歩伍長　辻晋治郎
同　砲輸卒　木下義一
同　輜重輸卒　植月熊夫
同　輜重輸卒　國亦政平
同　歩一等卒　河本愛治郎
同　輜重輸卒　櫻井熊藏
同　輜重輸卒　大谷熊吉
同　歩一等卒　岸本竹治郎
同　歩伍長　堀江泰
同　少尉　大柴宗紹
同　一等卒　西尾清助
同　輜重輸卒　北島松太郎
同　歩上等兵　小林房吉
同　工特務曹長　中谷民江
同　輜重輸卒　堀新吉

同　歩上等兵　高山勝市
同　歩一等卒　大谷源治郎
同　二等卒　村上晉次郎
同　輜重輸卒　秋山重吉
同　歩一等卒　青山善治郎
同　　山本文太郎
同　二等卒　竹谷健次
同　　菅田吉五郎
同　輜重輸卒　駒木長治郎
同　　米本俊吉
同　少尉　妹尾隼熊
同　輜重輸卒　菅田貞治郎
同　歩上等兵　猶村周吉
同　二等卒　有本順方衛門
同　工兵曹長　池田長市

同　輜重軍曹　同　苅田時四郎
同　輜重輸卒　勳八等　福井敏男
同　步上等兵　同　川端耕一郎
同　輜重輸卒　同　矢尾宇三郎
同　步一等卒　同　森岡米藏
同　步一等卒　同　福田卯太郎
同　輜重輸卒　勳八等　池田容治
同　步一等卒　同　高馬大吉
同　輜重輸卒　同　高馬岩吉
同　步軍曹　勳七等　藤岡磯五郎
同　輜重輸卒　勳七等　余本惠左衛門
同　步二等卒　同　高馬鶴治郎
同　同　清水竹三郎
同　軍曹　勳七功七　北川春吉
同一等卒　神棒七郎

同　同二等卒　福原文一郎
同　輜重輸卒　勳八等　神棒斧四郎
同　步一等卒　同　妹尾喜助
同　軍曹　勳七功七　武岡林藏
同　砲一等卒　勳八等　中尾藤太郎
同　步軍曹　勳七等　岡定一
同　一等卒　勳八等　有年廣治郎
同　同　小野友吉
同　二等卒　田中祥紹
同　同　安藤秀一郎
同　二等卒　荒木啓太郎
同　同　田口潛
同　輜重輸卒　勳八等　椿益三郎
同　同功七級　高山虎三郎
同　甲田藤吉

同　田邊福治郎
同　步一等卒　西村辰藏
同　軍曹　勳七等　松本岩次郎
同　輜重輸卒　勳八等　本山兼治郎
同　步軍曹　勳七功七　堀莊吉
同　輜重輸卒　勳八等　福岡龜吉
同　經理部一等縫工卒　高山熊治郎
同　步一等卒　菊井爲藏
同　憲上等兵　進藤勝三郎
同　輜重輸卒　勳八等　管岡房一郎
同　步一等卒　福本彌一郎
同　步二等卒　佐藤宗平
同　同　小坂田九郎
同　輜重輸卒　磯野甚吉
同　同　大谷卯平

同　砲一等卒　竹林辰五郎
同　一等卒　勳八等　杉山元五郎
同　曹長　勳七等　高山善太郎
同　輜重輸卒　勳八等　高原儀助
同　同　松島定吉
同　同　勳八等　杉山秀吉
同　步一等卒　同　鶴田貞藏
同　工同　下山忠治郎
同　步軍曹　勳七等　石井善一郎
同　輜重曹長　同　畑熊彥
同　步一等卒　菅原春藏
同　二等卒　土倉安三郎
同　軍醫三等軍醫　森治郎
同　步上等兵　春名常治郎
同　輜重輸卒　勳八等　坂手猪之吉

同　同　中尾伊三郎
同　同　兒習藥劑官　菅　辨助
同　同　歩二等卒　竹林保次郎
同　同　輜重輸卒　勳八等　兒玉源治郎
同　同　同　牧尾良兵衛
同　西苫田村　一等看護長　勳七等　森　照藏
同　同　歩上等兵　勳八功七　福原義太郎
同　同　同同　勳八等　豊田慶四郎
同　同　看護手　同　三浦枝萬造
同　同　歩一等卒　同　後藤守二
同　同　工一等卒　同　出口金助
同　同　歩二等卒　同　森藤茂太郎
同　同　輜重輸卒　同　福原百藏
同　同　同　同　福原國藏
同　同　同　同　壽惠仲藏

同　同　福原金五郎
同　同　赤木喜一郎
同　同　壽惠瀧五郎
同　同　歩上等兵　勳八等　屋内喜太郎
同　同　歩一等卒　勳八功七　岩田助藏
同　同　輜重輸卒　勳八等　井上馬藏
同　同　同　土居富太郎
同　同　同　立石儀左衛門
同　同　砲輸卒　勳八等　粟井長治
同　同　騎曹長　勳七等　後藏才治
同　同　輜重輸卒　勳八等　秋元德治
同　同　同　秋元淺吉
同　同　種中元藏
同　同　大成吉五郎
同　同　歩一等卒　河部辰衛門

同　同上等兵　小林勇治郎
同　同一等卒　佐々木十郎
同　同同　小川敏一
同　同　伍長　勳七等　竹内菅治郎
同　同　砲上等兵　勳八等　佐々木久一
同　同　一等看護長　勳七功六　竹内賴吉
同　同　歩一等卒　勳八等　平尾監之助
同　同　同　小林彦市
同　同　同　松本健之助
同　同　輜重輸卒　立畠常太郎
同　同　歩一等卒　勳八等　平野清治郎
同　同　同同　中島萬吉
同　同　輜重輸卒　同　山本作藏
同　同　同　同　檜垣岩衛門
同　同　砲一等卒　同　川本又兵衛

同　同　海軍三等下士　同　山本良治郎
同　同　歩一等卒　同　益田助藏
同　同　同　同　細川淳太郎
同　同　伍長　勳七功七　妹尾萬龜藏
同　同　同一等卒　勳八等　畑辨藏
同　同　同　玉置惣平
同　同　同　藤村倉治郎
同　同　同上等兵　同　藤田辰次郎
同　同　上等看護卒　藤森茂男
同　同　曹長　勳七功七　和田利一
同　同　少佐　從六勳五功四　越漸義助
同　同　軍曹　福原芳藏
同　同　砲一等卒　前原貞一郎
同　同　歩同　福原文市
同　同　歩同　福原小太郎

同	輜重輸卒		清水熊市
同	步一等卒		竹內庄太郎
一宮村	步特曹長	勳七等	賴經川左治
同	一等看護長	功七	種島小一
同	砲一等卒	勳八等	前原愛治郎
同	輜重輸卒	勳八等	田原國治郎
同	步伍長	勳七等	有木義直
同	工上等兵	勳八等	有木武一
同	補一等卒	勳八等	前原一松
同	同二等卒	同	八木傳一
同	步軍曹	功七級 勳七等	田原律平
同	砲一等卒	勳八等	三谷辰治郎
同	補步一等卒	同	營山浪治
同	輜重輸卒	同	大畑勇治郎
同	補步二等卒		勝山肇治郎

同	步一等卒	勳八白色桐葉	中元小太郎
同	補砲一等卒	勳八瑞寶	中元定一
同	補輜輸卒		大谷秀五郎
同	步一等卒		武川松五郎
同	輜重輸卒		賴經喜八
田邑村	步中尉	從七勳六	田口寄文治
同	步少尉	正八勳五功六	岡民太郎
同	步軍曹	勳七等	田淵龜四郎
同	步上等兵	勳八功七	後山衛三郎
同	同	同	赤野又十郎
同	同	勳八等	水島文三
同	同	同	高畑近三郎
同	同	同	高尾俊治郎
同	同	同	時尾宗五郎
同	同	同	土居等

同	同一等卒	勳八功七	杉山富五郎
同	同	同	日笠信治郎
同	同	勳八等	水島政一郎
同	同	同	內田仲四郎
同	同	同	內田石右衛門
同	同	同	高橋玄四郎
同	同	同	宮岡靜一郎
同	同	同	高畑則一郎
同	同	同	內田虎右衛門
同	同	同	宮岡宇左衛門
同	同	同	內田淺五郎
同	同	同	高畑唯一
同	同	同	水島國平
同	同	同	水杉森助
同	同	同	水杉竹治

同	同	同	內山清治郎
同	同	同	杉本靜男
同	同	同	一柳滿治郎
同	同	同	林田米藏
同	同	同	池田鯉一
同	同二等卒	勳八等	水島新治郎
同	同		繁定駿逸
同	二等軍醫	從七勳六	繁定壯平
同	二等看護長	勳七等	細田正一
同	看護卒	勳八等	宮岡縫藏
同	騎伍長	勳八功七	杉山鈴五郎
同	工上等兵	勳八等	白井平作
同	同	同	伴繁治
同	工二等卒		中島保夫
同	砲一等卒	勳八等	黑瀨紋作

同	同輜卒	濱田正夫	
同	輜重輸卒	勳八等	草苅常五郎
同	同	同	鳥取虎五郎
同	同	同	森脇源兵衛
同	同	同	溝尾久治
同	同	同	藤原楳四郎
同	同	同	草苅健治
同	同一等卒	水島砂	
香々美南村	歩一等卒	勳八功七	井口繁彌
同	同一等卒	勳八等	松坂道夫
同	同	同	米澤伊左衛門
同	同	同	大林初治郎
同	砲上等兵	勳七等	大塚直三郎
同	歩同	勳八等	地木文三
同	同一等卒	勳八等	地木幸一

同	同一等卒	矢野序兵衛	
同	同	齋藤倉太郎	
同	野砲同	同	產賀仲四郎
同	機關兵不明	同	片岡敬太郎
同	輜重輸卒	同	坂田清佐
同	歩一等卒	勳七等	牧賢輔
同	同軍曹	勳七功七	小林豊治郎
同	工二等卒	勳八等	三浦鐵治郎
同	輜重輸卒	同	小林角助
同	同	同	小林濤逸
同	同	同	小林峰市
同	砲上等兵	同	青井節治
同	歩二等卒	同	青井武市
同	同一等卒	勳八等	小川弘章
同	同	藤田文市	

同	輜重輸卒	青井林藏	
同	輜重輸卒	同	藤田森四郎
同	同	同	水島鶴市
同	看護手	同	產賀市郎
同	歩上兵兵	同	坂田正直
同	同一等卒	同	坂田留四郎
同	同	同	秦野只逸
同	同	同	坂田庫四郎
同	同	同	長尾留藏
同	輜重輸卒	同	池上辨太郎
同	同	同	福田喜市郎
同	砲上等兵	同	和仁晉市
同	歩同	勳八功七	和仁善四郎
同	同第一國民兵	產賀竹逸	
同	同一等卒	勳八等	藤田隆之助

同	同	渡邊六左衛門	
同	歩軍曹	勳七功七	渡邊仲藏
同	同二等卒	勳七等	杉田十七一
同	工一等卒	勳八等	武田健市郎
同	歩同	同	水島茂左衛門
同	砲二等卒	水島才市	
同	歩一等卒	勳八功七	田淵國市
同	同	勳八等	小谷幸吉
同	騎伍長	勳八功七	田淵國市
同	同上等兵	勳八等	田驗房吉
同	歩一等卒	小谷菅治	
同	同二等卒	田淵利市	
同	少尉	正八位	知仁織治
同	中尉	從七勳六功七	下井勳治
同	騎曹長	勳七等	後藤材吉

同　歩上等兵　春木林市
同　看護手　勳八等　武田稻夫
同　歩一等卒　同　地木繁夫
同　同　武田傳治郎
同　同　小坂準太郎
同　同　杉本茂美
同　同　林武夫
同　同　青井林藏
同　同　地木管一
同　同　坂田精市
同　砲一等卒　勳八功七　坂田砂郎
同　同　勳八等　小坂右衛門喜
同　砲一等卒　同　産賀仲四郎
同　歩二等卒　同　杉本四三二
同　村上由之

同　輜重輸卒　同　岩田佐四郎
同　同　大塚運平
同　同　武田順平
同　看護卒　坂田準平
同　香々美北村　砲曹長　勳八等　影森淺治郎
同　一等計手　勳七等　難波儀太郎
同　歩軍曹　同　難波猪四郎
同　同　伍長　勳七功七　桴村健太郎
同　同上等兵　勳八等　富岡藤左衛門
同　同　勳八功七　武川衛三郎
同　同　池上彌太郎
同　同一等卒　勳八功七　宗安　烝平
同　同　勳八等　三村類太郎
同　同　勳八功七　宗安　象四郎
同　同　勳八等　野井一二

同　年岡美之助
同　歩一等卒　勳八等　藤田勝太郎
同　同　瀨畑惣市
同　同　牧江音治郎
同　同　勳七等　田村周藏
同　同　勳八等　富岡定治郎
同　同　一ノ代代吉
同　勳七等　庄直市
同　同　藤田久米藤
同　同　勳八等　瀨畑隆一
同　同　廣澤福一郎
同　同　難波嘗治郎
同　同二等卒　勳八等　宇佐美十七一
同　同　久安福四郎
同　砲上等兵　間名軍平

同　輜重輸卒　同　難波清吉
同　同一等卒　同　清水千藏
同　輜重兵同　同　影森元逸
同　工兵　同　定廣要藏
同　砲輪卒　山本禮治郎
同　輜重輸卒　勳八等　宗安傳市
同　同　庄倉平
同　同　小坂源治郎
同　同　宇佐美實五郎
同　同　永井孫太郎
同　同　三村里四郎
同　輜重輸卒　勳八等　畑房治郎
同　歩二等卒　年岡清治郎
同　上等看護卒　難波勝四郎

同	歩一等卒	難波岸六	
津山東町	歩二等卒	勳八等	横山文藏
同	同一等卒	同	武岡勝達
同	同	勳八功七	里谷蔦治郎
同	同	軍曹	武岡伊之助
同	同一等卒	勳八等	横部幸太郎
同	同	同	佐野房治郎
同	同	同	松浦重吉
同	同	同	山田松太郎
同	輜重輸卒	同	前葉壽之助
同	同	同	山形甚右衛門
同	歩一等卒	勳八功七	植月覺三
同	同二等卒	勳八等	福田宇左衛門
同	同	同	秋山遠太郎
同	同上等兵	勳八功七	橋本福助

同	同一等卒	勳八等	兼藤甚吉
同	同一等卒	同	竹內甚四郎
同	騎一等卒	同	妹尾勝馬
同	砲一等卒	同	宮脇清吉
同	同一等卒	同	難波熊吉
同	輜重輸卒	同	池上菊五郎
同	歩二等卒	同	佐古友平
同	同	同	井上平治郎
同	同一等卒	同	兼藤龜吉
同	同	同	有木梅太郎
同	同	同	秋山寬治
同	歩二等卒	勳八等	武岡武夫
同	同一等卒	同	井上玉之助
同	同	同	井上藪右衛門
同	同	勳七等	高橋金治郎

同	輜重輸卒	勳八等	內藤虎一
同	同	同	平井宇市
同	同	同	池田勘太郎
同	同	同	小坂藤一郎
同	同	同	坂本虎吉
同	同	同	椋井藤五郎
同	同	勳八等	木下森右衛門
同	同	同	下山鹿之助
同	同	同	遠藤勝太郎
同	同	同	內藤熊太郎
同	同	同	藤田多市
同	同	同	武岡忠藏
高野村	歩曹長	勳七功七	神田祐一
同	砲同	同	上保田好雄
同	歩同	同	上妹尾暉一

同	同	勳七等	神田精一
同	同	勳八等	高橋武一
同	歩伍長	勳七等	仲矢綱右衛門
同	砲伍長	勳八等	高橋淳一
同	歩上等兵	勳七等	神田和作
同	同	勳七等	香山鶴吉
同	同	勳八功七	保田品一
同	同	同	丸王愛助
同	同	同	高山靜一
同	歩上等兵	同	香山松治郎
同	同	勳八等	保田輝五郎
同	同	同	常藤安治郎
同	同	同	高橋濱雄
同	同	同	牧政右衛門
同	同	同	影山輝一

同　同　性全常太郎
同　同　影山廣市
同　同　騎上等兵　勳八功七　松尾要
同　同　砲上等兵　松永九右衛門
同　同　看護手　勳八等　赤堀悦治
同　同　歩一等卒　保田準一
同　同　保田音五郎
同　同　岸本萬
同　同　保田定雄
同　同　早瀬圓平
同　同　近藤淳平
同　同　近藤運平
同　同　近藤敬吾
同　同　河本貫一
同　同　小島熊一郎

同　同　早瀬万平
同　同　光井仙一
同　同　河井茂平
同　同　神田辰平
同　同　影山峰一
同　同　騎一等卒　勳八等　神田榮穂
同　同　砲一等卒　勳八功七　香山八百藏
同　同　砲一等卒　勳八等　保田橘太郎
同　同　砲一等卒　河本淳一
同　同　金島萬治郎
同　同　神田基
同　同　早瀬松治
同　同　保田唯一
同　同　工一等卒　勳八等　保田竹次郎
同　同　歩一等卒　早瀬清一

同　同　早瀬福督
同　同　勳七等　山縣又五郎
同　同　勳八等　福田重臣
同　同　輜重輸卒　永禮源治
同　同　歩一等卒　福田仲藏
同　同　河野義政
同　同　勳八功七　日下照一
同　同　勳八等　永禮三平
同　同　北原文治
同　同　甲本清四郎
同　同　松本民一
同　同　輜重輸卒　往田善一
同　同　河本精一
同　同　福田力之助
東一宮村　歩兵中尉　正七勳六　松岡武重

同　同　早耆彌七
同　同　堀江幹夫
同　同　光井嘉之助
同　同　光井宇一郎
同　同　輜重輸卒　勳八等　水島眞砂
同　同　早瀬清四郎
同　同　早瀬市藏
同　同　小島竹藏
同　同　河本石藏
同　同　森高嘉壽市
同　同　河本龜
同　同　杉山定平
同　同　松岡光治郎
同　同　小林銀一
同　同
同　同　道田孫一

同　同　東苫田村　歩軍曹
同　同　同上等兵
同　同　輜重輸卒
同　同　歩一等卒
同　同
同　同　同上等兵
同　同　同一等卒
同　同　砲一等卒
同　同
同　同　輜重輸卒
同　同
同　同

同　砲少尉　正八勳五功五　石原賴治郎
同　歩軍曹　勳七功七　勝山利市
同　歩上等兵　勳八功七　三谷由良雄
同　同　武川久一
同　砲上等兵　松村竹四郎
同　歩一等卒　勳八等　勝山愛助
同　歩一等卒　間野政市
同　同　仁木源作
同　同　柴田文平
同　同　松村宇一
同　同　武川武一
同　海機關中尉　從七勳六　齋田都彥
同　同　武川甚逸
同　同　水島善吉
同　同　尾崎光太郎

同　同　永禮幹十郎
同　同　櫻井藤四郎
同　同　阪出清一郎
同　同　松村重吉
同　同　阪出助藏
同　同　多胡茂穗
同　同　仁木寬吾
同　同　三谷滿雄
同　同　阪出壽美夫
同　同　中島歌治
同　同　田中清右衛門
同　同　瀧山初五郎
同　同　神崎治郎吉
同　同　阪出長平

同　同　豊田仁市
同　同　山田晉吉
同　同　寺阪文太郎
同　神庭村工中尉　從七勳六　早瀨實
同　陸軍三等獸醫　從七勳六　早瀨健次郎
同　歩少尉　安藤榮城
同　砲軍曹　勳八功七　眞木義則
同　歩伍長　長瀧俊一
同　海一等信號兵　勳八等　今井寬
同　歩上等兵　勳七等　河藤紋三郎
同　同　勳八功七　竹內澤治
同　同　勳八等　吉田寬
同　同　岡田大三
同　同　本名熊造
同　同　須江九一郎

同　同　內田濬一
同　歩一等卒　勳八功七　岡田一信
同　同　勳八功七　今井茂一
同　同　勳八等　易辰一
同　同　高山敎助
同　同　高山圓平
同　同　易竹次郎
同　同　眞木芳五郎
同　同　岡田友市
同　同　野村敎吾
同　同　須江作市
同　同　鈴下爲藏
同　同　小林甚四郎
同　同　谷名猪之七
同　同　佐々助一

同	歩二等卒	勳八等	本郷銀作
同	同	同	岡本圓治
同	輜重輸卒	勳八等	本郷九十郎
同	同	同	松本鐵五郎
同	同	同	高山芳夫
同	同	同	高山順一
同	同	同	竹內伊平治
同	同	同	藤田宇左衛門
同	同	同	早瀨武
同	歩曹長	勳七功七	菊地壽平
同	工伍長	勳八等	河藤濱一
同	歩上等兵	勳八功七	菅田菅藏
同	一等計手	勳七等	菅田哲治
同	歩一等卒	勳八等	竹內芳助
同	海一等信號兵	勳八等	今井寬
同	海軍三等機關兵		多胡篤
同	歩一等卒	勳八等	高山芳長
同	高倉村	砲伍長	山本猪平太
同	歩一等卒	勳八等	水島三右衛門
同	輜重輸卒	同	高山岡一
同	歩特務曹長		水島義一
同	砲同	勳七等	影山常四郎
同	歩軍曹	同	眞木態藏
同	一等看護長		岡平藏
同	歩軍曹	勳七等	水島諭一
同	同伍長		香山巍
同		勳八功七	木多勳兵衛
同	同上等兵	勳八等	影山磬
同			高山勝治郎
同			下山楠右衛門

同	同一等卒	勳八功七	村上肇藏
同	同	勳八等	水島長之助
同	同	同	水島武平
同	同	同	橋本定一
同	同	同	鈴木圓治
同	同	勳八等	松尾竹四郎
同	同	同	米井治平
同	同	勳八等	本多嘉久治
同	同	同	村上春治郎
同	同	同	米井四郎右衛門
同	同	騎一等卒	水島兼藏
同	同	勳八等	金谷八郎
同	砲一等卒	勳八等	木多眞木治
同	同	同	有本壽男
同	歩二等卒		山田吾吉
同	輜重輸卒	同	谷口清作
同	同	同	一谷嘉市
同	同	同	本田鶴五郎
同	同	同	岡憲一
同	同	同	眞木熊一
同	同	同	高山壽一
同	同	同	水島友一
同	同	同	森山虎雄
同	歩二等卒	同	高山春治
同	同	同	木多彌曾治
同	工上等兵	同	木多峰四郎
同	海軍	同	眞木寬一
同	歩特務曹長	勳七等	本多爲一
同	輜重輸卒	勳八等	今岡增藏

同　輜自動車隊　同　金谷道春
高田村歩軍曹　勳七功七　仁木一郎
同　同　太田瀨一
同　同　永田松治郎
同　同　七等功七　阪本忠治郎
同　同上等兵　勳八功七　藤田幸作
同　同一等卒　大國敏
同　同中尉　勳六等　安黑篤
同　三等軍醫　晴山英二郎
同　歩曹長　勳七等　安黑一枝
同　一等計手　菅賢太夫
同　歩軍曹　頃安嘉二
同　憲軍曹　菅與六郎
同　工軍曹　勳七等　前原林平
同　三等看護長　勳八等　山口董

同　歩上等兵　同　高岡虎市
同　同　寶近文治郎
同　同　西村恒四郎
同　砲同　同　高山新右衛門
同　歩一等卒　同　友末覺平
同　同　同　奥田久三郎
同　工同　同　河野吉三郎
同　歩同　同　高山松平
同　同　同　福井久五郎
同　同　同　川上友一郎
同　同　同　奥田寬
同　同　同　片岡繁之丞
同　同　同　高山敎十郎
同　同　同　岸本長之助
同　同　同　八木又四郎

同　同二等卒　同　長森鹿藏
同　同　同　野尾增市郎
同　砲輜卒　同　桑木文三郎
同　輜重輸卒　同　長森與左衛門
同　同　同　目瀨玉藏
同　同　同　牧山勇助
同　同　同　江高多作
同　同　同　前原與作
同　同　同　片岡澤五郎
同　同　同　高山位雄
同　同　同　寶石十萬吉
同　同　同　松下治平
同　歩伍長　同　頃安淺五郎
同　歩上等兵　同　吉岡友太郎
同　輜重輸卒　同　市樂多四郎

同　歩伍長　同　墨岩春作
同　憲上等兵　同　田口七太郎
同　輜特務曹長　勳七等　晴山五男
同　騎軍曹　同　小林千幹
同　歩上等兵　勳八等　八木豊一郎
同　同　同　頭利嘉四郎
同　同一等卒　同　寶石芳五郎
同　同　同　西本多十郎
同　同　同　高山常三郎
同　同　同　落合金藏
同　同　同　松永小三郎
同　同二等卒　同　高山早一
同　輜重輸卒　同　西村卯市
同　同　同　江見貞太郎

同　同　前田幸吉
同　同　森本治郎左衛門
同　歩一等卒　銅山球二
同　同　橋本孫一
同　同　西本幹之助
同　歩二等卒　早島多久市
同　同　高山宗九郎
同　輜重輸卒　渡邊福一郎
同　同　早瀬多十郎
同　歩二等卒　目瀬與一郎
同　同　片岡慶一郎
同　同　高山久米藏
同　同　今岡勇藏
同　同　赤木一郎
同　輜重輸卒　前原松次郎
同　勳八等　茂渡虎之助
同　同　森國淺五郎
同　歩一等卒　大國福一郎
同　同　片岡砂郎
同　砲一等卒　片内康治
同　勳八功七　堀内庄治郎
同　輜重輸卒　今井武市
同　勳八等　木本衛
同　歩一等兵　須藤儀七郎

同　勳八等　岸本芳太郎
同　勳七等　福原良平
同　勳八功七　萬代勘一
同　勳八等　日野田金五郎
同　同　芦田登一郎
同　同　川上孫四郎
同　同　古我重實
同　同　高谷千代吉
同　同　内田内逸
同　砲上等兵　山田政夫
同　勳八等　黒本孝太郎
同　勳七等　中司茂平
同　歩一等卒　前田房治郎
同　勳八等　福田幸四郎
同　同　水島源治郎
同　陸二等計手　水島淺四郎
同　歩上等兵　水島鹿三郎
同　同　頭士左右八
同　同　内藤增五郎
同　同　黒木嘉春
同　同　内田幸吉
同　同　内藤作太郎
同　同　福原一郎
同　同　小林茂
同　同　福原鐵藏
同　同　廣戸利左衛門
同　同　都井龍逸
同　同　廣戸福一郎
同　同　河田龍平
同　同　木本善市

同　同　杉山清吉
同　同　赤木仙治郎
同　同　加矢實太郎
同　同　木本龜確
同　同　藤田豊藏
同　同　木元榮藏
同　騎一等卒　勳八等　中西英一
同　砲一等卒　同　菅田貞市
同　同　服部耕
同　歩二等卒　同　泉丈右衛門
同　輜重輸卒　勳八等　都井柳藏
同　同　川田彌十郎
同　同　阪本駒市
同　同　都井熊治郎

同　同　兵惠大作
同　同　中山高治
同　同　西尾麻太郎
同　同　丸岡賴一
同　同　永光幹一
同　同　宇江實次郎
同　西加茂村騎少尉　正八勳七　岡田充義
同　歩特務曹長　勳七功七　寺元兵平
同　歩軍曹　同　寺元寬一郎
同　同　勳八等　平山兵一郎
同　騎伍長　同　垂井雅一
同　歩上等兵　勳八功七　早瀨宇平治
同　同　仁木實之助
同　勳八等　內田柳市
同　砲上等兵　尾島茂若

同　工上等兵　同　岡田一二
同　同　三浦賤夫
同　陸看護手　同　島田新吉
同　勳八等　藤木魁
同　歩一等卒　勳八功七　寺元半市
同　勳八等　岡田起
同　同　寺阪庄市
同　同　小林又四郎
同　同　山本作市
同　同　西山庄一郎
同　同　岡田龜市
同　同　堀內長藏
同　同　町田嘉平
同　同　今井閑藏
同　同　高山多助

同　同　平井隆一
同　同　荒尾彌平治
同　同　平井今一郎
同　同　牧敬造
同　同　厨子眞一
同　同　內田藤右衛門
同　同　水島關次郎
同　騎一等卒　同　內田龜逸
同　歩二等卒　同　中塚銀藏
同　同　厨子重郎
同　騎二等卒　同　原田善太郎
同　工二等卒　同　垂井鐵次郎
同　輜重輸卒　同　岡田留吉
同　同　町田丿左衛門
同　同　川上惠太郎

同　同　福寺勘市
同　同　大田十七八
同　同　三浦柳逸
同　同　三浦好郎
同　同　厨子利之助
同　同　厨子長右衛門
同　同　角野兼四郎
同　同　寺阪竹郎
東加茂村　歩兵不詳
同　同一等卒　小谷龜五郎
同　砲上等兵　植木瀧藏
同　輜重輸卒　勳八等　末廣千萬作
同　歩一等卒　同　岡崎作一
同　騎特務曹長　勳七等　大杉正十五
同　歩兵軍曹　勳七功六　高橋宇逸

同　同一等卒　勳八等　田村啓太郎
同　同　勳八功七　志水丈平
同　同　勳八等　高橋佐喜二
同　輜重輸卒　志水三平
同　同　池上留一
同　歩一等卒　奥田壽
同　同上等兵　勳八功七　田中秀夫
同　一等主計　正七勳五　水嶋延治郎
同　歩一等卒　勳八等　尾嶋善作
同　同　山本良太郎
同　同　河本米藏
同　同助卒　藤田一誠
同　同一等卒　松本菊吉
同　同上等兵　田村辰三
同　同一等卒　永田愛太郎

同　同二等卒　背山駒藏
同　輜重輸卒　勳八等　元塚清治
同　歩一等卒　囘　中塚季吉
同　同　福美英美
同　同上等兵　萬代圓平
上加茂村　歩一等卒　牧原五平
同　輜重輸卒　金田元三郎
同　歩二等卒　國末才太郎
同　同上等兵　勳八功七　寺坂兼五郎
同　輜重輸卒　片山源六
同　歩上等兵　田中嘉十郎
同　同　功七級　岡一郎
同　同　田中卯一郎
同　輜重輸卒　三谷伊太郎
同　歩一等卒　川上鐵造

同　工兵軍曹　勳七等　智和竹之丞
同　歩一等卒　功七級　酒本三治
同　同軍曹　勳七功七　寺坂夷作
同　同上等兵　勳八等　内田壽治
同　同一等卒　内田薫藏
同　輜重輸卒　坂手文右衛門
同　同　山口粂三郎
同　歩上等兵　勳七等　只友兼太郎
同　同二等卒　勳八等　只友留逸
同　輜重輸卒　岡田牧太郎
同　歩伍長　勳八等　只友隆一
同　同　坂手種三
同　同一等卒　池田一郎
同　同二等卒　坂手助市
同　同一等卒　勳七等　山崎友治郎

同　歩一等卒　勳八功七　年岡九平治
同　同　山口多市
同　同　山崎吉造
同　同上等兵　勳八功七　田村爲一
同　同一等卒　田村清
同　同　田村智治郎
同　同二等卒　岡村善助
同　同一等卒　勳八功七　能勢德藏
同　同上等兵　勳八等　能勢要太郎
同　同一等卒　能勢源治郎
同　同　勳八等　石原清治
同　同上等兵　勳八功七　谷上福太郎
同　同　西矢儀太郎
同　同　西矢辨太郎
同　同　金尾種藏

同　輜重輸卒　八東傳次郎
同　歩一等卒　勳八等　芦谷惣市
同　同　小林平次郎
同　同　芦谷美代吉
同　輜重輸卒　芦谷嘉平治
同　同　大谷春治
同　歩兵伍長　勳七功七　北村徹平
同　輜重輸卒　勳八等　岡藤三郎
同　歩二等卒　入江光治
同　同　藤井鐵五郎
同　同曹長　正八功六　岡淳平
阿波村　歩一等卒　戸井滿策
同　輜重輸卒　勳八等　小鹿熊藏
同　歩上等兵　西山茂一郎
同　同一等卒　小田千代藏

同　輜重輸卒　勳八等　岸本忠平
同　歩二等卒　大塚虎一
同　同一等卒　寺坂富一
同　同　長瀧金太郎
同　同　石原倉吉
同　同　林茂一郎
同　同　寺坂滿
同　同　小椋瀧信
同　同　西山晴一
同　同　茂兼淺吉
同　同　入江貞恒
同　同　小椋藤三郎
同　同　寺井兵吉
同　同　西山宇治郎
同　同　寺阪源治郎

同　同　入江光治
同　同　佐々木龜太郎
同　歩伍長　勳七功七　岸本源治
同　同上等兵　勳八功七　大田榮作
同　同　高矢榮次郎
同　同一等卒　勳八等　仙石利作
同　歩一等卒　勳八等　戸井龜一郎
同　同　戸井光雄
同　同　久保助左衛門
同　同　佐々木茂
同　輜重輸卒　仙石八郎
同　歩一等卒　寺阪行夫
同　同　岡村宇源治

（ヘ）大正三年乃至同九年戰役從軍者

町村名	兵種等	位階勳功	姓名
二宮村	海一等兵曹	（南洋ニ出征）勳七等	川端耕二郎
中谷村			宗光侃治
同			戸田種夫
富村	歩上等兵		森江秀男
同	同一等卒		森江豊
同			難波義友
同			三浦藤十郎
大野村	輜重輸卒	勳八等	植畠富夫
同	水一等水兵	同	藤田三平
同	同一等機關兵	勳七等	池田唯逸
同	歩上等兵		藤田博一
同	水三等兵曹	勳七等	安藤甚一
同	同二等兵曹	勳八等	瀬島源作
同	同一等兵曹	勳七等	瀬島高太郎
同	歩軍曹		池田美男
同	同上等兵		矢内久壽吉
同			金田要平
同	一等看護卒		谷村熊市
田邑村	海三等主計兵曹	勳八等	日笠貞廣
同	海一等兵曹	勳七等	神橋住藏
同	同一等水兵	勳八等	田淵岡平
同（久田村出身）	同一等機關兵	同	日笠幸一
同	歩兵大尉	正四勳六	高畑洋平
同	同一等卒		水杉利平
同	同		森脇嘉市
同	同		安東助一
同			池口政市

町村名	兵種等	位階勳功	姓名
同	同		時尾利市
同	同		田淵實
同	輜重輸卒		河原秀
同	同		大林秀吉
香々美南村	歩一等卒		森廣國太郎
同	海一等水兵		高宮親夫
同	歩一等卒		大下大一
同	海一等水兵		小林宗逸
同	海一等水兵	勳八等	大谷朝治郎
同	歩一等卒		後藤果
同	同		中尾茂市
同	同上等兵		中尾龜市
同	海三等兵曹		藤田與平
香々美北村	歩曹長	勳七等	野井重市
同	歩一等卒		杉山幹一
同	同		定廣順一
同	同		年岡三平
同	同		關名邦太郎
同	同一等卒		三村重平
同	海三等兵曹	勳八等	新免半平
同	同一等水兵	同	新免圓平
同	同		宗安覺一
同	歩一等卒		三木順盛
奥津村			一名（姓名不詳）
上齋原村	歩曹長	勳七等	小椋瀧治郎
同	同上等兵		原田正義
同	同一等卒		藤原辰五郎
同	海一等水兵	勳八等	片田繁市
同	歩一等卒		牧野宇十

泉村　歩兵伍長　勳八功七　牧野留四郎
同　同　金山啓一
久田村　海一等機關兵　正躰幸藏
同　二等看護長　奥董
同　輜重輸卒　妹尾惠
同　同　大山駒一
同　同　坂本梅太郎
西苫田村　歩上等兵　立石政光
同　海上等兵曹　勳七等　杉本產平
同　海一等兵曹　同　杉本常治郎
同　同　同　杉本義一
神庭村　陸二等主計　從七勳六　竹内元平
高田村　輕重輸卒　勳八等　松永金三郎
同　同　細川啓四郎

同　同　保田道之
同　同　堀内正雄
同　二等軍醫　從七勳五　晴山英二郎
加茂村　上等看護卒　勳八等　木本利道
東加茂村　歩上等兵　元塚慶士
同　歩一等卒　森岡鴒一
同　海二等兵曹　勳七等　兒玉一
同　歩一等卒　小峪丈四郎
同　同　大杉荒魂
同　同　兒玉茂安
同　海一等兵曹　勳七等　池内美則
同　海一等兵曹　勳七等　福兒都市
同　海一等兵曹　勳七等　山口茂逸
阿波村　歩兵伍長　青山政章
同　同上等兵　山本耕作

同　同一等卒　中谷實次郎
同　同　寺坂定吉
神庭村　歩曹長　勳八等　高山與喜夫
同　海一等機關兵曹　勳七等　多胡一務
同　同一等兵曹　同　福田新一郎
同　同一等機關兵曹　同　竹内大治
同　同一等水兵　同　田口長男
同　同一等水兵　同　眞木元市
同　同　同　安藤榮城
同　同　勳七等　佐々登喜夫

第五章　教育

第一節　總說

我が岡山縣が全國に於て夙に教育地として知られたるは縣民の齊しく誇とする所なり。惟ふに、封建時代に於て岡山藩主池田光政の大いに心を教化に用ひたる、津山藩主松平康哉の力を文教に注ぎたるは、實に周知の事にして、當時文運燦然として興り國藩皆爭ひ學べり。是れ共に今日あるの遠因を爲せるものにあらざるなきか。然れども當時は所謂階級制度時代にして、教育のこと亦極めて窮屈なるを免れず。藩黌に學ぶものは僅に上流少數の子弟に止り、所謂一般民衆の子弟は同樣の惠澤に浴することを得ず。贅を寺子屋師匠に納めて僅に讀み書き算盤の初歩を學ぶに甘んじたりし有樣たり。

明治五年學制頒布せられ、同七年學區を制定し、始めて小學校の設置を見るに至れり。是に於て我國の教育史上に一紀元を劃し、新生面を開きたりといへども、事總べて草創に屬し、萬般の制度は勿論設備等も未だ整はず或は民家を或は寺院の一隅を、僅に教場に假用するに過ぎず。授くる所の書物は概ね西洋文明國に行はるゝもの、直譯の類に屬するもの多く、教師も亦舊時の流風を釋脫する能はずして、その教法は唯注入を主とし、倘

ほ幾分寺子屋的傾向の下に讀書・算術・習字の偏重回教授に從ひしのみ、明治十五年に至り勅令を發して小學校教則を定め、教師ゐ訓導と稱し、大いに其面目を改めたり。後ち明治十九年に至り國家教育の根本方針茲に確立し、滿六歳より滿十歳に至る四箇年を以て義務教育として之を尋常科と稱し、猶ほ其の上に修業年限四箇年の高等小學校を設けたり。本郡に於ては便宜各町村組合を以て學校を設立せり。即ち津山町に鶴山高等小學校を、芳野村に竹田高等小學校を、久田村に久田高等小學校を、高野村に鴨川高等小學校を、高田村に高田高等小學校を加茂村に加茂小學校を設置し、以て尋常科卒業生を收容したり。然れども通學距離一般に遠くして不便勘からず入學者の數は尋常科卒業の全員に對して僅に其の一三割に過ぎざりき。然るに明治二十七八年戰役の結果國民的自覺大いに進み、一般民衆の教育に對する思想亦大いに向上し、中にも久田村・富村・林田村の如きは、各自組合を脫し、獨自にて卒先して高等科を併置せり。

明治四十一年四月義務教育年限延長の實施せらるゝに當り、各町村悉く高等科を併置し、競うて設備の完成に努めたり。本郡三十六小學校の殆んど總べてが校舍の改築運動場の擴張等、其の形式に於て全然舊時の面目を一新したるのみならず、其の内容に於ても亦大いに整ひ、以て尋常科卒業の全員を修學せしめ得るに至れり。中等學校には本郡内に於ては縣立に津山中學校・津山高等女學校の兩校あり、町立に津山商業學校あり、私立に津山實科高等女學校あり。加ふるに各町村實業補習學校を設置し益々實業補習教育の振興に盡す所あり。今や教育機關の完備教法の進歩及び一般民衆の教育に對する理解の進歩とにより、益々教化の効を收めんとす。邦家の爲眞

に慶賀に堪へざるなり。

第二節　學制以前の教育

（一）概　說

封建時代子弟の教育に關しては何等法令の存するものあるにあらず、從つてその向學は概ね、下人民の自由意志に放任したるものなり。而して藩内に於ては、家塾あり、寺子屋の設亦少からず。學習の便宜ありたりと云へども、鄉中に於ては神官・僧侶或は里正然らざれば耕耘を事とせる處士等に就いて、僅に學に就くを得たるのみ其の授くる學科の如きも範圍概ね讀書算の三科に限られ、しかも其の大部は讀書のみを專修して算に及ばず。曾に之を學ばざるのみならず、算盤の如きは是れ當に商人の習ふべきものなりとして、却て之を手にするを賤みたり。されば士にして、甚しきは普通の加減乘除すら知り得ざるもの少からざりしが、敢て之を恥とするが如き風なかりき。農家の子弟はこれ等の學を以て全然不必要のものなりとさへ考へたるもの少からず。一般農工商の如き讀書を指して或は角字を讀むと云ひ、或は青表紙を讀むなど稱して、庶民の與るべき所にあらざるものと思惟したるが如し。

父兄が其の子弟をして始めて學に就かしむる場合には、頗る禮を重んじたるものなり。初め父兄は師の許に到りて其の教導を懇請し、許諾を得れば、更に吉日を卜して子弟を伴ひ贄を携へて師家に到り、始めて師弟の縁を結ぶ。之れを寺入と稱す。斯くして子弟は以後安んじて、師家に學ぶを得るなり。教育施設の完全ならざりしこととかくの如し。是れ畢竟時代の然らしむる所にして別に異むに足らず。學科の如き僅に讀・書・算に過ぎざりしと雖も、之を現今の學科のお岐に渉り徹底の不十分なるに比すれば一面に於て更に味ふべきものなきにあらず。

教法は所謂個人教授にして、手習に最も重きを置き、いろは・數字・十干十二支・名頭・苗字盡し等に始り、庭訓往來今川狀・實語經等に及び、教師自筆の手本を與へ、弟子をして運筆を自習せしめ、每日親しく其の手を執りて運筆と讀方とを懇に授く。書體は總べて通俗的草書體にして、所謂御家流と稱するものなり。楷書に至りては版本若くは神佛の守札等の外之を見ること稀にして、殆んど別文字の如く、讀み得ざるもの多く、現今とは全く反對の狀態なりき。

懲罰法は通常訓誡・叱責・鞭撻を以てし、極罰としては破門を宣し、机を負はしめ、父兄の許に放逐したるものあり。然れども師弟間の情誼の親密醇厚なる、弟子の師を見ること恰も慈親の如く、吉凶相慶弔し患難必ず相救助す。特に時季の慰問懇切にして、珍羞は必ず師に贈り、既に吉事あれば走りて師に報じ、冠禮・婚儀の慶事必ず師を招して正賓とす。又弟子にして不行跡あれば、父兄は直に師の說諭を乞ふ等、萬般に渉りて師を尊敬し師に依賴す。或は他門の弟子にして若し我師を嘲笑するが如き者あれば、激昂憤怒して互に爭論を惹起するに至る。此の如くなるを以て一旦子弟の縁を結ぶ時は猥りに他の師に轉從することを爲さず。不幸にして其の死歿す

る時は墓參をなし香花を手向け、或は石碑を建立して敬慕追念すること深し。師も亦子弟を見るの情甚だ厚く弟子終生の幸福を祈念して弟子の家に往來すること、猶ほ愛子の家に到るが如し。一日の師も疎かにせず。「三尺去りて其の影を踏まず」と云ひ「師に事ふるに死を以てす」と云へるが如き、眞に其の然りしを思はしむ。之を現時の學生が動もすれば其の師の短を摘發し、或は自己不滿の爲に猥りに師に反抗して、敢て非違を遂げんとするが如き、甚しきものは師に對して辭職を勸告するが如き、又は一旦其の校を去る時は舊師を見ること恰も市人の如く、教師も亦今日他校に轉ずれば、明日其の跡を顧みざるが如きものあるに比すれば、其の差實に霄壤に止らざるなり。

要するに學制以前封建時代に於ける教育は、士人は庶民の上に位するを以て、其の子弟は多少の教育を受けざるものなかりしといへども、農民は概ね貧困にして、一歳中の力作も租稅を納むれば餘す所僅少にして、衣食に窮するが如き實狀に在り。爲に子弟の教育に十分なる能はず。無智相依りて家を成し、自ら卑屈に陷り、辛うじて祖先傳來の田畑を維持し、朝夕風雨を厭はずして耕耘し、僅に納稅を怠らざれば足れりとなし、又智識を開き才能を養ふに心を用ゐず。却つて其の子弟の學問に志すを以て破産の基となし、之を憂慮したる程なりき。故に富豪の子弟か、或は村吏の子弟にあらざれば、文字を習ひ讀書を學ばしむるものなく、教育を受くる者百家中僅々數人に過ぎざりしなり。商家に至りては朝夕營々として徒に己の衣食を裕にせんことをのみ是れ思ひ、志操も自ら卑屈にして、其の子弟の教育の如き、唯店頭の帳簿の記載と、賣買授受の計算とをなし得れば以て足れりと

なしたるもの如し。

（二）津山藩學校の教育

（イ）藩學校の沿革

津山藩學問所、後ち明治三年修道館と改稱す。藩主松平越後守康致天資鋭敏大度人君の德あり。夙に儒學を尊崇し大村庄助・飯室武中・山下官彌等の諸儒を徵用し、明和二酉年學問所を城内山下に創立して茲に經書を講ぜしめ、藩士を奬勵する等の事蹟舊記に散見す。尚ほ當初學問所に掲ぐる條目の存するあり。以て學事の一班を窺ふに足る。口碑・舊記に存するもの一・二を左に掲げん。

「舊記抄出」

一、康致、文武の取立方殊の外苦勞にて、儒者には大村庄助・飯室武中・植村庄助・河合憲之丞・山下官彌・名越七郎右衛門・軍學者には正木兵馬等追々聘用し、其の他微賤の内より選拔、信澤仁左衛門を劍術修行として京都へ、佐藤八郎左衛門を醫術修業として京都及江戸へ遣し、其の他尚ほ拔擢せらるゝもの多し。蓋し文武學術の開けたる此の時を始とす。云々

一、同代他國にても學德備はる人物は殊に崇敬し、就中其の頃京都にて皆川文藏なる大儒信仰にて、參府歸國の途次は必ず伏見迄相迎へ終夜學政上の事を論議し、大阪下り船中にては對座蒲團を與へ始終先生と呼び之を敬す後文藏命を受け赤穗の士大石内藏之助の論を選呈す、今藩の文庫に存す。云々

因みに、赤穗義士論に付口碑舊記の存するあり。原文のまゝこれを附記せん。

御平生御噺に、赤穗四十七人敵打之事、御賞美被遊候事無之御側向之衆もほめ候は不被好御意にて當家にて萬一ヶ樣不慮之災難候はゞ、家中一統何れも四十七人の業は仕るものと相頼み心く強存候。堂々たる一藩の諸侯にして僅 四十七人の義士あるはさのみ可賞事とも不被存、夫れを強てほめ候ては却て我家中に力を落させ候樣被存候。何分にも我等の家中に上下殘らず、四十七人の義士と被申候。云々

一、天保十四年松平越彼守齊民（確堂と號し從三位に叙せらる）の代、儒臣昌谷五郎（名は碩精溪と號す）稻垣武十郎（名は茂松雪洞と號す）の建議により、更に文學所武藝稽古場を一所に設け、規模を宏にし文武を奬勵す。

一、安政五年十一月松平三河守慶倫の代に至り、藩臣郡宰山本恭二郎の建議を容れ、武藝各流派を合併し、文武の諸藝を一つの校館に講習する事と爲し、家老に總裁を任じ、大目付河瀬寛助を學校掛に、山本恭二郎を文武仕法替掛に任じ、植原六郎左衛門（永練師範多藝の人）宮田耕助（槍術師範）等を學監兼世話役と爲し、校舍を造補經營し大に文武の制度を改め、其事業を振起擴張し闔藩の諸士を鼓舞せしむ、當時の關係著名なる學士を大村斐夫・鞍縣寅二郎・平野右助・後藤立太郎・中村靜一郎と云ふ。明治三年中更に一大厦を勅築し、皇漢洋の學修所と爲し、傍らに講堂・塾部屋等の數棟を新築し、士民の別なく入學或は通學を許し、各自欲する所の學科を修めしめ大に學事の面目を革む。明治四年廢藩の際止む。

（ロ）就學出席

□ 藩士子弟の教育

一、藩士の子弟は必ず學校へ通學せしめ、時間後適宜の藩儒或は其他の家塾に就き修學せり。且つ俊秀なる者を選び藩費を以て他國に遊學せしめ、又は私費を以て遊學するも許可せり。又學問所に於ては月並六回、有役・無役の別なく生徒と共に講義を聽聞すべく出席の定規あり。總べて藩政の際は役義を重んじ之を立身の榮とす。故に拔群優等なる者は藩主の近侍或は藩役を命じ自ら他を奬勵し、敎育の忽緒に附すべからざるを冥々の内に含養せしむるの狀あり。

□ 平民子弟の教育

一、明和三年の頃城下使者屋敷にて、儒者大村庄助をして經書を講じ市鄕の者へ、聽聞せしむ云々。又原河某なるもの足輕より學才ある者を見出し、學問修行申付、別に扶持を給し成業の後町人訓導申付候云々。

一、天保十二年（丑年）松平越後守齊民（確堂公）の代、町奉行稻垣武十郎の建議を採り、市街に敎諭場なるものを設け、市儒をして市民の子弟に句讀を授け講義を聽かしめ、女子には女敎師を置き女今川等の女訓を授けしめ、且つ紡績裁縫の事を敎ゆ。後安政年間に至りて每月三次・町年寄以上に講義を聽聞せしめ市尹以下僚屬之を臨視す。而して其敎師は藩主より扶持す。延いて明治四年廢藩に至り平民子弟藩と同じく修道館（藩の文武館）に入るを許す。茲に至り敎諭場を廢す。郡村の如きは既ね寺子屋に學ぶ。（私塾＝寺子屋＝一覽表參照）

但し全部に教諭方なる者を置き時々各村に派遣し、切實の道話勸善の事を說き、怠惰不良の罪を奬勵誘導せり。

一、家塾・寺子屋を開設するもの他の檢束なく、何人たりとも自由に之を開設せり。然れども藩士の子弟出席の度數は之を監察に屆出づるを制とせり。

（八）教科編制及び訓育等

□ 教科用書

一、孝經・四書・五經・小學・近思錄・國史略・日本外史・日本政記・蒙求・貞觀政要・左氏傳・十八史畧・史記・漢書・資治通鑑・通鑑綱目・文章軌範・文選等の類

□ 學科・學規・試驗法及諸則

一、漢學・洋學・算法・筆道・兵學・弓・馬・槍・劍・砲術・柔術・游泳（校外に教場を設く）等を教授す。而して生徒には文武兩道を兼修せしむ。

一、文學と武術の程度の比例は授讀方（生徒に句讀を授くるもの）四書臨時講義をなすものを武術の日錄に當て助敎、竝五經臨時講義を爲すものを武術免許以上に當つ。

一、文武の一藝專業を願ふ省は之を許す。年期は五ヶ年と定む。其の文學專修の者と雖も必ず武術一・二藝は之を修めしむ。武術專業の者亦月次講釋は必ず聽問せしむる成規なり。若し二十歲以下文學專修のもの、年期に至り、四書臨時講義を爲し得ず。二十歲以上五經の內二・三經同上、武術に二十歲以下目錢以上に達まず。

二十歲以上免許を得ざれば戶主は格式不席等の答申付、二・三男は又相當の讀賣あり。

一、生徒學習の期限は十一歲入學し（七歲以上志願により入學を許す）十四歲迄、文學專修（十三歲以上志願により武術を許す）十五歲より文武兩道を修行せしむ、三十歲以上文學は各自の意に任すと雖も、必ず月六次の講釋は聽聞せしむ。文學の試驗は春秋二季之を行ふ。

一、生徒訓條は朱子白鹿洞の揭示を遵守せしめ、文學所は素より武術場にも之を揭げ諳誦せしむ。

一、學校の組織は總べて藩費を以て成立し、管理の法嚴重を主とし、長幼の序を正し尊卑の別を明にし、忠孝の德を尙び廉恥の風を養ひ專ら督勵を加ふ。

一、罰則、文武不出精・或行狀惰弱なるものは學監の具狀を以て、輕きは鐵砲獵（舊藩にて士分には月六回野外銃獵を許すの制あり）及酒宴遊興の席等士林の交際を禁じ、重きは監督部屋入申付（校內に別室あり、他人の往來を禁じ衣食自辨せしむ）大事故あらざれば家に歸るを許さず。

一、校中の狀況別に監察する事項なきも、時々藩主親臨あり一層の奬勵となれり。

一、入學は必ず正月始業の日を以てす。禮服着用父兄親戚の內同道して敎師に謁せしむ。事故あり始業の日入學せざるとも始めて入校の日禮服を着せしむ。師範家回禮の事中頃廢す。

（二）授業方法

一、素讀・會讀・復讀・獨見等の法を定め秩然進學の序を紊さず。其の學力の進むものは復講・輪講等をなさし

む。且つ孝經生・四書生・獨見生と階級を立て名札を掲げ、勤惰により之を上下し競進せしめ倦まざらんことを勉む。而して上進の者には文章法を講究せしむ。

（ホ）職名及俸祿

□維新前

一、文武稽古場總奉行家老の中受持。

一、文武稽古場掛——大目附の中之に任ず。役高八十五俵

但し藩政の際は役料の稱なし役高を唱ふ。故に自祿の役高より多きものは別に給與なし、以下倣之

一、文武稽古場掛——頭格之に任ず。役高七十五俵

一、文武稽古場目付——士格以上之に任ず。役高五十五俵

一、文武勘定方——下士格　扶持米の外年手當四俵

一、訓導方——儒者　年手當　十俵

一、學問世話方　同　七俵

一、學問世話方手傳　同　五俵

一、劍槍砲等の武術師範役　同　五俵六俵

一、同別世話代　同　三俵四俵

□維新後

一、學校總裁

一、文武長官評置　年給役料　四十俵

一、文武督事　同　二十五俵

一、學校判事　同　十五俵

一、學校庶務方　同　五俵

一、學問教授　同　上等　十五俵

一、學問助教　並　十俵

年手當　九俵

一、學問助教補　同　七俵

一、武術教員　同　七俵

一、武術助教　同　五俵

（三）庶民の教育

前述の如く學制頒布前に於ける庶民の教育は、一般に甚だ不振にして特筆に足るものなし。唯僅に家塾・寺子屋等篤志家の私的施設によりて、偏則なる讀書・習字等の教授を辨ぜしに過ぎず。されど今之を詳かにすることは困難なれば、その一班を記して參考に資せん。

□ 私塾寺子屋一覽表 「備考」表中當該欄内に記載なきはその事項不詳のものなり

名稱	所在地	科目	師匠氏名及身分	弟子數	開業年月	廢止年月
啓蒙舍	津山椿高下	讀書・手習	駒井鴞軒	男百人許	明治元年	明治五年
同	津山上之町諸	禮・手習	小島愛治郎	同五十八人許		
同	津山上之町諸	禮・手習	植月茂治郎	同六十人許		
同	津山京町手	習・生花	吉田某女史	同六十人許		
同	津山椿高下諸	禮・手習	松田某女史	男女二十人許		
休蹤學舍	津山南新座	漢學・手習	佐々木瀟治郎	男三十人許		
同	津山南新座	漢學・手習	齋藤同	男六十人許 女五人	嘉永四年	明治二年
寺子屋	津山南新座	漢學	井上勇	男二十六人許	文久元年	明治五年
寺子屋	西々條郡二宮村	國・漢・數學	菅沼某	五十二人許		
寺子屋	西々條郡中谷村大圓寺	漢學・手習・算術	菅豐岸福本某	延人數百人		
同	入村	漢學・手習・算術	茶山光男	同六十人		
同	入村	讀書・算盤・手習	宗本準平	五・六十人		
同	中谷村	讀書・算盤・手習 相撲・柔道・劍道	中江直樹	三・四十人		
寺子屋	西々條郡上森原村	讀書・手習	田中喜太郎	數百人		

名稱	所在地	科目	師匠氏名及身分	弟子數	開業年月	廢止年月
修齋館	西々條郡圓宗寺村	漢籍・習字・算術	後藤損藏 永田治郎左エ門 和田治郎左エ門	男百二十人		
土居塾	同上土居村	上	中谷權右エ門	男四十餘名		
同	市場村	算術	內藤某	男十四名 女六名		
同	圓宗寺村諸	禮・習字等	岸岡しゆう	弟子四・五十人		
同	香々美村習	字	川崎修德	男十二人 女五人		
同	香々美村漢	學・筆道	中島多右衛門	男四十人		
同	香々美村同		竺道契	男二十五人	嘉永四年	明治二年
寺子屋	西々條郡久田下原村	書法講讀	廣戶久左衛門		文政年中	學制實施の前迄
同	久田上原村	上	牧野宗支	數百人	天保元年	
同	久田下原村	上	大山泉頭		入保年中	
同	土生村安養寺	上	堺內寺太郎（僧）		安政の頃	慶應の頃
帶川學舍	同	黑木村	岩本武彥 牧野照		日笠快潤（僧）	明治六年
石田塾	同羽出村	讀書・數學	石田賢碩	男二十人		
石田塾	同長藤村	漢文・習字	石田良碩 石田春溪	男三・四十人		明治四年
畑塾	林田村	讀書・習字・珠算	畑音治郎	男百數十人		
青山館	上田邑村	漢學	繁定阮良	男三十餘人		
	東田邊村	讀書・習字	有木一朝	男五十人	有木精一	
	西田邊村	同				

保田塾	野村	漢學	宮崎半佛道人	男五・六十人		
北條縣第八區小學校分校手習所	本郷村	東南條郡勝部村惣社村下横野村上横野村大篠村	漢籍・習字・算術	井上雲樵	男三十人	天保十年
			讀書・習字	廣瀬義典	男二十餘人	明治五年中
			讀書・習字	佐藤謙一郎	男三十四人	
善應寺有爲館手習所	粮保村東一宮村	漢學・筆道	仁木永祜	男五十人	文久元年	明治五年
		讀書・習字	仁木恥一	男二十四五人同二十名内外		
			仁木五郎吉衛門仁木綱治	十四・五人	嘉永安政の頃	明治學制頒布迄
		讀書・習字	中島多輔	三十餘人	明治の數年前	同
		讀書	松岡一播磨	十數人		

第三節　學制以後の教育

明治四年七月朝廷文部省を置きて全國の教育事務を統轄せしめ、翌五年創めて學制を全國に實施す。本邦文教の基礎茲に確立し、爾來文運駸々乎として進み、遂に今日の隆昌を見るに至る。然れども此の間法令の變革改廢せられたること尠からず。茲に之が概要を摘記せん。

（甲）小學校教育法令の沿革

（一）明治五年學制

明治五年八月二日始めて學制を發布せられ、茲に始めて全國の統一的教育制度整備し、特に小學校教育の基本的制度確立す。當時この學制と共に下賜せられたる勅諭並に太政官布告に曰く、

人々自ラ其身ヲ立テ、其ノ產ヲ治メ其業ヲ習ヒテ、以テ其生ヲ遂クル所以ノモノハ他ナシ、身ヲ修メ智ヲ開キ才藝ヲ長スルニ因ルナリ。而シテ其身ヲ修メ智ヲ開キ才藝ヲ長スルハ、學ニアラザレハ能ハズ。是レ學校ノ設アル所以ニシテ、日用常行言語書算ヲ初メ、士・官・農・商・百工・技藝及法律・政治・天文・醫療等ニ至ル迄人ノ營ム所ノ事學ニアラザルハナシ。人能ク其才ノアル所治メ、產ヲ興シ、業ヲ昌ニスルコトヲ得ベシ。サレバ學問ハ身ヲ立ツルノ財書トモ謂ツベキモノニシテ、人タルモノ誰カ學バズシテ可ナランヤ。夫ノ道路ニ迷ヒ、飢餓ニ陷リ、家ヲ破リ身ヲ喪フノ徒ノ如キハ、畢竟不學ヨリシテ斯ル過ヲ生ズルナリ。從來學校ノ設ケアリテヨリ、年ヲ經ルコト久シト雖モ、或ハ其ノ道ヲ得ザルヨリシテ、人其ノ方向ヲ誤リ、學問ハ士人以上ノ事トシ、農・工・商及婦女子ニ至リテハ之ヲ度外ニ置キ、學問ノ何物タルヲ辨ゼズ。又士人以上ノ稀ニモ學ブモノ、動モスレバ國家ノ爲メニスト唱ヘ、身ヲ立ツルノ基タルヲ知ラズシテ、或ハ詞章記誦ノ末ニ趨リ、空理虛談ノ道ニ陷リ、其論高尚ニ似タリト雖モ、之ヲ身ニ行ヒ、事ニ施スコト能ハザルモノ少カラズ。是即チ沿襲ノ習弊ニシテ、文明普カラズ。才藝長ゼズシテ、貧乏破產喪家

ノ徒多キ所以ナリ。是ノ故ニ人タルモノハ學バズンバアルベカラズ。之ヲ學ブニ宜シク其旨ヲ誤ルベカラズ。之ニ依リテ今般文部省ニ於テ學制ヲ定メ。追々敎則ヲモ改正シ、布告ニ及ブベキニ就キ、自今以後一般ノ人民（華族・士・農・工・商及婦女子）邑ニ不學ノ戶ナク、家ニ不學ノ人ナカラシメンコトヲ期ス。人ノ父兄タルモノ、宜シク此意ヲ體認シ、其愛育ノ情ヲ厚クシ、其ノ子弟ヲシテ必ズ學ニ從事セシメザルベカラザルモノナリ高尙ノ學ニ至リテハ其人ノ才能ニ任スト雖モ、幼童ノ子弟ニ男女ノ別ナク、小學ニ從事セシメザルモノハ其父兄ノ越度タルベキ事。

但從來沿襲ノ弊、學問ハ士人以上ノ事トシ、國家ノ爲ニストシ、之ヲ給スルニアラザレバ學バザル事ト思ヒ一生ヲ自棄スルモノ少カラズ。是皆惑ヘルノ甚シキモノナリ。自今以後此等ノ弊ヲ改メ、一般人民他事ヲ拋チ自ラ奮テ此學ニ從事セシムヘキ樣心得ベキ事。

右之通被仰出候條、地方官ニ於テ邊隅小民ニ至ルマデ不洩樣、便宜解釋ヲ加ヘ、精細申諭シ、文部省規則ニ隨ヒ、學問普及致候樣方法ヲ設ケ可施行事。

明治五年壬申七月

太政官

□學制摘記

全國を大分して八大區とす。之を一大學區と稱す。每區大學校一ケ所を置く。岡山縣は四大學區に屬せり。其の所屬府縣左の如し。

大阪・京都・兵庫・奈良・堺・和歌山・飾磨・豊岡・高知・名東・香川・岡山・滋賀以上二府十一縣、大阪府を以て大學本部とす。

一、大學區は三十二中學區とし、八大學區に中學區二百五十六を置く。

一、中學區を二百十小區とし、之を小學區と稱す。區每に小學校一ケ所を置き。一大學區に其數六千七百二十ケ所、全國五萬三千七百六十六ケ所とす。（人口六百に對して一校の割）

□小學校規則摘記

第二十一章　小學校ハ敎育ノ初級ニシテ、人民一般必學バズンバアルベカラザルモノトス。之ヲ區分スレハ、左ノ種類ニ分ツヘシ。然レトモ均シク之ヲ小學ト稱ス。即チ尋常小學校・女兒小學・村落小學・貧人小學・小學私塾・幼稚小學ナリ。

第二十二章　幼稚小學ハ男女ノ子弟六歲迄ノモノ、小學ニ入ル前ノ端緖ヲ敎フルナリ。

第二十三章　小學私塾ハ小學敎科ノ免狀アルモノ、私宅ニ於テ敎フルヲ稱スベシ。

第二十四章　貧人小學ハ貧人子弟ノ自活シ難キモノヲ入學セシメンガ爲メニ設ク。其費用ハ富者ノ寄附金ヲ以テスル是レ專ラ仁惠ノ心ヨリ組立シムルモノナリ。依テ仁惠學校トモ稱スベシ。

第二十五章　村落小學ハ僻遠ノ村落、農民ノミアリテ、敎科素ヨリ開ケサルノ地ニ於テ、其敎則ヲ少シク省畧シテ敎フルモノナリ。或ハ年已ニ成長スルモノモ其ノ生業ノ暇ヲ以テ學ハシム。是等ハ多ク夜學校タルヘシ。

第二十六章　女兒小學ハ尋常小學教科ノ外ニ、女子ノ手藝ヲ教フルモノナリ。

第二十七章　尋常小學ヲ分チテ、上・下二等トス。此二等ハ男女共、必卒業スヘキモノトス。（科目略ス）

第二十八章　右ノ教科順序ヲ踏マスシテ、小學ノ教科ヲ授クルモノヲ變則トス。

但シ、私宅ニ於テ之ヲ教フルモノハ之ヲ家塾トス。修業年限ハ上下二等トモ各四ケ年間ニシテ、毎週ノ教授時數ヲ三十時間トス。入學年齢ハ下等小學ハ六歳ヨリ九歳マデ、上等小學ハ十歳ヨリ十三歳迄トス。授業料ハ一ケ月五十錢、外ニ二十五錢ノ下等ヲ設ケ、又一家二人ノ子弟ヲ學校ニ入レル者ハ、下等ノ授業料ヲ納メ、三人以上アルトキハ二人ノ外出スニ及ハス。教員ノ年齢・資格ハ二拾歳以上師範學校卒業免狀・中學校免狀ヲ有スルモノトス。

（二）明治十二年教育法令

明治十二年九月布告第四十號を以て學制を廢し、教則令を公布し、全國の教育事務は文部卿をして統攝せしめらる。學校は小・中・大學校・師範學校・專門學校其他各種學校とす。

學區ノ制ヲ廢シ、每町村或ハ數町村聯合シテ公立小學校ヲ設置スヘキモノトシ、學區取締ノ職務ハ學務委員ヲシテ掌理セシム。公立學校ノ土地ハ免稅トシ、學校ニ於テハ生徒ニ體罰ヲ加フルヲ禁ジ、男女教場ヲ同シクスルコトヲ得ズ。（小學校ハ妨ゲナシ）

小學校ノ學科

讀書・習字・算術・地理・歷史・修身ノ初歩・土地ノ狀況ニ從ヒ罫畫・唱歌・體操ヲ加ヘ、又物理・生理・博物ノ大意、女子ノ爲ニハ裁縫ノ科ヲ設クベシ。兒童ハ六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トス。其學期ヲ八ケ年トシ、土地ノ便宜ニ依リテ之ヲ四ケ年マデ減ズルコトヲ得シム。但此四ケ年間ハ每年必四ケ月以上授業セシメ、學齡兒童ハ少クトモ十六ケ月間ハ普通教育ヲ受クベキセノトス。

學校ニ入學セストモ、普通教育ヲ受クル途アルモノハ就學ト見做ス。

學校設置ノ資力ニ乏シキ地方ニ於テハ、巡回教授ノ法ヲ設ク。授業料ヲ收ムルト否トハ土地ノ便宜ニ任ス。

教員ハ男女ニ別ナク、年齢十八年以上タルベシ。

（三）明治十三年教育令

十二月布告第五十九號を以て教育令を改正せらる。其要領左の如し。

十二年制定ノ教育令ニ於テハ放任ニ過ギタルガ爲メ、教育事業頽弛ノ狀アルヲ以テ之ヲ改正シ、學區ノ制ヲ復舊シ、就學ノ督責ヲ嚴ニシ、小學校ノ設置區域ハ府知事縣令ノ指示ニ從フベキモノトシ、公立學校ノ設置廢止ハ文部卿ノ認可ヲ經ベク、町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ベキコト。學齡兒童修學ノ最低度十六ケ月ナリシテ、小學科三ケ年ノ課程ヲ經サル者ハ已ムヲ得ザル事故アルニアラザレバ、每年十六週日以上就學セシメザルベカラザル者トシ、其程度ヲ低クシテ一般兒童ヲシテ修學シ易カラシメ、其教則ハ從來小學校ニ於テ定メタリシテ、文部卿ノ頒布スル綱領ニ基キ府縣知事之ヲ編成シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘキコトトセリ。

明治十四年五月小學校教則綱領を定め、小學科を分ちて初等中等高等の三等とせらる。其の學科目左の如し。

初等科　修身・讀書・習字・算術・唱歌・體操

中等科　初等科學科目ニ地理・歷史・圖畫・博物初歩・物理初歩及女子ニ裁縫ヲ加フ。

高等科　中等科物理初歩ヲ除キ、化學・生理・幾何・男子ニ經濟初歩・女子ニ家事經濟ヲ加フ。

授業時間一日五時ヲ以テ度トス。

（四）明治十八年教育令

八月布告第二十三號を以て教育令を改正せらる。其要旨は、學務委員の職務は戶長をして之を掌理せしめ、小學教場の制を設け、小學校を設置するに、資力不足なりと認むる場合に於て之を設け小學校より一屛簡易なる教則を以て普通科を教授する所とし、學資の節約を圖る等重なるものとす。

小學教場ハ小學校ヨリ簡易ナル教則ヲ以テ普通科ヲ教授スル所ニシテ、左ノ場合ニ設置スベキモノトス。

半日又ハ夜間ニ非ラサレハ、就學スルコト能ハサル兒童多數ナルトキ、授業料ヲ納ムルコト能ハザルモノアルトキ又ハ小學校ヲ設置スル資力不足ナリト認ムルトキ。

（五）明治十九年教育令

四月勅令第十四號を以て小學校令ヲ公布せらる。其要旨左の如し。

小學校ヲ分チテ高等・尋常ノ二トシ、其設置區域及位置ハ府縣知事之ヲ定ム。

兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トシ、父母・後見人ハ學齡兒童ヲシテ普通教育ヲ受ケシムルノ義務アルモノトシ、父母・後見人ハ學齡兒童ノ尋常小學科ヲ卒ヘザル間ハ就學セシムベキコト。

私立學校ニ於テ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスル者ハ、豫メ府縣知事ノ認可ヲ經ベシ。土地ノ狀況ニ依リ、小學簡易科ヲ設ケ尋常小學科ニ代用スルコトヲ得。其經費ハ區町村費ノ支辨トス。

同年五月五日小學校の學科及其程度を左の如く改めらる。

尋常小學科

修身一時半、讀書・作文・習字十四時、算術六時、圖畫・唱歌・體操六時。

高等小學科

修身一時半、讀書・作文・習字十時、算術六時、地理・歷史四時、理科二時、圖畫二時、唱歌・體操五時、裁縫二時乃至六時、英語・農業・商業。

尋常科　圖畫・唱歌・體操、高等科　英語・農業・商業ハ土地ノ狀況ニヨリ一科若クハ數科ヲ加フルヲ得。

唱歌ハ缺ケモ妨ケナシ。

授業時間毎日凡五時間

修業年限　尋常四ケ年、高等四ケ年

土地ノ狀況ニ依リテハ、小學校ニ溫習科ヲ設ケ、六ケ月以上十二ケ月以內、兒童ヲシテ既習ノ學科ヲ復習シ、

且之ヲ修補セシムルコトヲ得。但尋常小學校ハ修業年限外高等小學校ハ修業年限内ニ於テ設クヘキコト。

教員教授ノ制限

教員一人尋常科八十人以下、高等科六十人以下。

教員二人ヲ置クトキハ三學級ヲ設クベシ。兒童數百二十人ヲ超ユルトキハ三學級トスベシ。

一ヶ年凡ソ八週日、及日曜日・大祭日・祝日ヲ休日トス。

同年五月二十五日左の如く小學簡易科要領を訓令せらる。

修業年限ヲ三ヶ年トシ、學科ヲ讀書・作文・習字・算術ノ四科トス。

兒童六十人以下ノトキハ學級ヲ分ツヲ得ズ。其他ハ尋常小學校ニ準ス。授業時間ハ毎日二時乃至三時、算術ハ

授業時間總テノ半以上。

（六）教育勅語・學事通則等

明治二十三年十月三十日教育に關する勅語の謄本を頒ち、文部大臣の訓示を各府縣管内公私立學校に交附し、聖旨の存する所を貫徹せしめらる。

同月法律第八十九號を以て、地方學事通則を公布せらる。

同月法律第九十號を以て市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料を公布せらる。

（七）明治二十三年小學校令

同年勅令第三百十號を以て小學校令を發布せらる。全編、小學校の本旨・種類・教科目・就學・設置、小學校に關する府・縣・郡・市・町・村の負擔、及授業料、小學校長及教員、管理及監督・附則の八章・九十六條より成り、茲に小學校制度の一紀元を劃し、完備せる現時の制度と大差なきものを見るに至れり。

其後小學校設備・教則・學級編成・教員資格・檢定・教員恩給・年功加俸・俸給・校醫等に關する勅令省令の發布改廢等ありたるも之を省畧す。

（八）明治三十三年小學校令

八月勅令第三百四十三號を以て、小學校令を改正せられ、同月文部省第十四號を以て同施行規則を發布せらるる是れ即ち現行法なり。

小學校令、總則・設置・教科及編制・設備・職員・費用負擔及授業料・管理及監督・附則、九章七十三條。

小學校令施行規則・教科及編制・設備・準則・就學・教員檢定及免許・職員・授業料・學務委員・代用私立小學校・幼稚園及小學校に類する各種學校、附則・十章二百二十三條。

明治三十六年三月勅令第六十二號、同四月勅令第七十四號を以て、小學校令中の一部及び之に伴ふ施行規則を省令を以て改廢せらる。

（九）義務教育延長及小學校令改正

明治四十年三月勅令第五十二號を以て、多年の宿題たりし義務教育を六ヶ年に延長せられたり。

大正八年小學校令及び小學校令施行規則の一部改正せらる。

（乙）實業補習學校法令の沿革

（一）明治二十三年小學校令中の實業補習學校に關する規定

明治二十三年の小學校令改正の際に、同法令第二條に「徒弟學校及び實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス」同第四十三條に「市町村ハ實業補習學校ヲ設立シ維持スルコトヲ得」等の條項の規程を加へられたるは、抑々我が國教育法令中に、實業補習教育に關する事項の現はれたる初なり。

（二）明治二十六年實業補習學校規定及び訓令

明治二十六年十一月時の文部大臣井上毅は大いに實業教育の振興を策し、文部省令第十六號を以て、新に實業補習學校規定を制定し之を發布せり。之れ我が國に於ける、獨立したる實業補習學校規定の初なり。同時に。井上文相は實業補習學校規程の趣旨・目的・實施上の注意等を懇切に訓示せり。

（三）明治三十五年實業補習學校規程

明治三十五年一月文部省令第一號を以て、明治二十六年文部省令第十六號實業補習學校規程を改正公布し、同時に實業補習學校の趣旨及び施設順序方法に關する訓令を發せり。

因に、今回の改正規程を明治二十六年の規程に比較せんに、修業年限は土地の情況及び職業の種類繁閑等に依り、生徒の修業に最も便宜なる時間及季節を擇びて教授することを得、又教科も極めて自由に制定することを得

小學校の外實業學校又は他の學校に附設することを得るやうにしたるは本規程の特色なり。

自由に經營することを得るやうにしたる等、前の規程よりも手輕く學校を設置し、

（四）大正九年實業補習學校規定の改正

大正九年十二月文部省令第三十二號を以て、明治三十五年の規程に大改正を加へ公布せり。これ即ち現行規程なり。其の後文部省より規程改正の要旨を發表して、改正規程の精神を明かにせり。即ち今回の改正の要點とするところは從來の簡單なる規程を改め其の內容を整備し、施設上準據すべき所を示し、實業補習教育の本旨を明かにし、修業年限及び教授時數につき標準を示し、教科目に必修科目と隨意科目及び選擇科目に關する規定を設け、以て生徒の學力職業の種類等に應じて、教授事項の選定その宜しきを得しめたること、及び女子に關する規程を設けたる等特色と認むべき事項極めて多し。

第四節　小學校・實業補習學校

（一）總說

大正十四年調、郡內小學校數三十六、內尋常高等小學校三十三、尋常小學校三にして、分教場十一を有す。就學兒童數一萬五千三百二十二人、內尋常科兒童一萬七千七十一人、高等科兒童二千二百五十一人、學級數二百八

十、內尋常科二百二十九、高等科五十一、教員數三百二十七、內男二百八人、女百十九人、教育費總額二十八萬九千八百九十三圓、教育費兒童一人當り十八圓九十二錢を算す。是を十五年前即ち明治四十三年のそれに比較せば、學校數に於て、尋常小學校一を減じ、尋常高等小學校四を增し、結局三校の增加を見る。次に、その他の事項の一箇年平均增加數を示せば、就學兒童に於て約三百二十人、學級數に於て約四・七、教員數に於て六・六人、教育費總額に於て一萬三千八百六十四圓、教育費兒童一人當りに於て約六十八錢に當る。

小學校と同じく、大正十四年調、郡內實業補習學校教三十二、就學生徒數一千八百十七人、學級數九十、教員數百五十三人、內專任教員十四人、實業補習教育費二萬二千四百十四圓、同上生徒一人當り約十二圓三十三錢を算す。是を十二年前即ち大正二年のそれに比較せば、學校數に於て十九、生徒數に於て一千三百五十七、教員數に於て百八、內專任教員一三、實業補習教育費總額に於て二萬二千二百九十九圓、同生徒一人當りに於て十二圓七錢の增加を示せり。實業補習學校は其の設置概ね小學校に附設若くは併設したる實業補習學校の校長は、何小學校に附設若くは併設なれば、その沿革を小學校に併記すれも小學校長の兼務に係るものなれば、本節に於ては小學校長の氏名とその在職年數とを記載し、實業補習學校長に係る事項は之を省略す。

（二）沿　革

□　二宮尋常高等小學校・二宮實業補習學校　所在　二宮村

明治二十年以來二宮村・院庄村學校組合を設け、雙松尋常高等小學校を經營し來りしが、時運の趨勢は其の獨立を促し、大正十年二月組合解散を議決し、大正十年度及び十一年度繼續事業とし、敷地一千四百四十三坪を劃し、土工並に建築に着手し、十一年三月末を以て本館一棟兩袖二棟小便室便所の大部分の工事を竣成し、同四月一日より開校、四月十日を以て新築落成式を擧行す。外に教室一棟は雙松校校舍の一部を移轉せしものにして、同五月初旬工事に着手し、八月末を以て完了す。大正十一年六月實業補習學校を併設し、同十月更に校舍の一部を以て二宮圖書館を開設す。

歷代校長氏名と其の在職年數

今井良平　一ヶ年　　濱田　中　大正十二年四月以來勤續中

□　院庄尋常高等小學校・院庄實業補習學校　所在　院庄村大字院庄

明治五年三月設立の二宮村立二宮小學校と、明治七年九月設立の院庄村・神戸村・戸島村の三箇村立岸上小學校とを、明治二十年五月二十日合併して、尋常雙松小學校を設置し、明治二十一年四月高等小學校を同校舍に設置し、明治二十六年十月尋常高等を併置せる小學校となし、大正十一年三月三十一日二宮村・院庄村の組合を解散し、同時に雙松尋常高等小學校を廢し、大正十一年四月一日院庄尋常高等小學校を設置す。

歷代校長氏名と其の在職年數

（雙松尋常高等小學校）

佐藤　雅之　一年　　谷許　一炳　三年二ケ月　　日笠　平吉　三年九ケ月　　出道　直　五年
内田又一郎　五年二ケ月　　片尾　繁藏　十四年　　今井　良平　三年

（院庄尋常高等小學校）

中村儀太郎　二年六ケ月　　杉山恒治郎　一年六ケ月　　藤田　知之　大正十五年四月以來勤續中

□　芳野尋常高等小學校・芳野實務學校　所在　芳野村大字古川

本校は明治五年の創立に係り、當時古川村寶性寺内にありて、六々仁品小學校と稱せしが、同七年現位置に移し、千之小學校、同二十年四月尋常千之小學校、同二十六年四月芳野尋常小學校と改稱し、同四十一年四月芳野村外四ヶ村組合立竹田高等小學校の組合廢止に依り、本校に高等科を併置し芳野尋常高等小學校と稱す。大正二年四月芳野實業補習學校を小學校に附設す。同八年三月組織を變更して芳野農業補習學校と改稱、同十年四月規程改正に依り小學校に併設となる。同十二年四月芳野實務學校と改稱す。

歴代校長氏名と其の在職年數

松永　量藏　二年三ケ月　　毛利　元治　三年二ケ月　　中島　歸一　三年三ケ月
小林淺太郎　一ケ年　　渡部　惟明　八ケ月　　原田定治郎　不詳
齋藤　敬止　不詳　　太田　廣藏　不詳　　坂手　盛夫　六年九ケ月
原田　京平　四年三ケ月　　川井俊一郎　四年五ケ月　　和仁　稱市　三年七ケ月

鄉村學校附近の景

富村學校附近の景

青木　與三　六年七ヶ月　　瀬島彌一郎　五ヶ年
池上　準　大正十四年十二月以來勤續中　　椋代佐一郎　六年三ヶ月

□ **鄉尋常高等小學校・鄉實業補習學校**　所在　鄉村大字薪森原

明治七年八月鄉村大字薪森原字西峪に新設し、盈進小學校と稱す。同二十一年十一月現位置に移轉新築す。同二十六年十月鄉小學校と改稱す。同二十九年五月裁縫專修學校を附設す。同四十一年四月高等科を併置し、鄉尋常高等小學校と改稱す。大正四年九月舊校舍を改築し新に本館一棟を增築す。大正六年三月農業補習學校を附設す。同九年三月裁縫專修學校を補習學校に合併す。十一年一月附設圖書館を設置す。同十二年三月鄉農業補習學校を鄉實業補習學校と改め併設校とす。同十五年四月鄉實業補習學校男子部を廢し、久米郡格致公民學校に依托敎授とす。

歷代校長氏名と其の在職年數

渡邊　孝　二ヶ年　　戶田　登　六ヶ年
出　道直　四ヶ年　　杉本　新　五ヶ年
居森藤一郎　五ヶ年　　藤田　知之　三ヶ年
岩本　猛夫　一ヶ年　　小出　收　一ヶ年
日笠　平吉　四ヶ年　　片山　尙道　十三年
居森　柳市　大正十三年四月以來勤續中

□ **大野尋常高等小學校・大野實業補習學校**　所在　大野村大字土居

明治七年六月西々條郡小坐・瀨戶・貞永寺・土居の四箇村聯合して、土居村に在る民家を校舍に充て、切磋小

學校と稱す。是と同時に和田・圓宗寺・竹田の三箇村聯合して圓宗寺村吉祥寺の一部を借受け校舍に充用し、自修小學校と稱す。（當時西北條郡沖・澤田・市場の諸村より便宜通學せり）

明治十三年五月寺院祝融の災に遭ひしにより更に校舍を圓宗寺村字中島に新築し、明治十四年移轉せり。明治二十一年圓宗寺村字中の村に更に改築す。

明治二十一年町村制の實施に際し、貞永寺・瀨戸・土居・圓宗寺・和田・竹田を合併し以て大野村　稱し、依然二校を存置す。明治二十四年自修切磋の名稱を廢して、尋常大野小學校と稱し、舊切磋校は分教場の姿となる

明治二十六年四月大野尋常小學校と改稱し、大字土居に新築す。明治三十四年十一月圓宗寺に移轉改築す。明治四十一年四月高等科を併置し、大野尋常高等小學校と稱す。同時に教室一棟を增築し七學級に編制す。同四十四年十一月講堂兼雨天體操場を增築す。大正三年教員住宅一棟新築す。

大正六年四月大野農業補習學校を小學校に附設す。大正十年四月規程改正に依り併設となる。大正十二年四月學則を改正して大野實業補習學校と改稱す。

歷代校長氏名と其の在職年數

赤井　定治	不詳	池上茂太郎	三ヶ月
池上　滋	四ヶ年	日笠　平吉	六ヶ年
池上　滋	一年八ヶ月	池田　唯男	五年四ヶ月
		永田　密藏	十二年八ヶ月
		池田　守平	九ヶ月
		池上　均一	大正十年十二月以來勤續中

□ 小田尋常高等小學校・小田農業補習學校　所在　小田村大字上森原

明治九年七月小田村大字上森原・下森原・馬場・塚谷・及中谷村大字入の五大字聯合して、塚谷に琢磨學校を建設す。其後中谷村入に移轉し、修齊小學校と改稱す。明治二十三年五月第一支校を大字下森原に設置す。同二十七年分離し、小田尋常小學校と改稱し、單級に編制す。同年七月校舍を增築す。同三十年四月二學級に編制す同四十一年四月高等科を併置し、小田尋常高等小學校と改稱し、同十二年四月校舍を增築す。大正元年十月實業補習學校を附設し、同八年五月農業補習學校と改稱し、同十年四月併設とす。

歷代校長氏名と其の在職年數

小川喜左衛門	不詳	齋藤河太郎	不詳
瀨島　正	不詳	白石精一郎	五年八ヶ月
齋藤　茂雄	十三ヶ年	河本　清一	大正十三年四月以來勤續中
		杉　梅之治	不詳
		齋藤達太郎	五年九ヶ月

□ 中谷尋常高等小學校・中谷農業補習學校　所在　中谷村大字中谷字湯指

明治二十年四月小田・中谷兩村學校組合を設け、自近・琢磨の兩校を合併し、修齊尋常小學校を中谷村大字入に創立す。同二十六年四月學校組合を解散し、中谷村立となし、二學級に編制す。同四十一年四月高等科を併置し三學級に編制、修齊尋常高等小學校と改稱す。同四十二年現校舍を新築し。中谷尋常高等小學校と改稱す。同四十三年五月村内近衛尋常小學校を合併し、近衛分教場を設置す。大正四年四月分教場に尋常六年までを收容

す。同四年十月一學級を減して四學級に編制せしが、同六年四月に至り再び五學級に復歸し、同九年四月より六學級に編制同十五年四月七學級に編制す。

明治四十五年二月中谷尋常高等小學校に、近衛實業補習學校を近衛分教場に附設す。大正十二年四月中谷農業補習學校及び近衛農業補習學校を小學校に併設す。大正十五年四月近衛農業補習學校を廢し、中谷農業補習學校に併合す。

歴代校長氏名と其の在職年數

池上茂十郎	十七年十ヶ月	高田德一郎	二ヶ年
田淵　健作	七ヶ月	河野勅五郎	一年三ヶ月
大林　利雅	八ヶ月	池上　準	一年四ヶ月
		齋藤　茂雄	大正十三年四月以來勤續中

□ 富尋常高等小學校・富實業學校　所在　富村大字富西谷字宮原

明治七年八月初めて富西谷長善寺に收容小學校を新設す。近郷の諸村より入學するもの多し。後富西谷字入間に移轉、更に富西谷字清水に校舍を新築し、明治十六年該校舍狹隘の爲め、富西谷字富原に移し、明治二十三年十一月現今の處に校舍を新築して尋常富小學校と改稱す。明治二十六年四月富尋常小學校と改め、同三十三年六月高等科を併置し、富尋常高等小學校と改稱す。同三十四年十二月本校を改築し。併せて一棟を增築す。同三十七年併置高等科を廢して農業補習學校を新設せしも、同四十年再び舊の如く高等小學科を併置とし、附設富農業

補習學校と稱す。同四十二年教室一棟を增築す。

余川分教場　明治十三年四月兒童通學の不便より大字富西谷篠坂に分教場を設置し、後現今の余川に移し、大正九年十二月校舍を改築す。

大正十三年乃至十四年舊校舍二棟を改築し、同十四年東校舍を移轉し運動場を擴張す。

大正十四年六月學則に改正を加へ、富實業學校と改稱す。

歴代校長氏名と其の在職年數

山口　重紀	不詳	石井　賢明	不詳
小出　收	不詳	池上茂十郎	不詳
清水源治郎	十一ヶ月	高田德一郎	六ヶ月
福田　圓二	六年九ヶ月	池上　準	三ヶ年
		押阪　賢平	不詳
		押阪米久美	不詳
		美土路　壽	七ヶ月
		福井　武道	大正十一年十一月以來勤續中
		廣山　輝雄	不詳
		渡邊鉾一郎	三年九ヶ月
		中江　幸平	四ヶ年

□ 興基尋常小學校　所在　富村大字大下在所（今の大字大）

明治七年十二月六日の創立にして、當時楠村（今の大字楠）に於て民家を教場に假用せり。後明治十四年大村下在所に地を卜し校舍を新築す。明治三十六年同所に地を大村中在所に移して新築移轉す。明治四十二年第五學年の課程を新設し、大正五年十二月實業補習學校を附設し、同十三年三月之を廢す。

歷代校長氏名と其の在職年數

仁木　永祐　不詳　　堀　某　不詳　　押阪　賢義　不詳　　石原　某　不詳
廣山　輝雄　不詳　　半　文太郎　不詳　　原田　某　不詳　　阪根　平吾　不詳
信澤　某　不詳　　青山　某　不詳　　丸尾晉五郎　不詳　　香山　賢明　不詳
小谷　某　不詳　　廣山　輝雄　二ヶ年　　篠山　正喜　二ヶ年　　佐原　作彌　七ヶ年
永田　密藏　三ヶ年　　小坂田逸平　明治四十三年以來勤續中

□ 久田尋常高等小學校・久田實業補習學校

所在　久田村大字久田下原

明治七年八月二十七日開校し、第四大學區第七中學區第十七第十八聯區美作國西西條郡黑木村近知小學校と稱す。明治十一年十月箱村に支校を設けて第十八區近知小學校支校と稱す。明治十五年三月本支兩校を合併し、久田上原外四ヶ村近知小學校と稱し、明治十九年一月久田下原自勵小學校を併合し、久田上原外六箇村近知小學校と改稱す。明治二十六年七月久田尋常小學校と改め、明治三十二年六月泉村大字箱及同杉の一部を泉村に分屬し久田村を以て通學區域とす。明治三十三年六月高等科を併置し久田尋常高等小學校と稱し、同年十一月裁縫專習學校を附設す。同七年四月久田實業補習學校を附設し、同十年三月裁縫專習學校を廢し、生徒を久田實業補習學校に併す。大正十年併設となり、以て現今に及ぶ。

歷代校長氏名と其の在職年數

下井　英智　四ヶ年　　牧野　右一　不詳　　平野　淵藏　不詳　　馬場　信輝　三年八ヶ月
片山　義雄　二ヶ年　　植月　寅吉　三年六ヶ月　　太田　廣藏　二ヶ年　　光永德治郎　二年三ヶ月
兒島格次郎　四ヶ月　　杉　梅之治　七ヶ月　　丸尾晉五郎　一ヶ年　　井上　賴甫　十ヶ月
河野勅五郎　二ヶ月　　影山　一雄　二ヶ年　　河野勅五郎　六ヶ月　　坂田　義一　五ヶ年
居森　柳市　二年九ヶ月　　日笠　平吉　二ヶ年　　野崎意登七　五年五ヶ月　　青井　荒一　三年一ヶ月
福田　三郎　大正十四年四月以來勤續中

□ 泉尋常高等小學校・泉農業補習學校

所在　泉村大字女原

明治三十三年六月泉東・泉西の兩尋常小學校を併合して泉尋常小學校と改稱し、現在の位置に設く。從來尋常科卒業生は久田外五箇村立久田高等小學校に通學せしが、同三十三年組合解散の結果、泉・羽出兩村組合を以て泉高等小學校を設置せり。然るに時勢の進運に伴ひ同三十七年高等小學校の組合を解き、更に地方的施設として實業教育の必要を感じ、同年泉・羽出兩村組合にて泉農業補習學校を設置せしも、通學距離の關係上、同三十九年三月同組合を分離して、同年四月泉村單獨にて泉農業補習學校を設置す。次で明治四十年四月泉尋常小學校に高等科を併置し、泉尋常高等小學校と改稱し、從來の農業補習學校を附設す。其の後校舍狹隘を告げ明治四十三年本館一棟及附屬建物を增築せり。大正十五年十月四教室及び宿直室等を增築す。

大正十年四月規程改正に依り小學校に併設となり、泉農業補習學校と改む。大正十五年十月補習學校專用教室二室を建設す。

歷代校長氏名と其の在職年數（明治三十三年以前未詳）

松原律太郎　一年七ヶ月　　永田　勇　四ヶ年
池田　唯男　五年四ヶ月　　居森　柳一　四年二ヶ月
廣山　武雄　一ヶ年　　杉山　增男　大正十三年四月以來勤續中

□ 羽出尋常高等小學校・羽出實業補習學校　所在　羽出村大字羽出

明治八年四月八日村内光明寺本堂を以て假校舍に充て、開校、同十七年四月泉源分教場を設置し、並に多期間西分教場を開設す、同二十八年十二月校舍新築、同四十年四月一日高等科を併置し、同時に農業補習學校を附設す。同四十三年校舍一棟增築、同四十四年運動場を擴張し、大正四年十一月西谷分教場を新築し、同六年四月より通年に改む。同七年二月校舍一棟燒失、同八年校舍一棟增築、同十年四月附設農業補習學校を併設に改む。同十二年五月運動場を擴張す。同十二年六月農業補習學校學則を改正して羽出實業補習學校と改稱す。同年九月東宮殿下御成婚記念事業として、小學校基本財產拾萬圓蓄積條例を議決し、實行に着手す。同十五年四月實業補習學校實習田三段歩・實習林三十町歩を設定す。同年六月實業補習學校專用教室を新設す。

歷代校長氏名と其の在職年數

居森藤一郎　一ヶ年　　石井　信男　九ヶ月
難波　甫　一ヶ年　　水島　徹一　四年一ヶ月
杉山　增男　大正十三年四月以來勤續中

黑瀨桂次郎　不詳　　久保　貞治　不詳　　前原　貢　不詳　　佐藤雅次郎　不詳
井尾　萬平　不詳　　上原總治郎　不詳　　宮尾　貢　不詳　　小谷　貞吉　不詳
豊福　秀臣　不詳　　河野勅五郎　不詳　　片尾牧九郎　不詳　　瀨島　正　五ヶ月
兒島格治郎　一年六ヶ月　　尾崎平四郎　六ヶ月　　河井　熊市　二年六ヶ月　　武本總治郎　一ヶ年
松本　雅治　一ヶ年　　阿部　還　一ヶ年　　橋本保三郎　一ヶ年　　町田　守夫　一ヶ年
永禮　剛一　八年三ヶ月　　河野勅五郎　二年九ヶ月　　河本　清一　三ヶ年　　難波　保　二年三ヶ月
友末　慶次　大正十五年七月以來勤續中

□ 奥津尋常高等小學校・奥津農蠶學校・奥津實科女學校　所在　奥津村

本校は明治八年の創立にして、元及泉小學校とも稱せり。同二十六年奥津尋常小學校と改稱す。同三十三年奥津・上齋原兩村組合立高等小學校を同地内に設置し、同三十七年四月之を農業補習學校と變更せしが、同三十九年三月組合を分離して同年四月單に奥津村立農業補習學校を設置したり。同四十年四月奥津尋常高等小學校と改め、農業補習學校を併置す。大正十四年四月農業補習學校の學則に大改正を加へ奥津農蠶學校・奥津實科女學校と改む。

歷代校長氏名と其の在職年數

平岩扶佐吉　三ヶ年　　香山　賢明　一ヶ年
牧　六郎　二ヶ年　　片岡平一郎　一ヶ年

増兒　武男　一年四ヶ月　牧野綉治郎　七年七ヶ月　丸尾芳五郎　二ヶ年　武本總治郎　十五ヶ年
光永德治郎　十九ヶ年　關藤　忠繁　一年八ヶ月　山本彦四郎　大正十五年一月以來勤續中

□ 上齋原尋常高等小學校・上齋原農業補習學校　所在　上齋原村字木路西

上齋原尋常高等小學校は明治十年一月十日の創立にして、初めは源泉小學校と稱し、久しく民家を假用せしが明治二十一年字本村に校舍（建坪五十八坪）を新築、同二十六年源泉尋常小學校と改稱、同三十九年四月農業補習學校を附設す。翌四十年三月六日高等小學校を併置し、同時に上齋原尋常高等小學校と改め、四十年五月字木路西に校地を相して建築（建坪八十五坪）工事に着手し、十月移轉す。大正七年第二校舍を增築、字赤和瀨・字小林に各分教場を設置す。大正十三年第三校舍を增築す。

實業補習學校は明治三十九年四月、村立源泉尋常小學校に之を附設せしを最初とす。然るに補習學校はその實質に於ては高等小學校と殆ど異らず。翌四十年二月學則を變更して、一部生徒を高等小學校に引直し、生徒を第一種・二種に分ち、男子は一種に屬し、修業年限二年、女子は第二種に屬し、修業年限三年とし、男子は通年夜間教授、女子は季節教授とす。大正三年三月再び學則を改正し、女子を通年制とし、男子の修業年限を三年となせり。大正十二年四月學則を改正し、男子を通年制晝間修業年限五ヶ年、別に專攻科一ヶ年、女子を四ヶ年、專攻科一ヶ年とせり。

歷代校長氏名各の其在職年數

平岩　房吉　不詳　山本　某　不詳　河野浦太郎　不詳　村上　某　不詳
高岩　彊二　一ヶ年　渡邊　茂美　八年六ヶ月　瀨島文一郎　三年三ヶ月
藤木　莊江　明治三十九年三月以來勤續中

□ 津山男子尋常高等小學校　所在　津山町大字山下

明和二年津山藩學問所を城内山下に創設し、經書を講じたるは實に津山に於ける學校設立の濫觴にして、亦本校創設の素因をなすものと傳へらる。後天保・安政兩度の改革を經て、維新後更に規模を擴張し修道館と改稱す學制頒布以前教育の事已に見るべきものありしなり。明治七年五月鶴山學校を設け、舊藩士族の子弟の就學する所となせり。明治二十年高等鶴山小學校と改稱し、津山町・津山東町（現今津山町となる）林田村（現今の津山東町）東苫田村・西苫田村・東一宮村・田邑村の二町五箇村の聯合を以て設立す。後鶴山高等小學校と改めしが、明治三十四年四月組合を解除し、津山高等小學校を設立し、鶴山城趾の西北なる舊校地を擴張し、校舍を新築し、同三十六年四月此所に移轉す。是より先、明治三十四年御眞影を下賜せられ、三十七年設備良好・教授・管理優良なるの廉を以て、岡山縣知事より賞金を受けたり。然るに就學兒童の激增と義務教育の延長とに伴ひ、明治四十年四月教室を增築し、同四十一年四月男兒のみを就學せしめ、尋常科・高等科（三箇年）を併置し、津山男子尋常高等小學校と改稱せり翌

四十二年及び四十三年に亘り六教室を、四十年物置一棟外一室を、四十五年教室一棟を增築し、大正七年教務室を、同十二年理科教室を擴張し、同十三年手工教室一棟を新築し、且つ運動場の擴張をなせり。同十四年十二月皇太子殿下御成婚記念として、御眞影奉安所を建設す、

歷代校長氏名と其の在職年數

尾上	政繼	三年七ヶ月	木村 知治 二年十ヶ月
齋藤	敬止	不明	渡部 惟明 二十三ヶ年

□ 津山女子尋常高等小學校・津山實業學校

所在 津山町大字山下

明治五年頒布せられたる學制に遵ひ、明治七年津山に日新・成器・時習・鶴山・開智の五小學校を創設す。後開智を時習に、鶴山を成器に合併し、鶴山は後に復興せり。明治二十年津山尋常小學校を置き、成器を以て、本校に充て、時習日新を以て分校に充つ、明治三十二年二月十九日新築校舍落成す。明治三十四年三月奬勵金下賜明治四十一年高等科を併置し、津山尋常高等小學校と改稱す、明治四十二年特別教室增設、明治四十三年敷地六百餘坪購入、明治四十四五兩年度に於て二教室增築、大正七年塚本記念圖書館を建設、大正八年一教室增築、大正十年中之町に假校舍一教室を設け、大正十二年四月一日尋常科三ヶ學級を津山西尋常小學校に分割し、同年度中本校舍の西北方に裁縫科教室一棟を新築す。同十四年八月皇太子殿下御成婚記念として、御眞影奉安所を設く

大正九年七月津山商工補習學校を津山尋常高等小學校に附設す。大正十一年四月津山實業學校と改稱、現今に

至る。

歷代校長氏名と其の在職年數

植月	皓	三十二年八ヶ月	牧馬 一年三ヶ月
梶村	滋三	大正十年四月以來勤務中	

□ 津山西尋常小學校

所在 西苫田村大字小田中

津山町は近年就學兒童著しく增加したるため、男女兩尋常高等小學校の外に、新に尋常小學校を設立せんとするの議起り、大正十一年八月二十一日之が・位置の指定を受け、同年十二月二十二日新校舍建築認可せらる。第一期工事にて、教室二棟及渡廊下便所一棟・物置一棟の建築を、同年十二月二十八日起工す。然れども時恰も寒氣凜烈降雪頻々工事進まず。新學年開始期に至るも工事の竣成を見ざるにより、其の筋の認可を得て、十二年四月一日より、本源寺及び津山商業學校寄宿舍・中之町の民家を假校舍とし、尋常三年以下の男女六個學級を收容して授業を開始し、爾來每年校舍を增築し、同時に每年二個學級宛を增加し、大正十五年度始に於ては尋常科各學年完成し十二個學級を算す。

歷代校長氏名と其の在職年數

和田	義德	大正十二年四月以來勤續中	

□ 苫田尋常高等小學校・西苫田實業補習學校

所在 西苫田村大字山北

明治七年總社・他五箇村聯合して山北村の一民家を校舍に充て、同年八月三日開校式を擧行し、修明小學校と

稱。明治二十年三月尋常小學校と改稱、同二十五年八月大字總社字横野土居に校舍を新築す。同四十一年四月大字山北にある元苫田高等小學校に移り。教室一棟を增築の上高等科を併置し、苫田尋常高等小學校と改稱す。大正四年六月運動場百七十四坪を擴張し、同七年三月教室一棟、同十一年四月教室四室を增築し、講堂を擴張す大正十五年隣地を購入して教員住宅二棟を新築す。

西苫田實業補習學校は大正八年五月小學校に附設す。後規程改正の結果併設とす。

歷代校長氏名と其の在職年數

加藤平四郎	二ヶ年	戸田　登	二ヶ年	佐藤謙一郎	一ヶ年
菅沼　定光	三ヶ年	稻垣　甚一	ヶ年	小林彌平治	十ヶ年
永井　正俊	三ヶ年	藤木　莊江	五ヶ年	大谷　裕一	ヶ年
太田　廣藏	十五ヶ年	今井　良平	大正十二年四月以來勤續中	村島　渚一	ヶ年

□一宮尋常高等小學校　所在　一宮村大字西田邊

明治七年九月設立精勤學校と稱し、同十三年三月一宮簡易科小學校と改稱す。同二十年尋常一宮小學校、同二十三年一宮尋常小學校と改稱、同三十九年校舍を新築し、同四十二年高等科を併置す。大正八年農業補習學校を附設す。同十年四月一宮農業補習學校を併設に改む。大正十五年六月一宮外三箇村立中央公民學校の新設せられたるに依り、一宮農業補習學校を廢止す。

歷代校長氏名及び其の在職年數（備考明治二十九年以前不詳）

坂田牧太郎	二年九ヶ月	山本增太郎	六ヶ月	高橋勝治郎	十ヶ月
下山　楢夫	二年	松尾和太郎	二年六ヶ月	大谷京左衛門	五ヶ月
池淵繁五郎	二年四ヶ月	福田　庄七	九ヶ月	山本　荒一	一年十ヶ月
長森繁一郎	二ヶ年	今井　哲夫	二年八ヶ月	早瀨　孝	大正十四年四月以來勤續中

永禮榎重郎　二ヶ年

□田邑尋常高等小學校・田邑實業補習學校　所在　田邑村大字上田邑字平田

明治七年四月の創立にして、當時本村大字上田邑引乘寺客殿を教場に假用し、青山館と稱せしが、同年七月田邑小學校と改稱せり。明治十一年十月九日元會議所跡に移り、同二十三年十月十九日大字下田邑字金粟の新築校舍に移轉す。同四十一年四月義務教育延長の實施に際し高等科を併置し、田邑尋常高等小學校と稱す。同年七月二十八日現在校舍の新築成りて移轉す。大正四年三月二十六日教授訓育成績優良なるの故を以て本縣知事より選奬せらる。大正六年五月田邑實業補習學校を附設し、同十五年七月校舍一棟增築。同十二年四月運動場擴張工事を起し、同八月竣工す。同年四月併設、

歷代校長氏名と其の在職年數

繁定　阮良	十六年十ヶ月	田村昌一郎	七年十ヶ月	岡本嘉治郎	一年ヶ四月
多賀　授平	一年五ヶ月	中村久太郎	五年八ヶ月	居森藤一郎	二年五ヶ月

今田　丞　十四年七ヶ月　　二木　幸正　二年十一ヶ月　　坂谷　榮一　昭和二年二月以來勤續中

□　香々美尋常高等小學校・香々美農業補習學校　所在　香々美南村大字香々美

明治七年本村大字香々美に不休尋常小學校を設立し、寺和田・香々美の兒童を收容し、公保田・市場・澤田・沖の兒童は大野村自修校に通校せしめしが、明治十二年分離して、澤田に成修尋常小學校を設置し、以後此の兩校に於て本村兒童の一部をして尋常科の課程を修めしめたり。

次て明治二十年に至り本村並に一宮・香々美三箇村組合を以て、大字香々美に鏡水高等小學校を設置せり。然るに明治四十一年義務教育年限延長の實施に際し組合を解散し、同時に前記二尋常小學校を廢し、新に現在の地を卜して校舍を建築し、香々美尋常高等小學校を設置せり。其後兒童數大い增加し同四十五年一月教室一棟を增築し、同時に運動場を擴張す。現に再び校舍增築及び運動場擴張工事中なり。

大正五年四月香々美尋常高等小學校に香々美農業補習學校を附設し、大正十年四月改正規定に依り小學校に併置とす。同十二年學則を改正し以て現今に及ぶ。

歷代校長氏名と其の在職年數

（成修尋常小學校）

堀江	壽雄	不詳	吉野敏之助	不詳	池上茂十郎	不詳
數見	保業	不詳	村次	常武	不詳	近藤	敬孝	不詳	柳田	靜一	不詳

植月　寅吉　二年九ヶ月　白石精一郎　不詳　　齋藤河太郎　不詳　　衣笠　正夢　不詳

（不休尋常小學校）

牧元	禎	不詳	畝木	愿道	不詳
畑	譽治郎	不詳	小須賀義滿	十ヶ月	下井	英智	九年九ヶ月
上垣良右衛門	七ヶ月	河井	熊市	一年	下井	英智	十四年三月
					前原勝之助	二年

（鏡水高等小學校）

下井	英智	三年九月	衣笠武四郎	四年二ヶ月	植月	寅吉	六年一ヶ月
椋代佐一郎	四年九ヶ月				光井清三郎	一年十一ヶ月

（香々美尋常高等小學校）

椋代佐一郎	一年一ヶ月	池上	均一	九年十一ヶ月	片尾	繁藏	三年四ヶ月
衣笠	壽夫	大正十二年四月以來勤續中					

□　香北尋常高等小學校・香北實業補習學校　所在　香々美北村大字眞經

明治五年頒布せられし學制に據り、明治七年八月西北條郡百谷・眞經・大町の三箇村組合を以て眞經村字桐坂に創立し、誠之小學校と稱し。明治十三年五月當經村字吉藤に校舍を新築し移轉す。同十二月簡易小學校と改め同二十七年一月香北尋常小學校と改稱す。同四十二年四月高等科を併置し香北尋常高等小學校と改稱、同時に分

教場を廢し、越畑尋常小學校を設置す。同四十二年五月校舍改築落成す。同四十五年一月附設圖書館の新築工事成り、大正二年四月實業補習學校を附設す。同十年四月同校を併設とす。大正十五年十二月校舍增築工事成る。

歷代校長氏名と其の在職年數

吉井	龜助	不詳	今村重太郎	不詳	
大野	咸了	十三年十ヶ月	武久	義輝	六ヶ月
池淵繁五郎		九年九ヶ月	二木	幸正	二年四ヶ月
杉山恒治郎		大正十四年四月以來勤續中			

□ 越畑尋常高等小學校・越畑實業補習學校

所在　香々美北村大字越畑

本校は明治八年一月の創設にして、當時岩屋村・越畑村を以て學區とし、章明校と稱す。同十九年二月學令の改正により簡易小學となる。同二十七年香々美北村立香北尋常小學校分教場となる。同四十二年四月獨立して越畑尋常小學校と稱す。同四十三年校舍を新築す。大正六年四月高等科を併置す。同八年十二月實業補習學校を附設す。同十年四月同校を併設とす。

歷代校長氏名と其の在職年數（附、分教場主任）

大野	咸了	不詳	佐原	作彌	不詳
沼本	勇吉	不詳	高橋	定平	不詳
掘岡多郎平		不詳	治部	謙	不詳
築山	啓一	不詳	奥田	清一	不詳

藤田　文一　六ヶ年　安田　義一　十年七ヶ月　牧

景山　收　大正十四年九月以來勤續中

□ 林田尋常高等小學校・津山東町實業學校

所在　津山東町大字川崎

明治七年八月元東南條郡野介代村・林田村・川崎村を一學區として現今の地に校舍を創設し、第九區第十二番區玉琳尋常小學校と稱す。明治二十四年小學校令の改正により、尋常科に從來の校舍及校名を存續し、高等科は組合を以て津山町に鶴山高等小學校を設置、通學せしむ。明治三十四年七月組合を脫し校舍を增築して高等科を併置し、林田尋常高等小學校と稱し、同年十月開校す。爾後兒童の增加に伴ひ、校舍を增築す。明治四十年五月林田女子實業補習學校を附設し、大正八年三月男子部を設け、林田實業補習學校と稱す。同十二年五月學則を變更して、津山東町實業學校と改稱し今日に及ぶ。

歷代校長氏名と其の在職年數

馬場	訒	不詳	上原滿壽吉		不詳
村次	常武	不詳	杉田	榮	十年二ヶ月
植月	寅吉	二十三年六ヶ月	青井	荒一	大正十四年四月以來勤續中
難波方四郎		不詳	北島文治郎		不詳
石井	信男	二年九ヶ月	馬場	温夫	一年五ヶ月

□ 高野尋常高等小學校・高野實業補習學校

所在　高野村大字高野本鄕

本校は明治七年十二月の創立にして、當時本村永案寺を以て假校舍に充つ。同九年高野山西所在山崎學校を本

校に合併す。同十四年高野本郷川東に分教場を設く、同二十二年十月野所在成名尋常小學校を支校とし、同二十六年分離す。同三十一年校舍を改築す。同三十一年川東分教場を廢す。同三十五年十月校舍を增築改修す。同四十一年高等科を併置し、校名を高野尋常高等小學校と改む。同四十三年十二月校地を擴張し校舍を增築改修す大正十年四月高野實業補習學校を小學校に併設す。

歷代校長氏名と其の在職年數（備考明治二十二年以前未詳）

難波方四郎　十五年　　今田　亟　七ケ年　　今井　良平　九ケ年　　美土路　壽　四ケ年

福田　圓二　大正十二年四月以來勤續中

□ 成名尋常小學校　所在　高野村大字野字川除

本校は明治十年九月十五日の創設にして成名小學校と稱す。同二十三年尋常高野小學校の支校となりしが、同二十七年二月小學校令改正の際高野村外二ケ村の組合立となり、同四十二年九月十四日該組合を解散し、翌十五日高野村成名尋常小學校を設置し、現校舍を借り受けて開設す。而して苫田郡高野村大字野の就學兒童を收容し苫田郡神庭村大字草加部及び勝田郡勝加茂村大字楢に於ける就學兒童の委托を受け、以て今日に至る。

歷代校長名と其の在職年數

松波　砂　八年四ケ月　　大土井哲孜郎　三ケ年　　近藤　市藏　六年二ケ月　　近藤　市藏　二十年

前原勝之助　三年八ケ月　　岸本　武夫　五年六ケ月　　難波　保　大正十五年七月以來勤續中

□ 中道尋常高等小學校　所在　東苫田村大字勝部

明治五年學制頒布に遵由し東南條郡志戸部・沼・大田の三ケ村組合にて志戸部村字池奥八幡社內に有章小學校を又同じく勝部・籾山二ケ村組合にて勝部大帶寺に日就小學校を創立す。明治十七年兩校を合併して中道小學校と改稱し、翌十八年校舍を新築し、尋常中道小學校と稱し、三十六年現今の位置に校舍を新築し、四十年より尋常科修業年限を六箇年とし、高等科を設置、同年新校舍一棟を增築、中道尋常高等小學校と改稱現今に至る。大正九年四月一日中道農業補習學校を附設し、十年四月併設に改む。十五年七月一日廢校とす。

歷代校長氏名と其の在職年數

尾上　政健　不詳　　馬場　訒　不詳　　宮田　讓　不詳　　村上淡治郎　不詳

小須賀義高　不詳　　福田　正道　不詳　　沼本　淑　不詳　　平野　淵藏　不詳

牧　膺治　不詳　　田中　敬一　不詳　　關　養治郎　不詳　　佐藤　謙　不詳

前田龜太郎　不詳　　下山　楯夫　不詳　　馬場　濕夫　一ケ年　　早尾靜一郎　五ケ年

菅沼　澄夫　八年六ケ月　　藤田　知之　四年六ケ月　　安東　礎　一年五ケ月　　長森繁一郎　三年十ケ月

岸本　武夫　大正十五年七月以來勤續中

□ 東一宮尋常高等小學校　所在　東一宮村大字東一宮

明治七年八月十日東一宮村字寺山・觀喜山觀音寺の舊屋を教場に假用し知新小學校と稱す。此の時東一宮山方

字鳥羽小學校を開設したりしが。同十年兩校を合併し、尋常知新小學校と改稱し、後再び東一宮尋常小學校と改稱す。明治二十八年教室及使丁室を同四十一年現在校舍を新築し、同時に高等科を改稱し、東一宮尋常小學校と稱す。同四十三年運動場を擴張し、大正八年農業補習學校を附設し同十年四月併置となる。大正十五年一月校舍一棟を增築す。同年六月本村三箇村組合立中央公民學校新設につき、東一宮農業補習學校を廢止す。

歷代校長氏名と其の在職年數

中島 歸一	不詳	高田 正道	不詳	中島 歸一	不詳
竹本美龜夫	不詳	前田龜太郎	三年七ヶ月	平尾 文平	六年七ヶ月
初川 節義	七年三ヶ月	原田 京平	二年五ヶ月	初川 節義	七年三ヶ月
高田 京平	二年五ヶ月	片岡 竹市	五年四ヶ月	關 好五郎	二ヶ年
衣笠 壽夫	四年五ヶ月	安東 礎	二年七ヶ月		
池上 辰二	大正十四年四月以來勤續中				

□ 清泉尋常高等小學校・清泉實業學校　所在　神庭村大字綾部

明治十八年東北條郡神庭村立神庭小學校と、勝北郡瀧尾村立精業小學校とを併置せしが、同二十六年七月二十五日始めて學校組合を設け、清泉尋常小學校を創立す。明治四十一年義務教育延長と共に高等科を併置し、清泉尋常高等小學校と改稱す。同年校舍改築の議起り、十月現在の位置を卜して、改築に着手し四十二年五月二十日

落成し以て今日に至りしが、遂年兒童の增加は運動場の擴張を要求し、遂に大正十二年四月九日より着手し、五月二十六日竣工す。

因に高科等併置以前は神庭村尋常卒業生は高野村鴨川高等小學校に、瀧尾村卒業生は勝加茂村勝北西高等小學校に通學し居れり。

明治四十五年四月清泉實業補習學校を小學校に附設し、專ら男子の補習教育を施したりしが、時代の要求は女子部の附設を促し、遂に大正七年六月女子部を併置す。同九年十二月規程改正に依り清泉小學校に併設す。更に十四年四月學則の改正を行い、同時に清泉實業學校と改稱す。

歷代校長氏名と其の在職年數

天笠 健太	不詳	畑 麥治郎	不詳	三宅 泰	不詳
岸本 美時	不詳	安田 清忠	不詳	關 好五郎	不詳
早瀨 直八	二年五ヶ月	居森藤一郎	五年七ヶ月	今井 密雄	大正五年四月以來勤續中

□ 高倉尋常高等小學校・高倉實業學校　所在　高倉村大字下高倉西

明治九年四月元高野村字寄松に創設し　寄松小學校と稱す。同二十二年町村制實施に當り學區を變更して現在の區域を定む。當時學制の變改に因り尋常高倉小學校と稱し、後更に高倉尋常小學校と改む。同二十九年九月十八日暴風の災厄に罹り校舍倒壞せしを以て、一時高倉神社の假校舍に於て授業せしが、同三十四年十二月現在の

地に新築を企て、翌三十五年五月十五日落成移轉す。同十一年四月高田村との組合を分離して、高等科を併置し校舍一棟を增築し運動場二百二十坪を擴張し、高倉尋常小學校と稱す。大正十一年三月運動場を擴張す。大正八年七月高倉尋常高等小學校に高倉實業補習學校男子部のみを附設す。同十年四月併置とす。同十二年四月學則を變更して高倉實業學校と改稱す。同十四年四月女子部を開設す。

歷代校長氏名と其の在職年數

柴崎 尙善	五ヶ月		二木清治郎	一年一ヶ月	岩田 耕治 一年十一ヶ月
安原廣治郎	一年七ヶ月		岸 毅一	四年三ヶ月	江見波一郎 四ヶ月
渡邊鋤一郎	四十二年七ヶ月		上野 萬郎	六ヶ年	影山 一雄 四ヶ年
田口 有二	年六ヶ月		青木 與三	二年二ヶ月	菅沼 澄夫 四年六ヶ月
居森藤一郎	二ヶ年		關藤 忠繁	一ヶ年	牧 住治 大正十三年四月以來勤續中

□ 高田尋常高等小學校　所在　高田村大字下橫野

明治七年一月、上橫野・下橫野の兩村を以て弘明小學校を創立し、同八年一月大篠村に靑英小學校を創立し、同二十年十二月、大篠・上橫野・下橫野・下高倉・上高倉・の五箇村組合を以て高等高田小學校を創立す。同二十三年四月弘明小學校・靑英小學校を併合して尋常高田小學校と改稱、同時に支校を二ヶ所に置く。同二十六年七月尋常高田小學校を高田尋常小學校と、高等高田小學校を高田高等小學校と改稱す。後高田高等小學校を篁高

等小學校と改稱す。同四十一年四月篁高等小學校組合を解散し、高田尋常小學校に高等科を併置し、高田高等尋常小學校と改稱す。同四十二年十一月女子實業補習學校を附設し、大正七年六月高田實業補習學校と改め男女兩部を置く。同十二年十月高田實業補習學校を併設とす。同十五年七月高田村外三箇村組合立中央公民學校新に設置せられたるにより高田實業補習學校を廢止す。

歷代校長氏名と其の在職年數（明治三十三年以前不詳）

今田 丞	四ヶ年		片岡 竹市	二年三ヶ月	實近辨四郎 一年四ヶ月
景山 四郎	四年四ヶ月		美土路 壽	六年七ヶ月	池上 均一 二年九ヶ月
池田 唯男	三ヶ月		居森 柳市	二年	福田 三郎 一ヶ年
安東 礎	大正十四年四月以來勤續中				

□ 加茂尋常高等小學校・加茂實科學校　所在　加茂町大字小中原

明治七年八月十四日都々小學校を創設し、（設置區域・小中原・塔中・齋野谷・桑原・小淵・中原・百々）小中原成興寺庫裡を校舍に充つ。同十二年五月同所秋葉堂を假校舍に併用す。同十六年四月小中原大字寺の前に校舍を新築す。同二十年六月校舍二棟を增築す。同年七月高等尋常都々小學校と改稱す。（設置區域公鄕・成安・靑柳行重・知和・山下・物見・阿波・戶賀・黑木・原口を增併す。）同二十一年七月附設裁縫學校を開始す。同二十三年四月從來の尋常高等科を分離して加茂尋常小學校（設置區域加茂・東加茂・西加茂・上加茂・下加茂の四箇村

）加茂高等小學校（設置區域加茂・東加茂・西加茂・上加茂・阿波の五ヶ村）とし、黑木支校・倉見支校・宇野簡易小學校・中原支校・下津川簡易小學校・知和簡易小學校・河井簡易小學校を設く、明治二十三年五月教室一棟を增築す。

同二十六年六月小中原高等尋常小學校と改稱し、黑木分教場・倉見分教場・宇野尋常小學校・中原分教場・下津川尋常小學校・知和尋常小學校・河井尋常小學校の七支校を設く。同二十七年四月行重分教場を新設す。同三十五年四月西加茂村中原分教場を廢し、本校に合併す。同三十五年四月上加茂村尋常科・高等科並阿波村高等科本校より分離して獨立す。

同三十五年四月加茂尋常小學校と改稱（加茂・東加茂・西加茂・三箇村組合立）し、黑木・倉見・宇野・行重下津川の五分教場を設く。同三十七年四月より三十八年三月迄、村經濟の都合により二部教授を實施す。同三十九年三月裁縫專修科を廢す。同四十二年四月二教室を增築す。

大正四年十月西加茂村・東加茂村分離して獨立す。同十一月より加茂尋常高等小學校は加茂村單獨設置と爲り本校の外に宇野・黑木・倉見の三分教場を設く。大正八年九月校舍を改築す。即ち現今の本舘これなり。同十月宇野分教場を改築す。

加茂實科學校は大正十一年四月一日より加茂尋常高等小學校に併設開校す。

歷代校長氏名及び其の在職年數

（都々小學校）

蜷川　湊　二年三ヶ月　江口　繼男　一年六ヶ月　柴山　健夫　二年三ヶ月

片山　義雄　五ヶ月　竹內要太郎　二年三ヶ月　平尾　文平　四年四ヶ月

（高等尋常都々小學校）

高塚甲子太郎　二年二ヶ月　多田　誓一　四ヶ月

（加茂・東加茂・西加茂・上加茂四ヶ村組合立加茂尋常小學校）

平尾　文平　九ヶ月

（加茂・東加茂・西加茂・上加茂・阿波五ヶ村組合立加茂高等小學校）

池上　喜市　三年三ヶ月

（小中原尋常小學校）

野村和十郎　十ヶ月　草地　郡平　六年五ヶ月　築山　敦正　四年三ヶ月

（小中原高等小學校）

草地　郡平　六年五ヶ月　岡尾　正彰　一ヶ年九月

（加茂・東加茂・西加茂・三ヶ村組合立加茂尋常高等小學校）

草地　郡平　四ヶ年　頭士　敦正　八年七ヶ月　竹中　要　一ヶ年

（加茂尋常高等小學校）

大谷　直一　大正四年十一月より現今に至る。

□　西加茂尋常高等小學校・西加茂實業學校　所在　西加茂村大字中原

本校は大正四年十月三十一日加茂村外二箇村組合立加茂尋常小學校を分離し、同年十一月一日西加茂村立西加茂尋常高等小學校を設立し、假校舍を加茂村小中原に、分教場を西加茂村大字楢井に置きたり。大正七年四月加茂村所在の假校舍を廢し西加茂村中原に、二箇所の假校舍を設け兒童を收容せり。大正九年四月一日より楢井分教場を廢し假校舍に收容せり。大正九年十一月本校舍の新築成り全兒童を收容し今日に至る。

大正十一年五月西加茂農業補習學校を併設す。同十一年十月校名を西加茂實業學校と改稱す。

歷代校長氏名と其の在職年數

山本彦四郎　一年六ヶ月　　仲矢　重恭　三年八ヶ月

前原勝之助　大正九年十一月以來勤續中

□　東加茂尋常高等小學校・東加茂實業補習學校　所在　東加茂村大字桑原

明治七年八月東北條郡小中原村外六ヶ村の組合を以て小中原に都々小學校を創設せしが、その後幾多の變遷を經て明治三十五年四月加茂・東加茂・西加茂三ヶ村組合を以て加茂尋常高等小學校の設置を見たりしが、大正四年本縣未曾有の大風災あり、加茂諸村の如きはその被害最も大なりしを爲め、村費節減の叫び喧しく、其の結果遂に幾くも小學校組合分離の議決し、同年十月三十一日を以て東加茂村外二ヶ村學校組合を解き、翌十一月一日を以て

各村單獨に小學校を設立す。即ち東加茂村に於ては東加茂尋常高等小學校を設立せり。爾來存續して現今に及ぶ

（備考）明治七年以後三十五年迄の沿革は加茂尋常高等小學校沿革參照を要す。

歷代校長氏名と在職年數

片岡　進　四ヶ年　　小林　義雄　十ヶ月　　福田　三郎　三年七ヶ月　　林　恭三　一ヶ月

近藤　雅雄　大正十三年四月以來勤續

□　上加茂尋常高等小學校・上加茂實業學校　所在　上加茂村大字知和

明治七年八月十三日開設成美小學校と稱す。二十一年四月知和村簡易小學と改稱す。二十三年四月加茂外四箇村組合立尋常加茂小學校第六支校に組織を變更し、二十六年七月知和尋常小學校と改稱す。三十五年四月組合を分離し、四十二年四月十日高等科を併置し。上加茂尋常高等小學校と改稱す。四十四年四月一日河井尋常小學校を併合し、河井分教場を設置す。大正四年校舍を新築し、同五年更に之を增築す。八年四月上加茂實業補習學校を附設す。十年二月十一日教授訓育の成績佳良なるの故を以て本縣知事より選奬せらる。同十年四月法令改正の結果上加茂實業補習學校は併設となる。同十三年四月學則を改正し同時に上加茂實業學校と改稱す。

歷代校長氏名と各其在職年數（備考明治二十六年以前不詳）

上野萬治郎　一ヶ年　　永島　利英　十一年九ヶ月　　坂手今太郎　一年六ヶ月

北原九一郎　一年七ヶ月　　河野勅五郎　十一ヶ年　　小林　義雄　二年八ヶ月

福田　圓二　三年五ケ月　美土路　壽　大正十二年三月以來勤續中

□　**阿波尋常高等小學校・阿波農業補習學校**　所在　阿波村字鳥居原

本校は明治十年の創立にして立誠小學校と稱し、村社八幡神社籠殿を假校舍に充つ。同十四年三月字大畑に校舍を建築移轉す。同二十二年阿波村簡易小學校と改稱し、次で尋常阿波小學校と改む。同二十六年四月阿波尋常小學校と改稱す。同四十年四月高等科を併置、阿波尋常小學校と改稱す。同年字鳥居原に現校舍を新築之に移る。明治三十七年阿波村立農業補習學校を設立し、四十年四月小學校附設とし附設阿波農業補習學校と稱す。大正十年四月併設となる。同十一年四月より現名稱に改む。

歷代校長氏名と其の在職年數

上垣良右衛門	六年一ケ月	齋藤達太郎	五ケ年
田淵　嘉	二ケ年	美土路　壽	三年五ケ月
長森繁一郎	二年七ケ月	藤木清之助	二年八ケ月
山本彦四郎	五年三ケ月	今井　哲夫	大正十三年四月以來勤續中

□　**中央公民學校**　所在　高田村字下横野

高田・東苦田・一宮・東一宮・四箇村學校組合を以て大正十五年七月一日新設し、當初は中山中學塾舍を假用して校舍に充てしが、同年十二月より現位置に移れり。

（三）　**御影を拜戴せる學校**　（大正十五年十月一日調）

（イ）　明治天皇　昭憲皇太后　**御影拜戴學校**

御影拜戴年月日	學校名
明治二十四年十月二十四日	加茂尋常高等小學校
明治二十八年十月二十六日	雙松尋常高等小學校（大正十一年三月雙松校廢校に付院庄尋常高等小學校に轉戴）
明治三十二年十月二十七日	久田尋常高等小學校
明治三十五年三月二十八日	林田尋常高等小學校
明治四十一年十一月二日	津山男子尋常高等小學校
同	津山女子尋常高等小學校
同	苦田尋常高等小學校
同　年十一月三日	高野尋常高等小學校
同　年十二月十一日	富尋常高等小學校
同　四十二年十一月三日	田邑尋常高等小學校
同	香々美尋常高等小學校

（ロ）　天皇陛下　皇后陛下　**御影拜戴學校**

御影拜戴年月日

天皇陛下	皇后陛下	學校名
大正四年十一月二十七日	大正五年十一月二十八日	津山男子尋常高等小學校
同	同	津山女子尋常高等小學校
同	同	雙松尋常高等小學校（大正十一年三月三十一日雙松校廢校に付院庄校に轉戴）
同	同	芳野尋常高等小學校
同	同	久田尋常高等小學校
同	同	富尋常高等小學校
同	同	泉尋常高等小學校
同	同	奧津尋常高等小學校
同	同	苫田尋常高等小學校
同	同	田邑尋常高等小學校
同	同	香々美尋常高等小學校
同	同	林田尋常高等小學校
同	同	高野尋常高等小學校
同	同	清泉尋常高等小學校
同	同	高田尋常高等小學校（大正四年十月三十一日廢校）
同	同	加茂尋常高等小學校
同	同	上加茂尋常高等小學校
大正五年七月十一日		加茂尋常高等小學校（元加茂尋常高等小學校より轉戴）
大正六年二月十一日		大野尋常高等小學校
大正六年十月十七日		東加茂尋常高等小學校
大正十一年四月二十七日		院庄尋常高等小學校（元雙松尋常高等小學校より轉戴）

（四）小學校教育狀況一覽表

（イ）學齡兒童就學狀況一覽表（大正十四年四月三十日現在）

校名	尋常卒業				現在就學				免除				猶豫				合計				就學步合			
	男	女	計	增減	男	女	計	增減	男	女	計	增減	男	女	計	增減	男	女	計	增減	男	女	計	增減
二宮	三二	三五	六七	增三	一〇四	一〇九	二一三	減一三	—	—	—	—	—	—	—	—	一三六	一四四	二八〇	減二〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
院庄	三九	四三	八二	增	一二七	一三九	二六六	減	—	—	—	—	—	—	—	—	一六六	一八二	三四八	—	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
芳野	四八	五二	一〇〇	增一七	一二五	一三九	二六四	增一五	—	—	—	—	—	一	一	增一	二〇三	一八二	三八五	增二二	一〇〇、〇〇	九九、四五	九九、七四	減〇、二六
鄉	四〇	三三	七三	增一四	一四八	一二三	二七一	增二七	—	—	—	—	一	—	一	—	一八九	一五六	三四五	—	九九、四七	一〇〇、〇〇	九九、七一	減〇、二九
大野	三三	四五	七八	增二一	一五三	一五一	三〇四	減一	—	一	一	增一	—	—	—	—	一八六	一九七	三八三	減三	一〇〇、〇〇	九九、四九	九九、七四	減〇、二六

小田	二八	二五	五三	減一〇	八六	一〇六	一九二	增一九	—	—	—	—	—	一	一	增一	一一四	一三二	二四六	增一〇	一〇〇、〇〇	九四、七四	九七、五六	減二、四四
中谷	二五	二八	五三	減三	一〇八	九三	二〇一	減二	—	—	—	—	一	—	一	增一	一三四	一二一	二五五	減三	九九、一五	一〇〇、〇〇	九九、六一	減〇、三九
富	一八	八	二六	減三四	九二	八四	一七六	減一	一	—	一	—	—	—	—	—	一一一	九二	二〇三	減三七	九九、二五	一〇〇、〇〇	九九、五一	減〇、〇七
興其	一一	一一	二二	—	三七	三一	五九	減五	—	—	—	—	一	—	一	—	四九	三三	八二	增四	九七、九五	一〇〇、〇〇	九八、九八	減一、〇二
久田	三九	五七	九六	增二	一四〇	一四七	二八七	減一七	—	—	—	—	—	一	一	增一	一七九	二〇五	三八四	減五	一〇〇、〇〇	九九、五一	九九、七四	減〇、二六
泉	二四	二一	四五	增二五	八二	八一	一六三	增三	—	—	—	—	—	一	一	—	一〇六	一〇三	二〇九	增二八	一〇〇、〇〇	九九、三〇	九九、五三	一、〇〇
羽出	二〇	一三	三三	增一	七一	六四	一三五	增六	—	—	—	—	—	—	—	—	九一	七七	一六八	增七	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
奥津	二四	一七	四一	減三	八四	八九	一七三	減五	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇八	一〇六	二一四	減八	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
上齋原	一五	三二	四七	減八	一一五	一一六	二三一	增四	—	—	—	—	—	—	—	—	一三〇	一四八	二七八	增一六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
津山男	三六六	—	三六六	增九	一〇六六	—	一〇六六	增一一三	—	—	—	減一	七	—	七	增六	四三九	—	一四三九	增一二六	九九、五一	—	九九、五一	減〇、二八
津山女	—	三六六	三六六	減三	—	八一四	八一四	減二五三	—	—	—	—	—	二	二	增二	—	一一八二	一一八二	減二五三	—	九九、八三	九九、八三	減〇、一七
津山西	—	—	—	—	二〇一	二一一	四一二	增六九	—	—	—	—	二	—	二	增二	二〇三	二一一	四一四	增七二	九九、三四	一〇〇、〇〇	九九、五三	減〇、四八
苫田	四七	四一	八九	增二	二四八	二四九	四九七	減三四	—	—	—	—	二	—	二	—	二九七	二九一	五八八	減三三	九九、三三	一〇〇、〇〇	九九、六六	減〇、〇一
一宮	九	四	一三	—	二六｜五七	二六｜四四	五二｜一〇一	增三｜增一	—	—	—	—	—	—	—	—	八三	七〇	一五三	增一三	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
田邑	四二	一八	六〇	增二一	一三〇	一三三	二六三	減二七	—	一	一	—	—	—	—	減一	一七三	一五四	三二七	減七	九九、四二	九八、〇五	九八、七八	增〇、二八
香々美	三九	三三	七二	減九	一四九	一三八	二七七	增七	—	—	—	減一	—	二	二	增二	一八八	一六三	三五一	減一	一〇〇、〇〇	九八、七七	九九、四三	減〇、二九
香北	二八	二五	五三	減五	八九	八〇	一六九	減一	—	—	—	—	—	—	—	—	一一七	一〇五	二二二	減六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
越畑	一一	一六	二七	減一三	五〇	四四	九四	增七	一	—	一	—	—	—	—	—	六二	六〇	一二二	—	九八、三九	一〇〇、〇〇	九九、一八	增〇、三三

林田	八二	七〇	一五二	增五二	二六八	二四一	五〇九	減七	二	一	三	—	一	—	一	增一	三五二	三一三	六六三	減五二	九九、四三	九九、六八	九九、五五	減〇、一七
高野	六八	六九	一三七	減四	二三九	二二六	四六五	增一七	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇七	二八五	五九二	增一三	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
成名	二四｜七	二一｜七	三五｜一四	增二｜減一	五六｜一九	四四｜二一	一〇〇｜四〇	增三｜減二	—｜一	—｜—	—｜一	—	—	—	—	—	八〇｜一七	五五｜二八	一三五｜五五	增一四｜減三	一〇〇、〇〇｜九六、〇〇	一〇〇、〇〇｜一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇｜九八、一八	—｜減〇、一〇
中道	一八	二〇	三八	增一五	一〇五	九五	二〇〇	減九	—	—	—	—	—	—	—	—	一三三	一一五	二三八	增六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
東一宮	二四	二七	五一	增四	八九	八〇	一六九	增二	一	一	二	增一	—	—	—	—	一二四	一〇八	二三二	增七	九九、一三	九九、〇七	九九、一〇	〇、〇三
清泉	六七	四四	一一一	增二二	一六九	一七五	三四四	增四	一	—	一	—	—	—	—	—	二三七	二一九	四五六	減一七	九九、五八	一〇〇、〇〇	九九、七八	—
高倉	三七	三八	七五	減四	二一九	一二四	二四三	增六	—	—	—	—	—	—	—	—	一五六	一六二	三一八	減一〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
高田	五九	四八	一〇七	減一	二一七	一七六	三九三	增一三	—	一	一	減二	一	—	一	—	二七七	二二五	五〇二	增一五	九九、六〇	九九、五六	九九、六〇	增〇、四三
加茂	四九	五九	一〇八	減七	一六四	一六七	三三一	減二	一	—	一	—	—	—	—	—	二二四	二二六	四四〇	減九	九九、五三	一〇〇、〇〇	九九、七七	減〇、〇一
西加茂	四六	四六	九二	減九	一六六	一四三	三〇九	減三	—	—	—	—	—	—	—	—	二二三	一八九	四〇一	減一三	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
東加茂	四三	三五	七七	減四	一三七	一三五	二七二	增二	—	—	—	—	—	—	—	—	一七九	一七〇	三四九	減四五	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	—
上加茂	二四	二〇	四四	減三	一一三	一一三	二二五	減一	—	—	—	—	一	—	一	—	一四八	一三三	二八〇	減三三	九九、三三	一〇〇、〇〇	九九、六四	減〇、〇三
阿波	二四	二九	五三	增八	六四	七五	一三九	減二	一	—	一	—	—	—	—	—	八九	一〇四	一九三	增六	九八、八八	一〇〇、〇〇	九九、四四	—
計	一五〇八	一四四七	二九五五		五四五三	四九八六	一〇四三九		八	五	一三	減二	七	八	二五	增一六	六九八六	六四四六	一三四三二		九九、六四	九九、八〇	九九、七三	

備考

（一）前表中、一宮校の欄に於て、縱線の右方の數字は同校に在學せるものの數にして、左方の數字は他校に在學せる同校兒童を示す。

（二）同上、成名校の欄に於て、縱線の右方の數字は高野村在籍に係る兒童にして、左方なるは同校就學兒童の總數なり。

（三）同上、增減は前年度との比較增減を示す。

（ロ）小學校經費一覽表

（大正十四年四月三十日調）

校名	學校區域內戸數	學校區域內人口	學校區域內町村税	教育費總額	學級數	教員數	兒童數	町村費に對する百分比例	一戸負擔額	兒童一人當り	學校基本財産（現金及有價證券を含む）
二宮校	三五四	二五五三	一五三八四・五〇	八四二四・五八	七	八	二三三	五六・八〇	二四・四二	三三・三〇	一三六四・二二
院庄校	三七〇	二〇八三	二〇〇七九・二二	八五八八・〇五	七	八	三三四	五四・一九八	二三・二二	二七・〇一	一八二三・〇〇
芳野校	四四〇	二二八五	一三〇一四・七八	八三五二・七四	八	一〇	三六一	四八・五九	一八・九八	二〇・七一	一〇四〇四・七三
郷校	三一五	一七七三	一三〇一四・〇〇	六八四四・〇〇	七	八	二七一	四九・三〇四	二一・二九八	二五・二五五	一〇三三五・八六
大野校	四七三	三一八九	一一二〇五・〇〇	七七四四・二七	八	九	三六〇	四七・九五七	一六・三七三	二一・四五二	二八五二・一四
小田校	二九七	一五五一	三四七八・〇八	四五二五・〇〇	五	六	二三五	三九・二五	一五・二四	一九・二六	八七〇七・四六
中谷校	二七八	一五六八	一二四四四・八八	六五四八・〇〇	六	八	二五五	五七・一六	二三・五五四	二六・二九七	二三二九・〇〇
富校	三七二	一八三〇	一六七三七・〇〇	五九九七・六〇	五	六	二四〇	二〇・八一	一六・一三	二四・九九	七九〇・一九
與基校	三七二	一八三〇	一六七三七・〇〇	一九六九・三〇	二	三	五九	九・七八	五・三三三	三三・三七八	七九〇・一九
久田校	三七五	二〇九五	一四〇九五・五〇	八〇七六・〇八	八	一〇	三五八	四四・一七	二一・五四	二二・四三	八三六六・六〇
泉校	三三八	一二八〇	八二六一・七二	五四三三・五〇	五	七	二〇〇	四五・一三	一三・八一	二七・一三	四三三一・二〇
羽出校	二〇三	九四三	一〇五三三・一九	五八〇三・六〇	六	七	一六五	三七・八六	二八・五八九	三五・一七三	一三七二・六九
奧津校	二三〇	一四〇六	一〇二六一・五五	七〇二一・〇〇	七	八	二一六	四〇・二二	三〇・四八	三二・四六	三九・五五
上齋原校	二五二	一五四八	五八六七・〇〇	五九二一・〇〇	六	七	二三九	三八・〇五	二三・四六	二四・七三	一三八四〇・〇〇
津山男子校	四一五〇	一七一五五	一七二九九〇・七三	二六五八八・〇〇	二四	二八	一〇八九	一五・一一	六・四〇七	二四・四一五	九七三四・[illegible]九
津山女子校	四一五〇	一七一五五	一七二九九〇・七三	二五六一七・〇〇	二三	二七	一〇〇八	一四・五五	六・一七〇	二五・四一	一〇〇〇八・四三
津山西校	四一五〇	一七一五五	一七二九九〇・七三	一四四一七・〇〇	一〇	一三	四一三	八・一九	三・四七	三四・九九	五一・八三
吉田校	六四八	三一一〇	一五三二四・四三	一三五七三・〇〇	一四	一六	六一六	五四・七六	二〇・九五	二二・一四	一六二七・四〇
一宮校	一九一	一〇一三	八五八〇・〇六	三一七七・〇〇	三	六	一五三	三七・七三	一六・一三	二七・一五	四四九・〇四
田邑校	三五〇	二〇二四	一二四四六・九二	六八〇五・二六	七	八	三二五	四五・四六	一九・四四	二〇・九四	三〇四三・四六
香々美校	三九二	二〇〇五	一一九三一・二八	七四二四・五六	八	九	三四〇	四二・七四	一八・九七	二一・八〇	五二七六・〇〇
香北校	二四九	一三一七	七二七七・一〇	四三六二・四六	四	五	二二四	二四・〇七	一七・五二	二〇・三九	一六五九・一八
越畑校	一〇七	五九〇	三三四六・〇五	二八五九・六〇	三	四	一一六	八三・五〇	二六・六一	二四・九四六	—
林田校	七三三	三三五四	一八二一三・九三	一二九一〇・〇〇	一四	一五	六〇三	五一・〇三	三五・〇四	二一・〇八	五七九・五六
高野校	七〇二	三八〇〇	一二九八八・〇〇	九一六二・七四	一〇	一一	五六五	三七・四二	一三・〇五	一六・二五	二五一八・〇〇
成名校	一九八	一〇九五	七六五三・一三	三一五九・二四	三	三	一四〇	一三・五八	一五・九六	二二・五七	—
中道校	二五四	一四八九	七七二四・六六	五三四七・五〇	六	七	二四〇	五二・三七	二一・〇五	二二・二八	二三三〇・九三
東一宮校	二三〇	一三七〇	八一三八・四二	四七六七・〇〇	五	六	二二六	四九・一六	二〇・七三	二二・〇七	七八四四・〇〇
清泉校	五六八	三四八六	一六七五七・〇〇	八四八七・〇〇	八	九	四五五	五〇・六四	一四・九四	一八・六五	一二四〇・〇〇
高倉校	三一四	一九八五	一四一三八・〇〇	六三三〇・〇〇	七	八	三〇三	四四・七〇	二〇・一三	二〇・八六	一四五一・一〇
高田校	五四〇	二八九〇	一三一七四・〇〇	八七三二・〇〇	九	一〇	四六七	四〇・七九二	一六・一七	一八・七〇	—
加茂校	五一九	二六七〇	二四九七〇・〇〇	一〇〇四一・〇〇	一〇	一三	三九八	四〇・二二	一九・三四	二五・二三	三一六六・八八
西加茂校	三八八	二一四四	一三八七五・四七	七八九六・〇〇	八	一一	三九一	四五・四二	二〇・三五	二〇・一九四	—

東加茂校	三七六	二四四三	一五五三五・〇〇	八四八四・二四	八	一八	三三四	三九・七八	三三・五七	二五・四八	三六〇〇・〇〇
上加茂校	三三七	一七八八	一五一六四・〇五	八五三六・二三	六	一〇	二八八	四六・七六二	二五・三三	二九・六四	五九四九・四三
阿波校	二〇七	一三六七	八一三・七六	四八三五・〇〇	四	五	一七五	四〇・三二	二三・八一	二七・七八	三二九九・〇〇
合計											

(ハ) 小學校兒童出席歩合 (百人に付)

	尋常 男	尋常 女	尋常 計	高等 男	高等 女	高等 計
大正十年度	九六・〇三	九五・二〇	九五・六一	九六・七九	九七・五三	九七・〇八
大正十一年度	九五・七九	九五・一〇	九五・四五	九六・二五	九七・七四	九六・八六
大正十二年度	九六・三五	九五・七三	九六・八七	九四・七四	九五・六一	九五・四五

(ニ) 小學校敎員數 各年度四月三十日

	總數 男	總數 女	本科正敎員 男	本科正敎員 女	專科正敎員 男	專科正敎員 女	准敎員 男	准敎員 女	代用敎員 男	代用敎員 女
大正十一年	一九〇	八五	一五四	三三	二	一七	二二	三	一三	二三
大正十二年	一九一	一〇七	一四八	四一	三	二九	一九	一四	二〇	三三
大正十三年	一九七	一〇九	一五四	四八	五	二一	一三	一一	二五	二九

(ホ) 小學校敎員平均月俸額 各年度四月三十日

	本科正敎員 男	本科正敎員 女	專科正敎員 男	專科正敎員 女	准敎員 男	准敎員 女	代用敎員 男	代用敎員 女
大正十一年度	六〇・二〇	四三・二二	一九・〇〇	三四・八八	三四・四四	二八・九一	二九・六二	三〇・〇八
大正十二年度	六一・七二	四一・五一	三六・六六	三五・四三	四一・四三	二九・五〇	三一・〇〇	二七・四三
大正十三年度	六三・六	四三・五二	二六・六〇	三四・八六	三二・三一	三〇・二七	三一・六四	二七・八三

(ヘ) 校數學級數等十隔年統計表

明治三十三年度より大正十四度迄二十五ケ年間十隔年に於ける郡内小學校敎育に關する重要事項を表示せば左の如し。

種別	科別	明治三十三年	同四十三年	大正九年	同十四年
小學校數	尋常	三一	四	二	三
	尋常高等	三	二九	三三	三三
	高等	八	—	—	—
	計	四二	三四	三四	三
學級數	尋常	八八	一七〇	一八九	二二九
	高等	三九	三九	四六	五一

（五）實業補習學校教育狀況

	計	二〇九	二四五	二八〇
就學兒童數	尋常男	二、五一五	【四、六六九	五、一二三	六、六七一
	尋常女	二、一九四	四、五六五	四、九七八	六、四〇〇
	高等男	一、三二三	八四七	一、一一七	一、二六七
	高等女	五八四	四四八	七九三	九八四
兒童就學狀況	男	八七、七七	九九、六四	九九、六八	九九、六〇
	女	七一、二五	九九、七一	九九、八二	九九、七四
	計	七五、六六	九九、七〇	九九、七五	九九、六七
教員數	男	一二九	一六九	二〇〇	二〇八
	女	一一	五九	九二	一一九
	計	一四〇	二二八	二九二	三二七
教育費總額		三五、七四二	八一、九二六	二三二、六九二	二八九、八九三
教員俸給支出狀況		一九、八六四	四三、〇九〇	一四五、〇一七	一九五、三九六

（イ）實業補習學校經費一覽表（大正十四年度）

町村名	專任教員 男	專任教員 女	專任教員給	兼任教員給	雜費	消耗品費	使丁給	賞與	旅費	備品費	其他	計
二宮	一			一八〇							五	一九一
院庄				一四四							一	一四四
芳野				二六〇	一〇	二六					一三	二九
郷				三六			五			一八	五	二九一
大野				一九二	五	四九	三	五			五	八〇九
小田		一	四八〇	二四〇	二	一九		三			五	四七〇
中谷				二四〇		二〇		二〇		一五	一〇	一一四〇
富			七二〇	一八〇	一〇	三〇		四〇		一五	一〇	一一四〇
久田		一	九〇	二四〇	一〇	九〇	六	二五	一五	一〇	二一、九二	六一七、九二
泉		一	五四〇	三〇〇	三〇	三五	四	三〇	一五	一〇	四二、六五	一五一、六五
羽出			七二〇	三〇〇	一	四八	一	五	一五	七	一八	四五六
奥津		一	七二〇	三三〇	一	一	一	一	一五	一五	一〇	九九七
上齋原		一	七二〇	五四〇	一	一〇	一	二〇	一五	一〇	二〇	一三八五
津山			七二〇	七六〇	五	三〇	二〇	一〇	一五	一〇	五六	八四二
西苫田			二四〇			二〇					三	二六三

一宮	—	—	—	九六	—	一〇	—	五	五	七〇	—	一八六
田邑	—	—	—	二五二	五	二〇	—	一八	一〇	五四	三三	三九一
香々美南	—	一	六〇〇	二四〇	—	三五	三	八	二〇	四五	七	八六七
香々美北	一	一	五四〇	三六〇	—	六〇	—	四〇	—	三〇	九	一〇三九
津山東	—	—	—	二四〇	—	—	—	二六	—	一六	二四	三〇六
高野	一	一	一、二九六	三二〇	五九	七〇	—	—	三	一〇〇	三三、六〇	一六九〇、六〇
東苫田	—	—	—	一八〇	五	—	—	—	—	—	—	一八五
東一宮	—	—	—	一八〇	—	三〇	—	—	—	一五	—	三三五
神庭	—	—	—	三〇〇	一〇	五三	—	—	—	三五	六	四〇四
高倉	—	一	五四〇	二四〇	—	五〇	七	—	五	五〇	一五	九〇七
高田	一	—	七二〇	四〇八	—	九〇	—	一五	五	二五	三八	一三〇一
加茂	一	—	八一六	三二〇	五	三四	—	七	二〇	五〇	八三	一三三五
西加茂	—	一	七二〇	一八〇	二〇	一〇	—	四〇	二〇	七〇	一七三	一三三三
東加茂	—	—	—	一四四	三七	一五	—	二〇	—	一五	一〇	二四一
上加茂	—	一	一、三二〇	一八〇	三〇	八〇	—	四八	三〇	八九	四八	一八三五
阿波	—	—	—	三〇〇	六二	二〇	三	一五	三〇	三〇	一〇	四七九
計	六	二	一〇、五九六	八、二四〇	二、九五	九一九	一一	三八七	二九二	一、四二一	五五一、三三	二七七、六七

（ロ）教員數生徒數等隔年統計表

明治三十七年度より大正十四年度に至る二十二年間十隔年に於ける專任教員數・生徒數・經費・校數・學級數を表示せば左の如し。

種別		明治三十七年	大正二年	大正十二年	大正十四年
教員數	專任		一	一三	一四
	兼任	一二	四四	一一八	一二九
生徒數	男	一三三	二五一	四四七	一、三三〇
	女	五一	二〇九	一〇八二	七九七
	計	一八四	四六〇	一、五二九	二、一二七
經費		一、八七六	一一五	一、五五八三	二二、四一四
學校數		四	一三	三三	三三
學級數		六	二三	七八	九〇

（六）學校關係者

（イ）小學校・實業補習學校職員氏名（大正十五年七月十日現在調○を附せるは實業補習學校專任教員なり）

學校名	職員氏名（必ずしも席次順に據らず）
二宮尋常高等小學校 二宮實業補習學校	濱田中　黒瀨丈　近藤政子　別當玉野　高橋治
松枝滿壽子　廣川太郎一　漆間千賀　木村尙則　高橋昇治	
上山操　○山下一男	
院庄尋常高等小學校 院庄農業補習學校	藤田知之　矢內嘉右衛門　服部操　武川登　福元登美子
杉本賢一　那須婦美　中島新　濵克已	
芳野尋常高等小學校 芳野實務學校	池上準　岩野運治　廣瀨繁野　水島龜鶴　河井瀾
狩野隆　小澤吉權　小倉艷子	
鄉尋常高等小學校 鄉實業補習學校	居森柳市　安藤征二　近藤政子　淺野辨次郎　松岡伊豆彥
土井敦三郎　山名益代　池田小文	
大野尋常高等小學校 大野農業補習學校	池上均一　松本亮二　政影豫利應　明樂信子　坂手哲
大森大作　片尾秀一　萩野宏　長尾虎六　○高橋芳子	
小田尋常高等小學校 小田農業補習學校	河本清一　佐々木忠亮　武田益代　難波毅　永禮虎代
衣笠愼之助　中尾重太　大林幸江	

中谷尋常高等小學校 中谷農業補習學校	齋藤茂雄　安田義一　山田三喜枝　鈴木鹿治郎　金澤壽美代
難波晴子　大澤胤匡　澤古仙　○福井潔郎	
富尋常高等小學校 富實業學校	福井武道　太田茂登　山崎絹代　押坂迪子　押阪明一
池田茂雄　池田千榮子　○原田昶惠	
興基尋常小學校	小坂田逸平　久永舍春　青木梅
久田尋常高等小學校 久田實業補習學校	福田三郎　田口重康　土井四郎　神田義夫　高原龍子
山崎美德　山崎道夫　近藤千賀野　森壽美惠　○渡邊勁	
泉尋常高等小學校 泉農業補習學校	杉山增男　沼本一二　藤原時雄　八木由喜代　中江小富
磯部太郎　○影山玄夫	
羽出尋常高等小學校 羽出實業補習學校	友末慶次　保田坦　中島新　杉田登子　森永美智
友末義久　都利一　寺坂清隆	
奧津尋常高等小學校 奧津農蠶學校 奧津實科女學校	山本彥四郎　河部九一　松尾照子　日下武男　杉山近男
清水松子　宇那木壽美子　○今岡岩夫　○木山糸	
上齋原尋常高等小學校 上齋原農業補習學校	藤木莊江　難波鈿　早尾靜一郎　立垣敏夫　杉山八重子
春木喜久江　小椋忠藏　牧野芳之　○二宮尊	

津山男子尋常高等小學校
坂田義一　松岡三樹彦　木多保　森林　居森美作子
田淵暲男　志茂剛　有友綾子　日下壽滿子　松本英一
藤木太郎　浮田槌子　植月政子　河瀬卓　山本泰助
大林駒之亟　直原正雄　片岡信好　入江岬　赤木由一
椋代誠一　田村襄　荒內幸忠　岸本金　山口正勝
末澤定　柴田貴純　產賀時雄　井上壽江

津山女子尋常高等小學校
津山實業學校
梶村滋三　村上昌　竹久まつの　河井達海　長原甲惠
梶村哲雄　藤田孝一　荒內梅與　金光幸一郎　和田收藏
神谷鷲一　田淵嘉　甲本竹子　中島强　岡千代子
谷口辰治　青木佳夫　八幡義重　八木千鶴　居森藤一郎
○山口正勝　村次剛　石名善積　十六原靜代　辻美津子
○筒井哲治郎　和田壽　中村君代　平井榮　藤井富美江
河野俊子

津山西尋常小學校
和田義德　伊澤英夫　下山一義　岸重子　廣山武雄
大谷憲太郎　佐々木龜代　植木美彌野　國米柾子　藤原多美子

苫田尋常高等小學校
西苫田實業補習學校
田外均　大田政太郎　小谷津禰代　筒井河精　結城幸彥
今井良平　河本秀穗　二木淑之　中江幸平　池田猛
年末勝　谷口マキヨ　八木睦野　横溝時夫　戶田喜一
石井忠信　岡崎忠　齋藤はる　小林和子　奧村文子

一宮尋常高等小學校
田邑尋常高等小學校
田邑實業補習學校
早瀨孝　矢田修　松岡位佐子　渡邊鶴代
二木幸正　田淵周平　大山眞一　垂水由紀子　光永亮市
杉山亨　柳艶子　河本行子　清水晋　武川龍野

香々美尋常高等小學校衣
香々美農業補習學校
衣笠壽夫　草野照光　中島史郎　河部幸代　杉山津三
松尾武之　田淵泰夫　平尾絹代　○坂手ハル代

香北尋常高等小學校
香北實業補習學校
杉山恒治郎　杉山眞澄　井上制三　前橋美津代　○森末運太
○坂田きよ

越畑尋常高等小學校
越畑實業補習學校
景山收　清水國光　廣澤杉子　水島民子

林田尋常高等小學校
津山東町實業學校
青井荒一　廣瀨郁之助　那須壽惠　二木美佐雄　江原泰
居森しつか　東原道子　吉元宗　荒木肇示　水島修三
鈴木玉代　水谷しづ　中野佐七郎　春名喜久代　百濟千賀代

高野尋常高等小學校
高野實業補習學校

○山本方之助　小山綾夫

福田圓二　菅田宇江松　○植月しげの　田口古米代　仲矢重恭

下山聖四郎　田口素芳　菅沼定彦　山田豊作　森永卓一

○岸本一正　岸本忠　鳥越勝子　八木通夫　杉山茂

中島小千代

成名尋常小學校

難波保　谷名周一　永禮郁子

中道尋常高等小學校

岸本武夫　安黒お幾　尾島靜江　甲田文雄　片山隆

田口重忠

東一宮尋常高等小學校

池上辰二　池田年夫　爲本米男　丸山一兵衛　田村政治

清泉尋常高等小學校
清泉實業學校

福井筆子　田中豊子　今井密雄　河原太津彦　香山千壽　竹内泰男　水島かめよ

今井密雄　河原太津彦

西川賢一　岡森之　安藤たけ　岡本二三四　○牧峻

高倉尋常高等小學校
高倉實業學校

牧住治　松岡宇市　木多やゑ　高橋喬　赤堀虎代

片山厚　○栢野富世　前田光子

高田尋常高等小學校

安東礎　北原九一郎　田口好子　吉永吉廣　林善三

加茂尋常高等小學校
加茂實科學校

木多貞一　松永花世

日原毅一　片岡孝子　○勝山伊與　山下高一

大谷直一　宇佐美盛穗　岡弘子　川島梅子　久永昌子

藤原信男　杉山勝衛　高橋章夫　岸岡澄子　大杉英子

齋藤達太郎　内田ときよ　○森藤槇太郎

西加茂尋常高等小學校
西加茂實業學校

前原勝之助　藤田かやこ　竹内甲　賴經種雄　○上杉きよ

水島文江　佐藤次信　川島貞二　○内田延三郎　秋田隆

東加茂尋常高等小學校
東加茂實業學校

近藤雅雄　岡田卓爾　山下豊野　岡本純盛　香山賢治

保田銀二　兒玉益代　岡田富子　倉林末子

上加茂尋常高等小學校
上加茂實業學校

美土路壽　妹尾瀞　兒玉德代　中井孫一　市村越子

石原一野　永濱文男　石原一愛　市村清子　○小椋多三郎

阿波尋常高等小學校
阿波農業補習學校

岸本貞雄　○寺坂桂太郎

今井哲夫　頭士倫作　大杉益代　宮林綾子　正木昌

○山本倉次郎

中央公民學校

○池上四朗　○菅沼澄夫　○長森繁一郎　○田中寛美

（ロ）小學校學務委員氏名（大正十四年四月三十日現在調）

學校名	學務委員氏名	
二宮尋常高等小學校	久山猪八郎	三谷宇十郎
	濱田中	土居萬治郎
院庄尋常高等小學校	杉山喜一郎	杉山熊太郎
芳野尋常高等小學校	山田周藏	坂手義誠
鄉尋常高等小學校	長瀧運平	村上信五郎
	居森柳市	
大野尋常高等小學校	池上滋	奥田繁治郎
小田尋常高等小學校	山本忠一	齋藤寛
中谷尋常高等小學校	宗本堅助	池田和作
	齋藤茂雄	
富興尋常高等小學校	山崎繁樹	小椋隼視
基尋常小學校		
久田尋常高等小學校	石原良平	奥松藏
泉尋常高等小學校	小林豊市	駒井重城

	大山丑太郎	西山蔦五郎
	杉本森市	椋代佐一郎
	片山政一郎	西村哲平
	金田正志	寺岡序平
	大林喜十郎	河本清一
	安藤四郎平	岡田柳三郎
	福井武道	
福田三郎	小坂田逸平	
杉山增男		

羽出尋常高等小學校	小椋茂太郎	武村源逸
難波保	牧野彌三郎	石田猛
奥津尋常高等小學校	小椋藤吉	柳井槌五郎
上齋原尋常高等小學校	淀川正充	久下美澄
津山男子尋常高等小學校	杉原佐五郎	和田義德
津山女子尋常高等小學校	淀川正充	久下美澄
津山西尋常小學校	杉原佐五郎	和田義德
	淀川正充	久下美澄
苫田尋常高等小學校	杉原佐五郎	梶村滋三
一宮尋常高等小學校	和田義起	橋本英一
田邑尋常高等小學校	妹尾利太郎	賴經茂十郎
香々美尋常高等小學校	土居通博	鳥取淳二郎
香北尋常高等小學校	林宗治郎	中島政雄
	三村與六	沼本勇治

	上野保勇	西村貞治郎
難波平三郎	石原光義	關藤忠繁
藤木平藏	田淵義惠	藤木莊江
梶村滋三	坂田義一	關當純
	梶村滋三	關當純
	坂田義一	和田義德 關當純
	今井良平	
	矢野茂滿	早瀨孝
	二木幸正	
	衣笠壽夫	
	片尾秀一	藤田知之

越畑尋常高等小學校	三村與六	沼本勇治	藤田知之
林田尋常高等小學校	山林九十郎	河村勇吉	片尾秀一
高野尋常高等小學校	保田九一郎	保田源吉	高橋寛
	中島大治郎	岸本武夫	福田圓二
成名尋常小學校	保田九一郎	保田源吉	仲矢重恭
	中島大治郎	福田圓二	岸本武夫
中道尋常高等小學校	田口義平治	廣瀬壽治	長森繁一郎
東一宮尋常高等小學校	永禮甚内	岡田嘉作	池上辰二
清泉尋常高等小學校	岡田一信	谷原武平	早瀬剛毅
高倉尋常高等小學校	下山貞四郎	金谷仙五郎	本多圓市
高田尋常高等小學校	田口敎治郎	晴山英二郎	實近辨四郎
加茂尋常高等小學校	鈴木鑑爾	山田政夫	久永卯一郎
	藤田瀧藏	福原良平	大谷直一
西加茂尋常高等小學校	小原龍太郎	有岡八郎	西山昇

前原勝之助

東加茂尋常高等小學校	高橋宇逸	龜川柳助	田中武市郎
	末廣千萬作	藤長德照	近藤雅雄
上加茂尋常高等小學校	内田證一郎	岡藤三郎	水島定一
阿波尋常高等小學校	太田大作	石田九一郎	小椋權十郎

（八）校醫氏名（大正十四年四月三十日現在調）

學校名	校醫氏名	學校名	校醫氏名
二宮尋常高等小學校	宮地守治郎	興基尋常小學校	矢谷義夫
同	今岡近太郎	久田尋常高等小學校	牧田正門
院庄尋常高等小學校	渡部四馬	羽出尋常高等小學校	菅谷勝太郎
芳野尋常高等小學校	藤本絢二	奥津尋常高等小學校	石田猛
鄉尋常高等小學校	西村熊太郎	上齋原尋常高等小學校	猛
大野尋常高等小學校	岸岡修吉	津山男尋常高等小學校	宮地守治郎
小田尋常高等小學校	佐々木柳太郎	津山女尋常高等小學校	宮地守治郎
中谷尋常高等小學校	佐々木柳太郎	津山西尋常小學校	宮地守治郎
富尋常高等小學校	矢谷義夫	苫田尋常高等小學校	三浦枝萬造
香北尋常高等小學校	後藤源治郎	越畑尋常高等小學校	後藤源治部
林田尋常高等小學校	森治郎	高野尋常高等小學校	中島大次郎
成名尋常小學校	保田幾治郎	東一宮尋常高等小學校	三浦枝萬造

清泉尋常高等小學校　甲田　憲造　　加茂尋常高等小學校　鈴木　鑑爾　　上加茂尋常高等小學校　内田久太郎
高倉尋常高等小學校　山本　廉造　　西加茂尋常高等小學校　萬袋　道三　　阿波尋常高等小學校　鈴木　鑑爾
高田尋常高等小學校　晴山英二郎　　東加茂尋常高等小學校　内田久太郎　　中道尋常高等小學校　河野稻太郎

（七）校歌

□ 津山男子尋常高等小學校校歌（目下出願中）

千歳の緑に不斷の調べ
名だたる鶴山城趾の松は
貴き生命を二葉にこめて
そびゆるいらかの歴史もゆかし
あゝ日ににほふ。
われらの母校は
理想のまにまに、撓まず倦まず
みをしへかしこし日出づる國の
小さきひとみに、希望は溢れ、
いそしみ進まん、光の一路
花咲き滿てり。
われらの前には
活きたる動きを間近く見つゝ、
わが世の曙、とよもす街の
伸びゆく木草はかほりも高く
靜かに養ふ眞實の力
やさしくうてり。
われらの心を
千歳の緑に、不斷の調べ
仰げよ、鶴山城趾の松は

學べよたのしく。みがけよ、心。　貴き力を、二葉にこめて、
われらの母校は　　あゝ日ににほふ。

□ 津山女子尋常高等小學校々歌

鶴山松の影さすふもと　錦の流水澄むほとり　往昔を今に庭の面ひろく　園生に薫る花こそ優し
身體を鍛へ業をし練るは　國民われら世に立つ一歩　畏き勅語心に鏤りて　やがては國の礎たらん
綠は碓き節操のしるし　澄めるは清き心の鑑　とりぐ〳〵花の薫を競ひ　學びの庭の譽を揚げん

□ 大野尋常高等小學校々歌

仰げば男女の山高く　前は香々美の川清し　自然の勝に地を占むる　あゝうるはしき我が校舎
集ふ四百の學び子の　治まる御世の御惠の　大みことのりかしこみて　共にいそしむ樂しさよ
規律を守り活動し　禮儀と自治を尊ぶは　我が學びやのはらからの　かたく誓ひし教なり
我が帝國の將來は　かゝる五の肩の上　あゝわれ〳〵の行てには　光り輝くもの多し
給ひしみこと旨として　定まる教しをりにて　習德をみがき體をねり　御國の爲につくさばや

□ 小田尋常高等小學校々歌

山水明媚の其の中に　星霜こゝに幾年の　我等の胸にかゞやける　寶にうるわしき校風よ
誠實勤勉快活の　尊き教を旨として　共にみがかん寶玉の　光の如き校風よ

自治の譽をたたへつゝ　學びの力身にそへて　希望の光仰ぎつゝ　起てる二百の我が健兒
智識をみがき體をねり　清き心を養ひて　日進月歩の世の中に　奮へ二百の我健兒
嗚呼平和なる小田校よ　嗚呼幸多き我健兒　協同一致はげみつゝ　永久の榮を祈らなん

□ 香々美尋常高等小學校々歌

仰げば泉のみねたかく　ふせば香々美の川清き　里につどへる我がどちの　心をなにゝたとふべき
あさなゆうなにたゆみなき　鍛ふ腕も國のため　螢を集め雪をつみ　みがく心も親のため
師父のめぐみの露うくる　をしへの庭の春の草　とくのびだちて大君の　大みめぐみにむくひてん

□ 東一宮尋常高等小學校々歌

烏ヶ山はいや高く　横野の川はいと清し　高きは御代の恩にて　清きは我等が心なり
高き恩にうるほひて　清き心にいそしみつ　學びの庭の年毎に　榮え行くこそうれしけれ

□ 高田尋常高等小學校々歌

金刀比羅山は彌や高く　加茂の流れはいと清し　高きは我等の望なり　清きは我等の心なり
高き望みを果さんと　清き心をみがきつゝ　學びの庭の八十草の　花のかほりを世にあげん

□ 上加茂尋常高等小學校々歌

雪を凌ける筈山の　高き姿を鑑とし　千代に八千代に動きなき　千磐の底を心とし

流れもつきぬ加茂川の　その水のごと朝夕に　勉めよ勉め文の道　勵めよ勵め人の道

□ 阿波尋常高等小學校々歌

黒岩山は深綠　阿波川水はいと清し　深きは受くる惠にて　清きは我等が心なり
深き惠にうるほひて　清き心にはげみつゝ　いざもろともに歌ひなん　治まる御代の目出度さを

第五節　青年訓練所

世界大戰後の經營の一として、各國共青年訓練の必要を認め、列强は既に其の施設に着手する處ありしが、我國に於ては愈々大正十五年四月二十日勅令第七十號を以て青年訓練所令を公布せられ、縣・郡當局に於ても之が實施に關し督勵に努め、當路者亦之が研究と實現に努めし結果、大正十五年七月より、郡内各町村一齊に之が實施を見たり。その概要を左に表示せん。

青年訓練所一覽

（大正十五年十月現在）

主事	指導	員	生徒數
苫田郡二宮青年訓練所			
二宮校長　濱田　中	訓導　高橋　浩	同　黒瀨　丈	軍曹　河原　磊三	曹長　山中　重雄	三五
苫田郡院庄青年訓練所			
院庄校長　藤田　知之	訓導　杉本　賢一	同　矢内嘉右衛門	歩兵上等兵　杉山　數江	歩兵一等卒　岡　勘一郎	三一

苫田郡芳野青年訓練所

芳野校長　池上　準　訓導　河井　瀰　同

苫田郡大野青年訓練所

大野校長　池上　均一　訓導　坂手　哲　同

苫田郡小田青年訓練所

小田校長　河本　清一　訓導　佐々木忠亮　訓導

苫田郡中谷青年訓練所

中谷校長　齋藤　茂雄　訓導　安田　義一　同

苫田郡富青年訓練所

富校長　福井　武道　訓導　押阪　明一　助教諭

苫田郡久田青年訓練所

久田校長　福田　三郎　訓導　田口　重康　歩兵軍曹

苫田郡泉青年訓練所

泉校長　杉山　增男　助教諭　影山　玄夫　訓導

苫田郡羽出青年訓練所

羽出校長　友末　慶次　憲兵軍曹　澤田久太郎　歩兵上等兵　西村要作

苫田郡奥津青年訓練所

奥津校長　山本彦四郎　助教諭　今岡岩夫　訓導　河部　九一

苫田郡上齋原青年訓練所

上齋原校長　藤木莊江　輜重兵軍曹　水田　泰　同　杉山　近男

苫田郡津山青年訓練所

津山男子校長　坂田　義一　訓導　田淵　瞭男　歩兵上等兵　鈴木熊一

苫田郡西苫田青年訓練所

苫田校長　今井　良平　訓導　河本　秀穗　同

苫田郡中央青年訓練所（高田村・東苫田村・東一宮村・一宮村組合）

中央公民學校助教諭　長森繁一郎　高田校長　安東　礎　歩兵少尉　泉　義滿　同　田中　寬美

苫田郡田邑青年訓練所

田邑校長　二木　幸正　訓導　杉山　亨　准訓導　清水　晋

苫田郡香々美青年訓練所

香々美校長　衣笠　壽夫　訓導　松尾　武之　同　草野　照光　同　田淵　泰夫

歩兵上等兵　山根義一郎　歩兵上等兵　前原　文一　五七

憲兵曹長　寺岡登一　六〇

上等兵　小林　勝顯　三七

助教諭　大澤　胤臣　四三

歩兵上等兵　押阪　義雅　四五

歩兵上等兵　牧野鐵一郎　五一

同　藤原　時雄　二八

同　小林　薰

二二

歩兵少尉　友保博隆　二四

歩兵曹長　小林康太郎　二六

東一宮校長　池上　辰二　八〇

中央公民學校教諭　池上四郎

四五

歩兵少尉　春木榮太郎　三八

苫田郡香北青年訓練所

香北校長	杉山恒治郎	越畑	景山	敬
		助教諭	森末	運太
		騎兵上等兵	三木彦平	
		輜重兵上等兵	三村	孝

苫田郡津山東青年訓練所

林田校長	青井	荒一	訓導	荒木 肇示
		同	廣瀬郁之助	

苫田郡高野青年訓練所

高野校長	福田	圓二	訓導	仲矢 重恭
		助教諭	岸本	一正

苫田郡神庭青年訓練所

清泉校長	今井	密雄	訓導	西川 賢一
		助教諭	牧	峻

苫田郡高倉青年訓練所

高倉校長	牧	住治	訓導	松岡 宇市
		助教諭	高橋	喬

苫田郡加茂青年訓練所

加茂校長	大谷	直一	訓導	宇佐美盛穗
		助教諭	森藤禎太郎	
		歩兵上等兵	岸嘉之男	

苫田郡西加茂青年訓練所

西加茂校長	前原勝之助	助教諭	內田嘉三郎	
		訓導	佐藤	次信

		砲兵特務曹長	塚元	定良
		陸軍二等計手	町田	善吉 四一
		歩兵特務曹長	內田嘉壽見	
		歩兵上等兵	久安	林平
		同	永瀧	常義 四四
		歩兵特務曹長	本多 爲一	四六
		歩兵上等兵	日野田市太郎	四七
		輜重兵少尉	兒島	久富 三〇
		歩兵軍曹	保田	鐵夫 六〇

苫田郡東加茂青年訓練所

東加茂校長	沂藤	雅雄	訓導	保田 銀二
		砲兵特務曹長	塚元定良	
		歩兵上等兵	片岡 庫一	三七

苫田郡上加茂青年訓練所

上加茂校長	美土路	壽	砲導	石原 一愛
		助教諭	小椋多三郎	
		砲兵特務曹長	塚元	定良
		歩兵上等兵	岡	哲男 三一

苫田郡阿波青年訓練所

阿波校長	今井	哲夫	頭士	倫策
			山本倉次郎	
			塚元	定良
			入江	博二

備考　指導員中訓導は小學校訓導、助教諭は實業補習學校助教諭にして指導軍人中に在營者なし。

第六節　中等學校

本郡所在中等學校の概況を摘記せば左の如し。

□　岡山縣津山中學校　所在　津山町大字椿高下

沿革概要　明治二十八年八月岡山縣設立に係り、岡山縣津山尋常中學校と稱し、津山町大字山下、現津山高等女學校數地内に在りし、舊津山藩士族共有家屋を假校舍に充て、菊地謙二郎學校長に任せられ、同年九月二十日開校す。十月　天皇陛下　皇后陛下の御眞影を下賜せらる。明治三十二年四月岡山縣津山中學校と改稱す。三十三年三月現位置新築校舍に移轉す。三十四年四月岡山縣立津山中學校と改稱す。五月生徒定員を五百名とす。

同三十六年十月十八日　皇太子殿下本校に行啓生徒の體操を臺覽あらせらる。

同四十年四月生徒定員を六百名に改む。同四十五年二月第一寄宿舍失火生徒室一棟燒失、四月補習科を廢す。大正四年九月創立第二十年記念式を擧行す。十月　天皇陛下の御眞影を下賜せらる。同五年十月皇后陛下の御眞影を下賜せらる。同六年十二月　皇太子殿下の御眞影を下賜せらる。同九年四月岡山縣津山中學校と改稱す。同十年十一月濟美會御眞影奉安殿を建設す。同十四年四月定員を一千名に改む。同十四年十月創立滿三十周年記念式を擧行す。

同十五年五月二十三日　皇太子殿下本校に行啓遊ばされ、運動場に於て在鄕軍人・中等學校生徒・青年に御親閲を賜ふ。

經費　大正十四年度經常部歲出豫算左の如し。

總額　五七、八九六圓

內譯　俸給　四二、九八〇圓　　校費　六、二八一圓　　雜給　六、〇〇〇圓

國庫納金　四一八圓　　修繕費　一、二〇八圓

郡市別生徒數（大正十四年度）

岡山	御津	赤磐	邑久	上道	都窪	小田	吉備	上房	阿哲	眞庭	苫田	勝田	英田	久米	他府縣
二	四	八	二	一	一	一	一	二	二	四三	三八〇	一二一	四九	一三五	二三

職員氏名（昭和二年二月十五日現在）

玉木正行　谷正夫　川村惇　星賀正次　永井正俊　和仁半治郎
瀧口龍一　笠井久　瀨戸政一　上關三郎　原義朝　谷口善實
牧毅　田口要　津高仲江　大倉明　皆木武一郎　福田道善
龜川英夫　松田養治　早瀨彰　井上忠志　小倉克介　荒木武彥
淺野富男　衣笠巖　林謙二郎　植月郁二　種谷賴一　多胡謙
秋山成光　山田武士　平井勇吉　城後熊吉（配屬將校）　河野稻太郎（校醫）

□岡山縣津山高等女學校　所在　津山町大字山下

沿革概要　明治三十六年四月二十八日、津山町大字山下の假校舍に開校、岡山縣立津山高等女學校と稱す。同日入學式を擧行す。新入生徒百八十名。本科三個學級・技藝專修科一個學級・同年六月二十三日普通教室落成につき新校舍に移轉す。同三十七年十月一日　天皇陛下　皇后陛下の御眞影を下賜せらる。同四十三年二月二日技藝專修科を廢止す。大正四年十月二十六日　天皇陛下の御眞影を下賜せらる。同五年十月　皇后陛下の御眞影を下賜せらる。同六年十二月　皇太子殿下の御眞影を下賜せらる。同九年四月學則改正岡山縣津山高等女學校と改稱す。同十二年四月創立滿二十週年記念式を擧行す。同十四年四月學則を改正し生徒定員を七百五十名とす。

經費　大正十四年度經常部歲出豫算左の如し。

總額　四五、〇五五圓〇一

內譯　俸給　三四、一一六圓六　校費　三、三二四圓三六　雜給　五、八九四圓三四

國庫納金　三〇九圓六六　修繕費　一、四一〇五圓

郡市別生徒數（大正十四年度）

苫田	勝田	英田	久米	眞庭	岡山	御津	赤磐	和氣	邑久	上道	兒島	都窪	淺口	小田	上房	阿哲	他府縣	計
四〇三	八七	三〇	一一八	三四	五	八	六	二	一	二	二	一	一	一	三	五	一三	七二二

職員氏名（昭和二年二月十五日現在）

片川悅藏　山下毅一郎　齋藤知久三良　野村完六　高橋仁平　仁科義郎
赤野齋太郎　笠井周　前田カツ　松本春野　中島涉　大池德太郎
小原貞子　河井清　本田こま　下山德　片島美代子　吉浦千秋
池田猛　赤堀四一　長瀨峯久　吉屋金熊　蟾川隆治　廣澤照雄
前田ハマ　草場くにゑ　上田計吉　宮地守治郎（校醫）

□　津山實科高等女學校　所在　津山町大字田町

沿革概要　大正四年四月苫田郡敎育會の決議に依り知事の認可を經て、津山高等裁縫學校を創立し民家を借り受けて開校し、裁縫專修部敎員養成部の二部を置く。同五年五月苫田郡敎育會は會員醵出に因る明治天皇御聖德記念事業準備金を以て記念館（現在南二階立校舍）を建設す。同八年四月更に准敎員養成部を加設す。同九年二月津山實科女學校と改稱す。同年四月學則を改め本科・撰科・專科正敎員養成部・准敎員養成部・研究部の五部に分つ。同十年五月文部省の認可を經て、津山實科高等女學校を設立し、同時に准敎員養成部を廢す。同十一年三月津山實科女學校を廢し、更に裁縫敎員養成所を附設す。同十四年一月本校學則中本科生二百名の定員を三百五十名に改め、尙本年度より撰科の募集を廢す。同十四年八月本校創立滿十周年記念事業として金壹萬四千三百圓を以て本校敷地及び平家建物四棟を購入す。同年十月創立滿十周年記念式を擧行す。

經費　大正十四年度經常部豫算左の如し。

總額　一七、八九〇圓

內譯　俸給　一一、三六四圓　校費　三、九九五圓　雜給　一、七九三圓

修繕費　七三八圓

郡市別生徒數（大正十四年四月調）

	苫田	勝田	久米	英田	御津	吉備	東京	神戸	計	合計
本科	二〇〇	二五	三〇	一	―	―	一	一	二五八	三一〇
敎員養成部	三〇	一四	六	―	一	一	―	―	五二	

職員氏名（昭和二年二月十五日現在）

杉山宇三郎　田口有　荒内幸忠　山下一男　秋久秀次郎　高山與喜夫
植月寅吉　吉村生稲　上田計吉　永井正俊　廣山武雄　直原正雄
檜山房治　長原甲惠　原田喜和子　藤田露子　筒井河精　林昌（校醫）

□ **津山商業學校**　所在　西苫田村大字山北

沿革概要　大正九年三月二十七日本校設置認可、同年四月十六日入學式擧行、五月十四日校舍新築落成式竝に開校式を擧行す。同年六月二十二日教育に關する勅語謄本を下賜せらる。同年十二月二十九日　天皇・皇后兩陛下の御眞影を下賜せらる。同十一年二月十日　皇太子殿下の御眞影を下賜せらる。同年二月、大正十年三月文部省令第十七號商業學校規程に依り修業年限五ヶ年定員三百名とし入學資格を尋常小學校卒業程度とすることを認可せらる。同十二年十二月徵兵令第十三條第一項第二號に依る中學校の學科程度と同等以上の學校たること、竝に文官任用令第六條に依り認定せらる。

經費　大正十四年經常費歲出部豫算左の如し

總額	三八、一九五圓					
內譯	俸給	一八、八一六圓	校費	六、三四〇圓	雜給	二、七四九圓
	修繕費	二九〇圓				

郡市別生徒數

津山町（津山町を除く）	苫田	久米	勝田	英田	眞庭	御津	赤磐	上房	岡山	他府縣	計
八九	八九	三九	二九	六	四	三	二	一	四	六	二七二

職員氏名（昭和二年二月十五日現在）

梶原峰治　河瀨貞一　秋山松治郎　白井靜治　山本藤市郎　牧山政一
北野利秋　八木謹一　岡本董　赤木雄一　家本正道　石井眞一
草地行則　流鄉薰　塚原主一　渡邊榮（配屬將校）　河野稻太郎（校醫）

第七節　各種學校

□ **苫田郡醫師會產婆看護婦講習所**　所在　津山町大字田町

苫田郡醫師會の設立に係るものにして、大正十三年三月苫田郡醫師會產婆看護婦學校の名稱の下に設立せしが同十五年三月現名稱に改む。その目的善良なる產婆看護婦の養成を成すにあり。定員六十名、高等小學校卒業及び高等女學校第二學年の課程修了以上の學力を有し、品行ヶ正身體强健なる者を入學せしむ。修業年限を二ヶ年とし、第一學年は主として學說を敎授し、第二學年は專ら津山町內醫師會員經營の醫院に於て實地練習をなさしめ傍ら學說の補習をなさしむ。現在生徒三十七名、

所長　安東久次郎。

□ **津山高等洋服裁縫學校**　所在　津山町大字中之町

本校は岡上岩治郎私設に係り、大正十三年四月創立す。質實剛健なる職業婦人の養成を目的とし、特に洋服裁縫の教授を主とす。定員は本科三十名。研究科若干名、本科には尋常小學校卒業以上の者にして年齢十五歳以上の者を、研究科には本科一年の課程を了へたる者を入學せしむ。修業年限は本科一年、研究科二年、學年を前期（四月より九月末迄）後期（十月より三月末迄）に分つ。現に本科生十二名研究科生六名有り。

第八節　幼稚園

□ **私立津山幼稚園**　所在　津山町大字南新座

明治三十八年五月津山町大字田町江口繼男の邸宅に於て、芳野村大字古川宮川春野之を創設し經營せしが、明治四十二年三月津山町學務委員數氏相謀りて之が經營を繼承し、學務委員西原正臣園長と爲り、園舍を大字戸川町妙顯寺に移す。かくて、明治四十三年六月園舍を大字南新座宮田艶子の邸宅に移す。明治四十四年四月更に園舍を大字南新座高山源助の邸宅に移す。之れ即ち現時の園舍なり。以來小澤庫世氏主任保姆となり詰据經營し園勢漸次發展しつゝあり。園兒の數は明治四十二年頃は百名前後なりしが、漸次增加して現に百三十名に達せり經費は明治四十二年度の歳入出經常部豫算總額四百九拾參圓なりしが、漸次增加して大正十五年度は千二百三十

圓に達せり。明治四十二年以降毎年津山町費の補助を得、其の他の主なる收入は園兒の保育料に依る。

歷代園長氏名

宮川春野　西原正臣　植月皓　渡部惟明　今井壽牧　馬坂田義一（大正十年就任以來現時に及ぶ）

□ **私立二葉學園**　所在　津山東町千光寺境外

大正十年二月、千光寺住職早川賢牛現位置に二葉學園を創設し、附近の幼兒二十名許を收容して之を保育す。後地方有志者の援助を得て、大正十二年六月園舍を新築す。これ現時の園舍なり。本園兒は津山東町・福岡村・東苫田村等より通園し、園主の拮据經營の結果、漸次隆昌に向ひ、現に園兒九拾餘名に及ぶ。職員は現に園主の他主任保姆一名、助手一名なり。

大正十二年四月幼兒健康相談所を併設し、毎月十日より二十日迄の間に於て、園醫河野稻太郎、森治郎、幼兒の健康相談に應じ、且つ毎年一回優良兒の表彰を行ふ。

本園の經費は大正十年度經常部歳入出豫算總額四百十六圓餘なりしが、漸次發展して大正十四年度經常部歳入出總額七百六拾八圓五拾錢に達し、主なる收入は岡山縣、津山町、津山東町費補助及び有志者の寄附金に俟つ。

創立以來の園長　早川賢牛

第九節　社會教育

（一）概　說

本郡に於ける社會教育施設は明治三十三四年頃迄は甚だ幼稚にして、町村に於ける青年會・婦人會並に郡教育會等に於て、通俗的講話を行ひ、教育會に於て、時々展覽會を開催する等のことに止り、特筆するに足るものなかりしが、明治三十五年頃より、幻燈及び蓄音機を利用して、郡教育會總會等の際通俗講話を行ひ、一面知德の修養並に會合趣味の涵養に資すると共に、他面娯樂に資せんことに努むるに至りしが、明治三十七年日露戰役の際幻燈の他往々活動寫眞をも利用して、戰時講話を行ひ、開戰の理由の徹底と忠君愛國の思想の養成に資することと稍々益んに行はれしは、社會教育上の一大進歩と謂ふべし。

通俗講演會の開催は、明治四十一年十月戊申詔書の煥發せられしより、郡事業として、郡自體之を行ふは勿論町村教育會・婦人會・青年團等に對しても、之等の施設を奬勵せしにより、通俗講話の施設は益々盛んとなるに至れり。

明治四十二年以後は郡教育會主催の下に、郡内數箇所に於て概ね毎年一回宛知名の士を聘して通俗講演會を開催するを常例となせり。特に同年よりは本縣に於ても、教育資金使用に關する規程に依り、毎年奬勵金の交付を行ふに至りしに依り、本郡社會教育施設一段の活氣を呈するに至れり。

郡制實施の結果郡事業として本郡社會教育施設を行ひしこと、本縣教育資金使用に關する規程に依り、社會教育奬勵金の交付ありしこと、の二施設は、實に本郡社會教育振興上の一大動力と謂ふべく、爾來年を追ふて益々盛んとなれり。

而して大正九年本縣社會教育主事の設置ありて、本縣社會教育上の方針を確立し、之が實施に關し益々指導督勵を加ふるところありしにより、本郡社會教育施設の整備を見ると共に頓に活氣を呈し、青年團・婦人會・女子青年會等の組織改善及び内容の充實、實業補習學校及び簡易文庫等の設置も亦年を遂ふて各町村に實施され、茲に郡教育の劃時代的發展を見るに至れり。

大正十二年度より郡制の廢止せられたるに依り、郡事業として、社會教育施設を行ふこと能はざるに至りしも民衆の自覺大に進みたると、郡當局の指導奬勵及び縣費を以て之等の諸團體に經費の補助を與ふるに至りしとは相俟ちて、從來實施し來れる社會教育施設に些の動搖衰頽を來さざるのみならず、益々健全なる發達を爲し以て今日に及ぶ。

實業補習學校・圖書館・青年團・女子青年會・婦人會・裁縫塾・花道・茶道等の傳習所等、社會教育機關として記述すべきもの尠からざれども、實業補習學校は實業補習教育の部に、青年團・女子青年會等は各種團體の部に、花道・茶道等は藝道の部に於て之を收めたれば、こゝには單に、圖書館・裁縫塾等につきて略述することとせん。

（二）圖書館

圖書館及び文庫は社會教育施設として重要なる機關なれば、年を逐うてその數を增加し、今や概ね各町村・各學校之が施設を見ざるなきに至れりと雖も、法規に依りてこれが設置の手續を了せるものは未だその數多からず左にその筋の設置認可を經たるものゝ概況を表示せん。

名稱	所在	創設時期
二宮圖書館	二宮小學校	大正十一年
鄉圖書館	鄉小學校	大正十一年
富圖書館	富小學校	大正九年
記念圖書館	久田小學校	大正十年
羽出簡易圖書館	羽出小學校	大正十年

□ **津山基督教圖書館** 所在 津山町大字山下

本圖書館は津山町大字山下森本慶三の獨力を以て創設經營に係るものにして、大正十五年一月三日開館式を行ひ、同月十日より圖書閱覽を許せり。木骨人造石塗二階建の宏壯なる本館及び附屬建物を有し、建築費約四萬圓設備費五千圓を要し、藏書數二千七百餘冊（大正十五年六日調）に及ぶ。本館は主として基督敎に關する研究に資せんことを目的として設立したるものなれば、基督敎及び宗敎哲學に關する圖書殆からざれとも、其他一般の

名稱	所在	創設時期
苦田圖書館	西苦田小學校	大正十二年
香北圖書館	香北小學校	大正九年
東苦田簡易圖書館	中道小學校	大正十年
小田圖書館	小田小學校	大正十四年
上加茂圖書館	上加茂小學校	大正十四年

圖書を設備し社會教育に資するところ尠からず。

（三）裁縫塾

職業教育殊に實業補習教育機關未だ完からざる今日に於ては、青年期の女子を收容して之に職業的補習教育を主として課する私設裁縫塾の社會的貢獻や實に尠少ならずといふべし。左に生徒常に三四十人以上を有するものを列記せん。

裁縫所名稱	位置	主任敎師名	創立年月	學科	沿革の大要
仁木裁縫所	津山町大字福渡町	仁木 幾代	明治十四年	裁縫・花道・茶道	
山名裁縫所	津山町大字安岡町	山名 多美	同 二十五年	裁縫	
津山小林裁縫所	西苦田村大字小田中	小林いし子	同 二十八年四月	裁縫・細工物類、花道・茶道・作法・修身・算術・作文・習字・和歌・樂（吉備樂・吉備舞）	創立後宮田艷子と協同して淑德館を開始し同館に在勤五ヶ年自宅裁縫に對しては代理をして教授せしめ廢館後專ら自宅敎授に任じ以て現今に及ぶ。
秋久裁縫所	津山東町大字林田	秋 久千代	同 四十二年五月	裁縫・刺繍・手藝・茶道・花道	創立者松岡とよ、後松岡ともよ之を繼きて今日に及ぶ。
松岡裁縫所	東一宮村大字東一宮	松岡とよ 松岡ともよ		裁縫	創立二年後會苦田郡敎育會經營に係る津山高等裁

三浦裁縫所	津山町大字田町	三浦すけを	大正二年	裁縫
本多裁縫所	津山町大字戸川町	本多文子	同 十年四月	裁縫
中山中學塾	中山神社境内	築山啓一 其他九名		倫理・國語・漢文・地理・歷史・理科・數學・農業・公民・英語・体育・

縫學校創立に當り自宅裁縫學舍を一時閉鎖して同校に就職し大正六年三月同校を辭し同年四月より再び自宅に於て教授、以で今日に及ぶ。

第十節　現今廢止となれる教育諸機關

茲に意味せる現今廢止となれる教育諸機關とは、小學校・中等學校・補習學校は勿論、漢學塾・裁縫所等の公私立學校及び私塾等にして現今廢止となれるものを總括したる名稱にして、其の總數約百餘に及ぶ。即ち、小學校八〇、中等學校七、補習學校二、漢學塾二、裁縫塾一二なり。これ明治初年學制頒布以來一村或は數ヶ町村組合によりて創設せし、小學校其の他中等學校・補習學校等が町村の合併學制の變革其他種々の事情により、私塾裁縫所等も亦經營者の異動その他種々の事情により、廢止となれるものなり。

左にその創立以來經路の概要を表記せん。

□廢校と其徑路（備考　○は廢校　△は現在校　大正十五年十二月調）

創立年月	校名	所在地	異動年月	合併、併置、獨立等校名	合併併置又は獨立等年月 同上所在地
明治五年	○二宮村、院庄村、神戸村、戸島村、吉原村、古川村、布原村、寺元村、眞加部村、宗枝村、下原村、薪森原村、原村、河本村、高山村	○組合六々七品學校	古川村 寶性寺	明治六年頃組合解除	○二宮村外三ヶ村育英學校（獨立校名） △千之學校（獨立校名）今の芳野校 △盈進學校（獨立校名）今の郷校
明治六年	○二宮村外三ヶ村組合育英學校	院庄村	組合解除（年月不詳）	○二宮學校（獨立） ○岸上學校（獨立）	明治六年（獨立） 同 七年（同上） 同 七年 同上）
不詳	○二宮學校	二宮村（龍澤寺）	明治二十年	○院庄村二宮村組合立雙松尋常小學校（合併校名）	明治二十年五月（合併年月）
不詳	○岸上學校	院庄村	同上	廢校	院庄村
明治廿年四月	○院庄村外三ヶ村古川村外五ヶ村河本村外四ヶ村圓宗寺村外四ヶ村上森原村外四ヶ村入村外二ヶ村	○高等千之小學校（二十年四月以前は二三年間古川村ニ委託教授ノ情態ナリシナリ）	古川村	明治二十一年組合解除	○院庄村外三ヶ村は雙松校に高等科を合置す ○古川村外二十三ヶ村は組合を維持す 明治二八年位置を竹田に轉じ竹田高等小學校と稱
明治十一年四月	○院庄村外三ヶ村組合雙松尋常高等小學校	院庄村	大正十一年三月三十一日組合解除	△二宮尋常高等小學校（獨立校名） △院庄尋常高等少學校（獨立校名）	大正十一年四月（獨立年月） 大正十一年四月（同上）
					明治二十一年四月（獨立年月） 明治二十一年四月（同上） 明治二十八年三月 大野村大字竹田
					院庄村 古川村 院庄村

明治二十八年三月 ○芳野村外四ヶ村組合 ○竹田高等小學校

不　詳　○自修學校成修學校

明治八年　○自修學校

同　上　○切磋學校

明治九年七月　○琢磨學校

同　上　○自近學校

明治二十三年五月　○尋常修齊小學校第一支校

明治二十年四月　○修齊尋常小學校

不　詳　○尋常修齊小學校第二支校

明治廿五年十二月　○近衛尋常小學校

明治十三年四月　○富仲間分教場

明治七年八月　○自勵學校

同　上　○近知學校

大野村 大字竹田 ― 明治四十一年四月 △各村の尋常小學校に高等科を併置す

圓宗寺村 澤田村 ― 年月不詳廢校 ○自成小學校（合併校名）

圓宗寺村 土居村 ― 明治二十四年四月 廢校 △尋常大野小學校（合併校名）

塚谷村 中谷村 ― 明治二十年四月 廢校 ○尋常修齊小學校（合併校名）

小田村大字下森原 ― 明治二十六年四月 廢校 △小田尋常小學校（獨立校名）

中谷村 大字入 ― 明治二十六年四月組合解除 △修齊尋常小學校（獨立校名）今の中谷校

中谷字 近衛田 ― 明治廿五年月 ○近衛小學校（獨立校名）

中谷村 近衛田 ― 明治四十三年六月 廢校 △中谷尋常高等小學校 近衛分教授場

富仲間 ― 廢止年月不詳 本校富小學校に合併

久田下原村 ― 明治十九年一月 廢校 △久田小學校（合併校名）

黒木村 ― 同年一月

明治四十一年（高等科併置年月）芳野村・鄉村・大野村・小田村・中谷村

明治七年七月（合併）（分離）大野村 明治十二年（吉詳寺内）

明治二十四年四月（合併年月）大野村大字土居

明治二十年四月（合併年月）入村

明治二十六年四月（獨立年月）小田村大字森原

明治二十六年四月（獨立年月）小田村

明治二十六年四月（獨立年月）中谷村

明治廿五年十二月（獨立年月）中谷村近衛田

明治四十三年六月（分教場設置年月）中谷村近衛田

富東谷

明治十年十月 ○近知小學校分教場

箱 字河原 ― 明治十五年三月 廢止併 ○本校近知小學校に合

井坂村 ― 明治廿五年 廢校 ○泉尋常小學校（合併校名）

女原村 ― 明治三十年 明治三十三年三月（合併年月）泉村大字女原

苫田村 字谷合 ― 明治二十三年 組合解除

泉村 大字女原 ― 明治三十七年 ○泉村羽出村組合泉高等小學校

泉村 大字女原 ― 明治三十七年 組合變更 ○泉村羽出村組合泉農業補習學校（變更校名）

泉村 大字女原 ― 明治三十九年四月組合解除 △泉村立泉農業補習學校（獨立校名） △羽出村立羽出農業補習學校（獨立校名）

泉村大字女原 ― 明治三十九年四月（獨立年月）

羽出村 ― 明治三十九年四月（獨立年月）

明治三十三年四月 ○奥津村組合奥津高等小學校

奥津村 字細田 ― 明治三十七年 ○上齋原村組合奥津高等小學校 變更

奥津村 字細田 ― 明治三十七年 組合變更 ○奥津村上齋原村組合奥津農業補習學校（變更校名）

奥津村 字細田 ― 明治三十九年四月組合解除 △奥津村立奥津農業補習學校（獨立校名） △上齋原村立上齋原農業補習學校（獨立校名）

奥津村 ― 明治三十九年四月（獨立年月）

上齋原村 ― 明治三十九年四月（獨立年月）

明治三十七年四月 奥津村字細田

明治三十九年四月（獨立年月）奥津村字細田

明治三十九年四月（獨立年月）上齋原村

明治七年四月 ○日新學校

同　上　○成器學校

同　上　○時習學校

津山之町 ― 明治二十年四月 廢校

津山京町 ― 明治二十年四月 廢校

津山宮脇町 ― 明治二十年四月 廢校 △尋常津山小學校（合併校名）

明治二十年四月（合併年月）津山京町（舊成器の校舍）

同七年六月	○開知學校		明治九年廢校	○時習學校に合併	
明治七年五月	○鶴山學校	津山山下	明治九年廢校	○成器學校に合併	
明治二十年四月	○尋常津山小學校第一支校	宮脇町舊時習校舍	明治三十二年廢校		
同上	○尋常津山小學校第二支校	中之町舊日新校舍	明治三十二年廢校		
明治二十年四月	○津山町外一町五ヶ村組合鶴山高等小學校	津山山下	明治三十四年四月一日組合解除	△各町村の尋常小學校に高等科を併置す	明治三十四年四月一日津山町・津山東町・林田村・東苫田村・西苫田村・東一宮村・田邑村
明治二十三年四月	○尋常津山東町小學校	舊日新校區內	明治三十三年四月廢校	△津山尋常小學校に合併	明治三十三年四月 津山町大字山下
明治三十四年四月	○西苫田村外三ヶ村組合苫田高等小學校	西苫田村大字山北	明治四十一年三月組合解除	△各村の尋常小學校に高等科を併置す	明治四十一年四月西苫田村・東苫田村・東一宮村・田邑村
明治七年	○不休學校	香々美村	明治四十二年三月 同上 廢校	△香々美尋常高等小學校（合併校名）	明治四十一年四月 香々美南村
明治十二年	○成修小學校	澤田村			
明治二十八年五月二十八日	○香々美南村外二ヶ村組合鏡水高等小學校	香々美南村	明治四十一年三月組合解除	△各村の尋常小學校に高等科を併置す	明治四十一年四月 香々美南村・香々美北村・一宮村
明治八年一月	○越畑村岩屋村組合章明學校	越畑村	明治二十七年廢校	香北尋常小學校の分教場と成る	明治二十七年 香々美北村大字越畑
明治二十七年	○香北尋常小學校越畑分教場	越畑	明治四十二年四月廢止	△越畑尋常小學校（獨立校と成る）	明治四十二年四月 越畑

不詳	○山崎學校	高野山西村	明治九年廢校	△高野小學校に合併	
明治二十一年五月	○野村外ヶ村組合鴨川高等小學校	野村	明治二十七年三月組合解除		
明治二十七年四月	○高野村神庭村組合鴨川高等小學校	高野村高野本郷	明治四十一年三月組合解除	△各村の尋常小學校に高等科を併置す	明治四十一年四月 高野村神庭村
明治十年九月十五日	○野村草加部村楢村組合成名小學校	野村	明治四十二年九月十四日組合解除	△同位置に高野村立成名尋常小學校を設置し草加部及楢の就學兒童の委託教授をなす	明治四十二年九月十五日 高野村大字野
明治七年八月	○志戸部村沼村大田村組合有章學校	志戸部村	明治十七年三月 同上 廢校	△中道小學校（合併校名）	明治十七年 月勝部村
明治八年六月	○勝部村籾保村組合日就學校	勝部村			
明治七年八月	○鳥羽學校	西山方字鳥羽	明治十年廢校	△知新小學校に合併知新は今の東一宮小學校	明治十年 東一宮村
明治十八年 同上	○神庭小學校 ○精葉小學校	綾部村	明治二十六年七月廢校	△清泉尋常小學校（合併校名）	明治二十六年七月 神庭村大字綾部
明治九年十月	○寄松學校	下高倉村字寄松	明治二十二年廢校	△尋常高倉小學校（下高・上高合併校名）	明治二十二年 高倉字有重
不詳	○上高村大篠村組合育英學校	大篠村字乘井	明治二十二年組合解除	△大篠は尋常高田小學校に合併	明治二十三年四月 高田村大字下横野

不詳	○清水小學校	上横村字御先	明治二十年廢校	○弘明小學校に合併	明治二十二年下横野村多聞寺後に畝に移轉
不詳	○弘明小學校	下横野村多聞寺	明治二十三年四月廢校	△尋常高田小學校に合併	明治二十三年四月高田村大字下横野字岡鼻
明治二十三年四月	尋常高田小學校第二支校	大篠字彌谷	明治二十五年十月廢校	△本校尋常高田小學校に合併	明治二十五年十月高田村大字下横野字岡ノ鼻
	○高等高田小學校	大篠善應寺後に乘井に移轉	明治二十七年四月廢校	○高倉村組合ひ篁高等小學校を創立す	明治二十七年四月高田村大字大篠字乘井
明治二十七年四月	○高田村高倉村組合篁高等小學校	大篠乘井	明治四十一年三月組合解除	△各村の小學校に高等科を併置す	明治四十一年四月高田村高倉村
明治七年八月	○成美學校後に知和尋常小學校	知和村	明治二十三年四月廢校	○尋常加茂小學校の第六支校と成る	明法二十三年月上加茂村大字知和
明治二十三年月	○尋常加茂小學校の第六支校	知和村	明治二十六年六月組合解除	△知和尋常小學校獨立校名知和は今の上加茂小學校	明治二十六年六月同大字知和
不詳	○盡善小學校	物見村	明治二十二年廢校	○尋常河井小學校に合併	
明治廿六年	○河井尋常小學校（初め弘成學校）	河井村	明治四十四年廢校	△上加茂尋常高等小學校の分教場と成る	明治四十四年四月一日同大字河井
明治卅五年四月	○上加茂高等小學校	知和	明治四十二年三月三十一日廢校	△上加茂尋常小學校に併置す	明治四十二年四月一日同大字知和
明治年月	○青柳小學校	青柳村	明治十九年月廢校	高等尋常都々小學校の組合に入る	明治二十年七月小中原村

明治八年月	○公郷村成安村組合公成小學校	公郷村	明治二十年七月組合解除	高等尋常都々小學校の組合に入る	明治二十年七月小中原村
同八年月	○楢井村行重村組合至誠小學校	行重村	明治二十年七月組合解除	○高等尋常都々小學校の組合に入る	明治二十年七月小中原村
明治七年八月十四日	○小中原村・塔中村・齋谷村・桑原村・田淵村・中原村・百口村 組合都々小學校	小中原村	明治二十年七月組合解除	○高等尋常都々小學校の組合に入る	明治二十年七月小中原村
	○宇野村・原口村・戸賀村・黒木村・倉見村・知和村・山下村・河井村・物見村・阿波村 十ヶ村の高等科			○高等尋常都々小學校の組合に入る	明治二十年七月小中原村
明治二十年七月	○小中原村外二十一ヶ村組合高等尋常都々小學校	小中原村	明治二十三年四月高等尋常分離	△尋常加茂小學校（加茂・西加茂・東加茂・上加茂四ヶ村組合 △一支校黒木・二支校倉見・三支校宇野・四支校中原・五支校下津川・六支校知和・七支校河井の七支校を置く △高等加茂小學校（尋常校の組合村の上に阿波村加はる）	明治二十三年四月小中原村
明治二十三年四月	○加茂村外三ヶ村組合尋常加茂小學校	小中原村	明治二十六年六月組合解除	○小中原尋常小學校	明治二十六年六月大字小中原
	○尋常加茂小學校下津川支校	下津川	明治二十六年六月廢校	○下津川尋常小學校	明治二十六年六月下津川
明治二十	○同上 宇野支校	宇野	明治二十六年六月同上	○宇野尋常小學校	明治二十六年六月宇野

三年四月	○同	上	知和支校	知	和
明治二十六年六月同上	○同	上	河井支校	河	井
明治二十七年四月	○小中原小學校行軍分教場		行	重	
明治二十三年四月	○加茂外四ヶ村組合	高等	加茂小學校	小	中	原
明治二十六年六月	○小中原尋常小學校			小	中	原
明治二十六年六月	○小中原高等小學校			小	中	原
明治二十六年六月	○下津川尋常小學校			下	津	川
同	○宇野尋常小學校			宇	野	
明治二十三年四月	○加茂村外二ヶ村組合加茂尋常高等小學校中原分教場			中	原	
明治三十五年四月	○加茂村外二ヶ村組合加茂尋常高等小學校			小	中	原

明治二十六年六月同上　△知和尋常小學校　明治二十六年六月　知　和

明治二十六年六月同上　○河井尋常小學校　明治二十六年六月　河　井

大正四年十月廢止　△四加茂尋常高等小學校に合併　大正四年十一月　中　原

明治二十六年六月改稱　○小中原高等小學校　明治二十六年六月　小　中　原

明治三十五年四月組合解除　○加茂村・西加茂村・東加茂村組合加茂尋常高等小學校　明治三十五年四月　小　中　原

明治三十五年四月組合解除　○加茂村外二ヶ村組合加茂尋常高等小學校の分教場と成る　明治三十五年月　下　津　川

明治二十九年五月廢止　○本校加茂尋常高等小學校に合併　明治二十九年五月　小　中　原

大正四年十月廢止　△加茂尋常高等小學校（獨立校名）△四加茂尋常高等小學校（同上）△東加茂尋常高等小學校（同上）　大正四年十一月　小　中　原

明治三十五年月　下　津　川

明治三十五年四月　小　中　原

明治二十六年六月　知　和

明治二十六年六月　河　井

大正四年十一月　中　原

明治二十六年六月　小　中　原

明治二十六年六月　小　中　原

明治二十六年六月　小　中　原

明治二十九年五月　小　中　原

大正四年十一月　小　中　原

明治三十五年　○加茂村外二ヶ村組合加茂尋常高等小學校下津川分教場　下　津　川　大正四年十一月廢止　△本校東加茂尋常高等小學校に合併　大正四年十一月　桑　原

□ 中等學校及之に準ずべきもの

創立年月	校名	位置	設立者又は教師氏名	廢校年月
明和二年	○學問所	城内	津山藩主松平康致	
天保十四年	○武藝稽古場	山下	津山藩主松平齊民	
安政五年	○修道館	同上	津山藩主松平慶倫	廢藩當時

沿革　安政五年右學問所の學制を恢張す

明治三年制度を革新して修道館と稱す

明治四年講堂新築庶民の入學をも許容す

明治五年	○中學校	山下（舊藩舊修道館現今、岡山縣立高等女學校）	明治六年
明治七年	○北條縣教員傳習所	舊藩御對面所 北條縣	同九年四月

（御對面所は現今の津山公園内の建物迎賓館（後ち館は改築、今現存せるもの）當時對面所、餘芳閣其他三ヶ所の小さき建物を使用せり）

明治九年十月　○岡山縣師範學校津山支學　山下（舊北條縣の廳舍を使用す）　岡山縣　同十二年

明治十四年七月　○西々條郡　○西北條郡　○東南條郡　○東北條郡　○久米南條郡　○久米北條郡　○共立中學校　山下（舊北條縣廳跡）　西々條郡外五郡　校長　岡田純夫　同　年

明治十六年一月　○時敏學舍　椿高下（上原璟一郎宅）　塾長　上原璟一郎　明治二十四年九月　岡山縣立岡山中學校ニ奉職ノタメ閉塾同卅三年歸津再開塾大正十年閉塾

明治二十五年四月　○津山普通學校　山下　校長　大村斐夫　教頭　菅沼定光　明治二十八年八月

明治十七年一月　○以文舍　新魚町入江茂次郎宅　塾長　菅沼定光　明治廿一年八月

明治卅七年七月　○淑德館　後田町に移轉す　南新座宮田靜處宅　教師　江口繼男・河瀨大三　舘長　矢吹正則　明治廿八年八月　主任　宮田靜處

明治卅九年三月　○津山實用女學校　中之町　校長　渡部惟明　明治四十四年三月

最終南新座現在の幼稚園舍　校長　高山源助

□裁縫所

創立年月　裁縫所名　位置　教師氏名　廢所年月

明治元年二月　○松岡裁縫所　田町　松岡千鶴　明治二十年九月

同七年　○自正小學校附屬裁縫所　圓宗寺村池上つき宅　池上つき　明治十五年

長るい

同八年　○公立津山裁縫傳習所　矢野武一（二階町）　明治十三年

初、二階町　牧山宅　岡清一（岡山）

二、同町　茂藤宅　鹽田つね（岡山）

三、山下　舊北條縣廳跡

四、田町　尾上宅

同十三年　○牧山裁縫所　二階町　牧山貞宅　牧山貞　明治四十四年三月

同與志

同十七年三月　○三木裁縫所　小田中　三木登美宅　三木登美　明治三十八年

同十七年五月　○長谷川裁縫所　椿高下　長谷川つね宅　長谷川つね　明治四十年五月

同十七年　○瀨島裁縫所　大野村大字土居　瀨島しづの宅　瀨島しづの　不詳

同十九年四月　○沼本裁縫所　椿高下　沼本久滿宅　沼本久滿　明治四十五年五月

同二十年四月　○菊井裁縫所　桶屋町　菊井澤子宅　菊井澤子　明治四十年二月

同二十五年　○坂田裁縫所　香々美南村大字寺和田坂田つや宅　坂田つや　明治三十九年

同二十六年九月　○勝山裁縫所　東一宮村　勝山伊與宅　勝山伊與　明治四十二年五月

同	二十八年	○下井裁縫所	香々美南村大字香々美下井そよ宅	下井そよ　未詳
同	二十八年四月	○晩翠裁縫所	神庭村大字綾部　安藤たけ宅	安藤たけ　大正九年十月卅一日
同	三十年十一月	○衣笠裁縫所	香々美南村公保田　衣笠與勢宅	衣笠與勢　同五年三月
同	三十四年十月	○居森裁縫所	小田村大字小座　居森りう宅	居森りう　同三十九年三月
同	三十六年四月	○池田裁縫所	大野村大字竹田　池田小芳宅	池田小芳　同六年十月
同	三十九年四月	○高見裁縫所	加茂町大字塔中　高見かよ宅	高見かよ　同元年三月
大正	五年四月	○藤田裁縫所	香々美南村大字市場　藤田ひさ宅	藤田ひさ　同八年七月

第十一節　選奨

（一）宮内省・賞勳局・文部省選奨

官廳	年月日	要項	職氏名
宮内省	大正九年十月三十日	多年教育功勞銀杯下賜	田邑尋常高等小學校長　今田丞
同	同		苫田尋常高等小學校長　太田廣藏
同	同		津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明
同	同		林田尋常高等小學校長　植月寅吉
賞勳局	大正三年六月二十九日	叙勳八等賜瑞寶章	津山女子尋常高等小學校長　牧　馬
同	同		津山女子尋常高等小學校長　植月　皓
同	大正四年十二月二十七日	同	津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明
同	同		津山女子尋常高等小學校訓導　牧　馬
同	大正六年五月二十五日	同	苫田尋常高等小學校長　太田廣藏
同	同		成名尋常小學校長　近藤市藏
同	大正六年十月二十七日	叙勳七等賜瑞寶章	林田尋常高等小學校長　植月寅吉
同	同		津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明
同	大正七年一月二十五日	叙勳八等賜瑞寶章	田邑尋常高等小學校長　今田丞
同	同		東一宮尋常高等小學校訓導　初川節義
同	同		同　校長　關好五郎
同	大正九年十一月九日	同	津山女子尋常高等小學校訓導　秋久秀次郎
同	同		羽出尋常高等小學校長　河野勳五郎
同	大正十年一月二十六日	叙勳六等賜瑞寶章	津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明

同	大正十年十二月二十七日	叙勳八等同	津山男子尋常高等小學校訓導入　江　岬
同	大正十一年一月二十六日	叙勳八等賜瑞寶章	津山女子尋常高等小學校訓導　植山眞治
賜	大正十三年九月二十七日	叙勳八等賜瑞寶章	院庄尋常高等小學校長　中村儀太郎
同	同	同	芳野尋常高等小學校長　椋代佐一郎
同	同	同	西加茂尋常高等小學校長　前原勝之助
文部省	明治四十四年二月十一日	多年教育功勞	津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明
同	大正四年十一月十日	多年教育勤勞硯箱	津山女子尋常高等小學校長　植月皓
同	同	同	津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明
同	同	同	同　訓導　牧馬
同	同	同	同　訓導　關好五郎
同	大正十一年十月三十日	多年教育功勞	苫田尋常高等小學校長　太田廣藏
同	同	多年教育功勞	成名尋常小學校長　近藤市藏
同	大正十四年二月十一日	多年教育功勞	苫田尋常高等小學校長　太田廣藏
同	同	同	林田尋常高等小學校長　植月寅吉

（二）岡山縣表彰　□教育功績者

年月日	表彰要項	氏名	職名
明治三十四年三月三十日	教育效績顯著　拾五圓	植月皓	津山尋常小學校訓導兼校長
同	同	井上顯甫	久田尋常高等小學校訓導兼校長
同	同	草地郡平	小中原高等小學校訓導兼校長
同	同	植月寅吉	鏡水高等小學校訓導兼校長
同	同	馬	津山尋常小學校訓導
同	同	渡部惟明	津山高等小學校訓導兼校長
同	同	牧	津山町長
同	同	江口繼男	西苫田村長
同	同	橋本嘉一郎	鄉村長
同	同	西村隆慶	大野村長
同	同	日笠省	鴨川高等小學校訓導兼校長
同	同	原田京平	双松尋常高等小學校訓導兼校長
同	同	內田又一郎	高田尋常小學校訓導兼校長
同	同	今田亟	河井尋常小學校訓導兼校長
同	同	武久義輝	

同　教育事務效績顯著　同　院庄村長江川義知
同　同　明治三十七年二月廿二日　教育效績顯著　同　芳野村長河田休男
同　同　同　同　竹田高等小學校訓導兼校長　德永藏太
同　同　同　同　修齊尋常小學校訓導兼校長　池上茂十郎
同　同　同　同　苫田高等小學校訓導　畑譽次郎
同　同　同　教育事務效績顯著　同　富村長押坂正義
同　同　同　同　同　久田村長牧野千眞太郎
同　同　明治三十八年一月十二日　同　津山町學務委員西原正臣
同　同　同　教育效績顯著　同　津山高等小學校訓導　片山義雄
同　同　同　同　同　奥津尋常小學校訓導兼校長　光永德次郎
同　同　同　同　同　高野村長岸本種次郎
同　同　明治三十八年十二月廿八日　同　知和尋常小學校訓導　永島利英
同　同　同　同　同　津山町長矢吹金一郎
同　同　明治四十年三月二十五日　教育事務功績顯著　同　加茂村長福原嘉之
同　同　同　同　拾五圓　小田村長北山伊五郎

同　同　同　效績顯著　同　香々美南村長林宗治郎
同　同　同　同　同　泉村長坂手堆登
同　同　同　同　貳拾圓　苫田尋常高等小訓導兼校長　太田廣藏
同　同　同　同　同　同　池上滋
同　同　同　同　同　双松尋常高等小學校訓導兼校長　片尾繁藏
同　同　同　同　拾五圓　成名尋常小學校訓導兼校長　近藤市藏
同　同　同　同　同　成修尋常小學校訓導兼校長　衣笠正義
同　同　同　同　同　上齋原尋常高等小學校長　藤木莊江
同　同　同　同　同　中道尋常高等小學校長　早尾靜一郎
同　同　同　同　同　田邑村長水島茂一郎
同　同　同　同　同　鄉尋常高等小學校訓導兼校長　片山尙道
同　同　同　同　拾圓　双松尋常高等小學校訓導　中村儀太郎
同　同　同　同　拾五圓　鏡水高等小學校訓導兼校長　椋代佐一郎
同　同　同　同　五圓　津山尋常高等小學校訓導兼校長　植月皓馬
同　同　明治四十二年二月十一日　盲啞敎育ノ成績優良　同　訓導牧

同	職務勉勵多年精勵	同	林田尋常高等小學校訓導	中野佐七郎
同	同	同	津山男子尋常高等小學校訓導	片山義雄
同	效績顯著	拾五圓	東一宮尋常高等小學校訓導	初川節義
同	同	同	清泉尋常高等小學校訓導	西川浪平
同	同	同	東一宮村長	永禮啓四郎
同	同	同	西苫田村長	和田勇次郎
同	同	同	鄉村助役	井上誓一
同	同	同	上齋原村長	藤木勇治郎
同	同	同	津山女子尋常高等小學校訓導	植山眞治
明治四十四年二月十一日	教育效績顯著につき文部大臣より選奬せられたるにつき	百五拾圓	津山男子尋常高等小學校訓導兼校長	渡部惟明
明治四十四年三月廿五日	功勞不鮮	拾圓	鄉村村役場小使	永江嘉市
同	效績顯著	拾五圓	林田尋常高等小學校訓導	中野佐七郎
同	同	同	香々美北村長	難波專太郎
明治四十五年二月十一日	同	拾五圓	中道尋常高等小學校訓導兼校長	菅沼澄夫
同	同	同	上加茂尋常高等小學校訓導兼校長	河野勘五郎
同	同	同	香々美南村長	青井朝治郎

大正二年三月二十六日	同	同	高田尋常高等小學校訓導	前原鐐之助
同	同	同	與基尋常小學校訓導兼校長	小坂田透平
大正三年三月二十五日	同	同	元大野村長	金田正志
大正三年三月二十六日	同	貳拾圓	大野尋常高等小學校訓導兼校長	日笠平吉
大正四年三月二十六日	同	同	中谷村長	宗本素男
大正五年二月十一日	普通教育ノ進歩發達ニ努力セルニヨリ	貳拾圓	上加茂村內田證一郎	
大正七年三月三十一日	多年教育從事效績顯著	貳拾圓	津山男子尋常高等小學校訓導	梶村滋三
大正八年二月十一日	同	同	鄉尋常高等小學校訓導兼校長	居森藤一郎
大正十一年二月十一日	多年教育從事成績顯著	參拾圓	双松尋常高等小學校訓導兼校長	今井良平
大正十二年二月十一日	效績顯著	參拾圓	田邑村長	田口寄文治
大正十三年三月三十一日	多年教育從事效績顯著	參拾圓	大野尋常高等小學校訓導兼校長	池上均一
同	特殊兒童教養效勞ニヨリ	貳拾圓	津山女子尋常高等小學校訓導	谷口辰二
同	同	拾八圓	同	石名善積
同	同	同	津山男子尋常高等小學校訓導	平井內逸
大正十四年二月十一日	同	參拾圓	中谷尋常高等小學校訓導兼校長	齋藤茂雄

同　（多年教育に從事効績顯につき文部大臣より選ばせられたるにつき）　三百圓　林田尋常高等小學校長　植月寅吉

□小學校

年月日	要項	學校名
明治三十四年三月三十日	設備、教授、管理、成績優良	津山尋常小學校
同　三十五年三月二十七日	教授訓育、設備良好、成績頁好	鄕尋常小學校
同　三十七年二月二十二日	設備、教授、管理、成績優良	津山高等小學校
同　四十年三月二十五日	教授、訓育、設備優良	大野尋常小學校
同　四十年三月二十五日	教授訓練ノ成績優良	高野尋常小學校
同　四十一年二月十一日	教授訓練ノ成績優良	林田尋常高等小學校
同　四十五年二月十一日	教授訓練ノ成績優良	上齋原尋常高等小學校
大正二年三月廿五日	教授訓練ノ成績優頁	成名尋常小學校
大正四年三月廿六日	教授訓練ノ成績優良	田邑尋常高等小學校
大正六年三月三十日	教授訓練ノ成績優良	高田尋常高等小學校
大正十一年二月十一日	教授訓練ノ成績優良	上加茂尋常高等小學校

□町村

年月日	要項	町村名
明治四十三年三月廿四日	教育實績顯著	拾五圓　鄕村
同　四十四年三月廿五日	教育實績顯著	同　芳野村
大正九年二月十一日	教育上の施設經營よろしきにより	貳拾圓　大野村

□奬勵金を交付せられたる學校

年月日	要項	學校名	金額
大正九年二月十一日	本縣實業補習學校奬勵規程第二條ニ該當	上加茂實業補習學校	百五十圓
同	同	富農業補習學校	百圓
大正十年二月十一日	同	芳野實務學校	百二十圓
同	同	東一宮實業補習學校	四十五圓

□表彰せられたる團體（大正十二年四月調）

年月日	團體名	金額
大正十年三月十三日	上齋原村青年團	上加茂村青年團
明治四十年三月二十五日	芳野村青年團	拾五圓　東苦田教育普及會
明治四十一年二月十一日	同	

同　阿波村處女會　同　神庭吉見家庭會

（三）苫田郡表彰

□學校（大正十二年四月調）

年月日	要項	學校名
大正十年三月三十一日	教授訓育成績設備優良	久田尋常高等小學校
同	同	芳野尋常高等小學校
大正十一年三月二十一日	同	東一宮尋常高等小學校
大正十二年一月三十一日	理科設備良好	苫田尋常高等小學校
同	村當局村民聯絡並ニ教授訓育成績優良	西加茂尋常高等小學校

□教育功勞者

年月日	職名	氏名
大正八年三月三十一日	東一宮尋高校長	衣笠壽夫
同	高田尋高校教員	勝山伊與
大正十年三月三十一日	津山女子尋高學校訓導	青井荒一
同	大野尋高校訓導	田淵治野
同	香々美南村學務委員	中島幹
同	田邑村長	田口寄文治
大正十一年三月三十一日	津山女子尋高校訓導	谷口長治
同	苫田尋高校訓導	岸本繁男
同	西苫田村學務委員	和田義起
同	奥津・泉・上齋原校醫	石田猛
大正十二年三月三十一日	二宮村長	小原謙吉
同	芳野村長	河田有弘
同	西苫田村長	畑信好
同	津山男子尋高校訓導	松本英一
同	久田尋高校訓導	大林信正
同	富尋高校訓導	山崎絹代

□帝國教育會より表彰せられたる者

大正五年五月六日　多年教育に從事し效績鮮からざるにより功牌　津山男子尋常高等小學校長　渡部惟明

□國民教育奬勵會より表彰せられたる者

昭和二年二月十七日　多年小學教育貢獻に對し功章及ベスタロッチ銅像　津山女子尋常高等小學校長　梶村滋三

第六章　衛生

第一節　概説

明治維新前に於ける本郡の醫事衛生狀態を顧みるに、一般人民に、個人及び公衆衛生思想の缺乏せしは未だ文化の遍からざる當時の事實として止むを得ざる次第なりき。然れども津山町は流石に藩主垂治の策源地なれば、藩醫町醫の技を揮ふものあり。殊に德川中世以後に及び、蘭學の興隆と共に西洋醫術の傳來ありしにより、國内の他郡に比し幾分か優位に在りしことは疑を要せざる所なり。而かも尙ほ時として傳染性惡疫の蔓延せしこと少からざりき、是れ素より衛生思想の發達せざるに基因するものなりと雖も、封建割據の弊制又與て是等病因を惹起せしものたるを記臆せざるべからず。蓋し傳染性惡疫の蔓延せるは多く凶歉の年又は其の翌年に在り、禾穀登らずして民に衣食の資なく、之を他領の民に仰がんと欲して得ず。窮乏愈々迫るに及び、草根を咀み、木皮を食し、而かも饑寒を支ふる能はず、其の極、惡疫を傳播して、隨所死者を出すに至る。天保七年本郡大凶作あり。翌年四月より、惡疫の大に流行せし如き事例に乏しからず。此の如き場合に方りては、多少は藥法救療の講せられしものありと雖も、固より九牛の一毛に若かず。其の他普通の病魔に至りては多く禁厭・祈禱・符呪等を行ひ殊に其の甚しきに及んでは之が爲め醫療を妨げ、或は自然に放任するの結果、不幸の夭折を招きしもの多かりき

近時文運の進歩に伴ひ、郡内開業の醫師藥劑師も其の數を增加し、一般の衛生思想も亦發達し、公衆的施設としては醫師に醫師會の組織あり、町村に衛生組合の設備あり、春秋の清潔法實施に方りては組合員は各自清潔に力め、傳染病院避病舍を設置し、一朝患者の發生せしときは直にこれを收容して其の病毒の傳播を遮斷するに力む。個人的方面に於ては相互相警めて衣服飮食に注意するのみならず、飮料水の檢査を行ひ、汚物掃除を嚴行する等、着々之が改善を督勵するに至り、今や漸を趁ふて良好なる成績を擧げつゝあるは眞に慶すべきなり。

第二節　衛生組合

衛生組合は各町村内に於ける、大字又は部落を單位として組織し來りしが、大正十五年七月縣令第一一五號を以て、衛生組合規則の改正に依り、町村を區域として組織することゝなり、昭和二年一月十四日迄に各町村これを組織す。更に各組合の指導統一を期し、事業の發展を圖る爲め、津山警察署管内の組合を以て、衛生組合聯合會を組織し、昭和二年四月十七日發會式を擧行し、將來益々之が活動を期せんとす。

（イ）町村衛生組合一覽表（昭和二年四月十七日現在調）

津山警察署管内に於ける町村衛生組合幹部及び部數等を表示すれば左の如し。

町村名	組合長氏名	副組合長氏名	部數	副部數	委員數
二宮村	今岡近太郎	東城伊八郎	三	一〇	院庄村
杉山八十一	大山甚太郎		三	二〇	

芳野村	坂手	利勇	佃	足穂	七 三〇
大野村	藤田	一作	築山	宗次	一一 一一
中谷村	宗本	素男	牧野頼太郎		六 一〇
久田村	岡田嘉名一		小林	清一	七 一一
羽出村	嘗谷勝太郎		妹尾平四郎		六 一三
上齋原村	柳井	保	三船	明雄	五
西苫田村	三浦枝萬造		細江	敬治	九 一三
田邑村	宮岡宇左衛門		中島義一		一五
香々美北	難波政治郎		三木	靜勇	五五 一二
高野村	保田九一郎		秀山	竹治	八 四二
東一宮村	岡田一杢平		森永	甚内	三 六
高倉村	山本	廉造	江川	熊夫	一八
加茂町	木本	衛	宇佐美	保	八 三〇
東加茂村	木村	壽平	大杉正十五		九 二七
阿波村	戸井	光雄	小椋一治郎		八
佐良山村	坂手俊治郎		荻野	精一	九 一七

郷村	西村	哲平	井上	盛市	七 二八
小田村	山崎孝四郎		内田柳三郎		五 一一
富村	押阪	義倫	森	啓一	五五 一七
泉村	馬場	茂美	坂手敦二郎		七 二
奥津村	友保	知	光永	琢磨	六 一二
津山町	中島	琢之	高木正三生		四三 四三 一七一
一宮村	武川	生	杉浦	智雄	三 三 一五
香々美南	田口	梁兵	小坂	道雄	九 一一
津山東町	千田	勇	井上	義夫	一〇 一〇 四一
東苫田村	野尻	通雅	北原	力夫	五 二七
神庭村	岡田	一信	早瀬	剛毅	六 一二
高田村	晴山英二郎		片山	庄松	一〇
西加茂村	垂井	正平	平井	長雄	五 二〇
上加茂村	妹尾	瀞	田中町次郎		四 一三
福岡村	池上	靜陶	雅美		二三 四二
合計					二一五 六六 七二〇

（ロ）衛生組合聯合會役員（昭和二年四月十七日現在調）

會長　中島　琢之　副會長　田口　梁兵

評議員　坂手俊治郎、今岡近太郎、友保　知、三浦枝萬造、千田　勇、晴山英二郎、木村　壽平

第三節　開業醫師・藥劑師・産婆

（イ）醫師（昭和二年四月七日現在調）

開業地	種別	氏名	開業地	種別	氏名
津山町	醫師	侯野來次	津山町	醫師	宮地守治郎
同	同	砂田善平	同	同	中島琢之
同	同	宮本寛	同	同	稻田房太郎
同	同	林昌	同	同	森岡榮
同	同	能勢佐市	同	同	岩本護
同	同	久原茂良	同	同	赤堀淳太郎
同	同	森治郎	同	同	千田徑
同	同	河野稻太郎	同	同	角田權
同	同	宮尾守治	同	同	村山長谷次郎
津山町	醫師	津山町	同	歯科醫	佐藤孝信
同	同	小坂田弘	同	同	岩本達治郎
同	同	松葉周一	同	同	稻見三好
同	同	上原六郎	同	同	鳥取義倫
同	同	光井貞八	同	同	村上恕一

津山町	齒科醫	片岡辰威	西苫田村
同	醫師	關當辰	久田村
同	齒科醫	眞木勝三	同
同	齒科醫	水島武	同
同	醫師	井汲進	羽出村
同	齒科醫	年本義章	泉村
同	齒科醫	山田三平	鄉村
同	齒科醫	横山龜	西加茂村
同	醫師	栗崎關男	香々美南村
同	齒科醫	藤井亮	加茂町
同	齒科醫	井關敬二	同
高田村	齒科醫	晴山英二郎	同
同	齒科醫	岸本脩吉	同
大野村	醫師	万袋大祐	一宮村
同	齒科醫	井上武夫	小田村
津山東町	齒科醫	岸本有	西苫田村
同	醫師	萬袋丈平	高倉村
同	齒科醫	佐々木柳太郎	奥津村
同	齒科醫	藤本絢二	津山町
二宮村	齒科醫	眞木魁	竹井季志
院庄村	醫師	渡邊四馬	今岡近大郎
同	齒科醫	天川克己	芳野村

津山町	醫師	三浦枝萬造	奥津村
同	醫師	牧田正門	高野村
同		藤井正代	同
同	齒科醫	瀬谷治三	高野村
同	醫師	菅谷勝太郎	神庭村
同	醫師	坂手文齋	香々美北村
同	齒科醫	西村熊耶	神庭村
同	齒科醫	萬袋道三	上齋原村
同	齒科醫	後藤源治郎	大野村
同	齒科醫	内田久太郎	加茂町
同	齒科醫	鈴木爾泉	村
同	齒科醫	岸本有	西苫田村
同	齒科醫	流郷健	久田村
同	齒科醫	萬袋丈平	高倉村
同	齒科醫	佐々木柳太郎	奥津村
同	齒科醫	藤本絢二	津山町
同	齒科醫	眞木魁	竹井季志
同	醫師	石田猛	
同	醫師	中島大次郎	
同	齒科醫	保田幾次郎	
同	齒科醫	寺阪凌	
同	醫師	小林英輔	
同	醫師	難波櫓四郎	
同	齒科醫	早瀬健治郎	
同	齒科醫	柳井保	
同	齒科醫	長尾瀬市	
同	齒科醫	坂手晉	
同	齒科醫	和仁淺五郎	
同	齒科醫	木本衛	
同	齒科醫	牧野知	
同	齒科醫	江川熊夫	
同	齒科醫	田中金盛	
同	齒科醫	杉山榮	

(D) 藥劑師 (昭和二年四月七日現在調)

開業地	氏名
津山町	戸井暢熔
同	有本立
同	飯田四郎
同	牧野喜重
津山町	安東龜治郎
同	實成慶正
同	眞屋功
津山東町	萩尾正次

(八) 產婆 (昭和二年四月七日現在調)

開業地	氏名	開業地	氏名	開業地	氏名	開業地	氏名
津山町	秋山紅葉衣	津山町	妹尾登免	津山町	西山なかよ	高野村	兒島梅代
同	萬袋春	同	小坂はな	同	波田龜子	大野政代	
同	森本ヨシ	同	森本いまゐ	同	柴田千壽代	西苫田村	三浦かね
同	竹端長	同	下山花榮	同	山田はるよ	東苫田村	日下艷子
同	石田とし	同	植村富代	同	宇那木麻代	上齋原村	岸岡艷子
同	日笠松尾	同	石原きみ	同	中野スエ	津山東町	今井清野
同	三船まさの	同	水間松代	同	原田ふい	同	春名しずゑ
同	新川トシ	同	藤原正	同	桑本文女	小田村	河原政與

芳野村　杉山十一四
同　泉村　駒井鶴子
山田淑之　奥津村　沖田佐登志
二宮村　岡本さわ
久田村　池上菊代
加茂町　草苅とみよ

第四節　傳染病及び避病院

（イ）傳染病

最近四箇年間に於ける苦田郡各町村傳染病に關する事項を表示せば左の如し。

大正十三年

町村名	病名並轉歸別	赤痢	腸チフス	パラチフス	デフテリア	猩紅熱	流行性腦脊髓膜炎
二宮村	患者數		五			三	
	全治		四			三	
	死亡		一				
院庄村	患者數						
	全治						
	死亡						
芳野村	患者數	一					
	全治	一					
	死亡						
鄉村	患者數	七					
	全治	五					
	死亡	二					
大野村	患者數	一					
	全治						
	死亡						
小田村	患者數						一
	全治						
	死亡						

町村名	病名並轉歸別	赤痢	腸チフス	パラチフス	デフテリア	猩紅熱
二宮村	患者數					
	全治					
	死亡					
院庄村	患者數		二			
	全治		二			
	死亡		一			
芳野村	患者數		一			
	全治					
	死亡					
鄉村	患者數					
	全治					
	死亡					
大野村	患者數					
	全治					
	死亡					
小田村	患者數					
	全治					
	死亡					

大正十四年

町村名	病名並轉歸別	赤痢	腸チフス	パラチフス	デフテリア	猩紅熱
中谷村	患者數					
	全治					
	死亡					
富村	患者數					
	全治					
	死亡					
久田村	患者數					
	全治					
	死亡					
泉村	患者數					
	全治					
	死亡					
羽出村	患者數					
	全治					
	死亡					
奥津村	患者數					
	全治					
	死亡					
上齋原村	患者數					
	全治					
	死亡					
津山町	患者數					
	全治					
	死亡					
西苦田村	患者數					
	全治					
	死亡					
一宮村	患者數					
	全治					
	死亡					
田邑村	患者數					
	全治					
	死亡					
香々美南	患者數					
	全治					
	死亡					
香々美北	患者數					
	全治					
	死亡					
津山東町	患者數					
	全治					
	死亡					
高野村	患者數					
	全治					
	死亡					
東苦田村	患者數					
	全治					
	死亡					
東一宮村	患者數					
	全治					
	死亡					
神庭村	患者數					
	全治					
	死亡					

町村名	病名並轉歸別	赤痢	腸チフス	パラチフス	デフテリア	猩紅熱
中谷村	患者數					
	全治					
	死亡					
富村	患者數					
	全治					
	死亡					
久田村	患者數					
	全治					
	死亡					
泉村	患者數					
	全治					
	死亡					
羽出村	患者數					
	全治					
	死亡					
奥津村	患者數					
	全治					
	死亡					
上齋原村	患者數					
	全治					
	死亡					
津山町	患者數					
	全治					
	死亡					
西苦田村	患者數					
	全治					
	死亡					
一宮村	患者數					
	全治					
	死亡					
田邑村	患者數					
	全治					
	死亡					
香々美南	患者數					
	全治					
	死亡					
香々美北	患者數					
	全治					
	死亡					
津山東町	患者數					
	全治					
	死亡					
高野村	患者數					
	全治					
	死亡					
東苦田村	患者數					
	全治					
	死亡					
東一宮村	患者數					
	全治					
	死亡					
神庭村	患者數					
	全治					
	死亡					

（ロ）避病院（昭和二年三月調）

町村名	位置	設立年月	建築費總額	高倉村	高田村	加茂町	西加茂村	東加茂村	上加茂村	阿波村	計
二宮村	二宮村六〇九番地ノ二	明治三十三年六月	一、一八四、三一〇円		一						一
院庄村	院庄村大字院庄一〇一五番地ノ二	同三十四年四月	二、〇〇四、一七五								
芳野村	芳野村大字布原八一八番	同三十五年四月	三、四一〇、四九八								
鄉村											
大野村	大野村大字土居六九〇番ノ二番地	同三十一年三月	五〇〇、〇〇〇								
小田村	小田村大字下森原三二五番地	同三十四年七月	五〇〇、〇〇〇								
中谷村											
富村	久田村大字久田下原	同三十六年八月	一、五六八、〇〇〇			四					四
久田村						一					一
泉村						三					三
羽出村											
奥津村											
上齋原村	上齋原村字横原一ノ一六九番地ノ一	大正四年九月	三、一〇〇、〇〇〇								
津山町	久米郡福岡村大字一四二・一四三・一四五地	明治二十七年十月	二、四〇〇、〇〇〇								
西苫田村	西苫田村大字山北三六五番・三七三番ノ三	同三十三年三月	二、〇四〇、〇〇〇								
一宮村											
田邑村	田邑村大字上田邑一〇〇番地	同三十四年七月	二、八〇九、二六八								
香々美南村	香々美南村大字公保田一四番地	同三十四年十月	二、九六二、九五五								
香々美北村											
津山東町	大字林田一、七一〇番地	同二十八年六月	一、二〇〇、〇〇〇								
高野村	高野村大字高野本郷七三三	大正二年十月	三、八八〇、七五五								
東苫田村	東苫田村大字勝部七七六ノ二番地	明治三十六年六月	三〇〇、〇〇〇								
東一宮村											

神庭村	神庭村大字綾部二〇一一番地	同　三十五年　八月	一、五〇〇、〇〇〇
高倉村	高倉村大字下高倉四字大坪河原	大正十三年　五月	一〇、九一七、七三〇
高田村	高田村大字下横野一一三番地	明治三十三年十一月	二、七八八、八六三
加茂町	加茂村大字宇野二三番ノ二	大正四年　九月	一、九五七、三三四
西加茂村			
東加茂村			
上加茂村	上加茂村大字山下三八〇番ノ二	明治三十九年十二月	六、四六三、〇〇〇
阿波村			

第七章　勸業

第一節　職業別現住戸數

（各年十二月三十一日調）

	農業		工業		商業		交通		公務自由業		水産業		鑛業		其他有業者		家事使用人		無職	合計	
	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業	專業	兼業		專業	兼業
大正十年	六・一九三	二・〇二二	七三九	七七四	一・六三九	八三八	四九二	二八八	五二六	一一三	八二七	一	四三七	四一六	六二	二六	四七三	一一・五七〇	四・五〇四
同十一年	六・四九二	一・七五七	七四三	七八三	一・七三三	八二七	四八六	三〇七	六三二	一一六	七二七		二九三	四〇七	五五	三〇	三六八	一〇・八〇八	四・二五四
同十二年	六・五八三	一・五三一	七二三	七八三	一・七六七	八九八	五〇八	三一七	六三六	一一七	六二四		三〇七	四〇九	六三	三一	四一二	一一・〇〇五	四・一一〇
二宮	九五	二七	四八	一五	五七	三二	一〇		一〇		八		二〇		九		四	二五三	八二
院庄	二一五	七八	七	六	二二	一六	三	一	五	五			七	五				二五九	一一一
芳野	二八九	八三	一〇	五	一〇	二二	五	五	一一									三二五	一二五
郷	二三八	四四		四	一三	一六												二五一	六四
大野	三七〇	一八	二一	五	一四	八	五	九	一四		一						八	四三二	四一
小田	一四六	二一	一六	一八	三一	一〇	一	二三	八	三			一一	一三				二一三	八七
中谷	二二二	二〇	二	二	九	二			二	三			一五	一	二			二四二	二八

富	二三六	五四	七	一〇	一五	一六	三	一	六	二		二							七	二七四	八五
久田	二二六	八二	五	六	三八	二五					一	二								二六〇	一一五
泉	一六五	四六	三	七	八	四			一	一										一七七	五八
羽出	七七	七五	四	二五	七	一五			七						一					九六	一一五
奥津	一四〇	二八	一〇	五	一五	一〇	二	三	五	二					五	七			一	一七八	五五
上齋原	一三三	七二	三	三	六	九			四	二						二〇				一四六	一〇六
津山	二八	四一	三八二	五一五	九二〇	三五〇	三八〇	二〇〇	四五五	五〇	四	五			一〇〇	三一三	三〇	二五	三四三	二・六四二	一・四九八
西苫田	三四四	六五	三三	一九	三五	二九	一三	四八	二六	二一	一	五			五	一	五		七	四六八	一七八
一宮	一〇五	四三	二	一	一三	六			七	二					一三	六				一三九	五七
田邑	二五八	三二	四	五	九	七	三	一	三	二					二五	三	一		六	三〇九	四〇
香々美南	二八〇	五二	一〇	二	三三	二		二	二	二					八	二	一	一		三三二	六三
香々美北	二〇二	三八	一〇	五	六	四七	四	二							一九	一六				二四一	一〇八
津山東	二〇三	六	四六	一〇	三一三	一六	五三	七	一四	七					三	二	一一	三	二〇	六七一	五一
高野	四七八	一四四	一〇	一三	二〇	二六			三	一							二			五一三	一八四
東苫田	二〇八	一八	四		七	二	一	二	六						五				四	二三五	三二
東一宮	一七三	三三	三	七	五	四				六									五	一八六	三九
神庭	一三三	一一一	八	七	一五	八	一〇	三	三	一					一					一七〇	一三〇
高倉	二三四	四〇	五	九	二	二〇			二							二				二四三	七二
高田	三五六	九四	一八	三	二六	六	一		一三	四						一四				四一四	一三二
加茂	二七九	四〇	一〇	一八	五三	七五			六						三五					三八二	一三三
西加茂	一八二	三七	五	二九	三四	八九				七					四				六	二三一	一五三
東加茂	二五〇	二六	三三	三	二一	一〇	一四	八	四	一					一四	三				三一五	五一
上加茂	一七九	七六	一三	一七	一八	一〇	一	二	七	五		一			八	三	二	二	一	二三九	一一六
阿波	一五九	九	二	九	五	一五			三											一六九	三三

第二節　農業

本郡内の田地は六千七百四十七町餘段歩、畑地は一千九百十三町餘段歩にして、農家戸數八千餘を算す。土地概ね肥沃にして農桑の業に適す。農產物の主なるものは米・麥・繭・蔬菜三種等にして、他の生產物を合し農產總收入は實に七百餘萬圓の巨額に達す。他に工產亦尠からずと雖も、其の原料は主として郡內農家に仰ぐの狀勢なれば、農村の盛衰は直に郡民の休戚に關する頗る大なりとす。是を以て本郡夙に產業基本調査を遂げ、產業の立脚する處を定め、產業奬勵の方針を確立し、その農蠶業に就ては農會を中心となし、郡畜產組合・郡養蠶組合等の各團體と互に氣脈を通じ、施設勸奬大に努め今日に至る。以下其の狀勢を順次畧記せん。

（一）農業組織別戸數及從業人員（大正十年三月三十一日現在）

種目	戸數	從業人員 男	從業人員 女	從業人員 計	一戸平均從業人員	農業本業戸數ニ對スル組織別歩合	全農家戸數ニ對スル農業本兼業ノ歩合	全戸數ニ對スル農業本兼業ノ歩合
農業ヲ本業トスルモノ								
普通事業（主トシテ穀菽類）ヲ營ムモノ	三・三四一	四・七二〇	四・〇六六	八・七八六	二・六	四六	%	%
同上ニ特用作物栽培ヲ兼營ムモノ	二五五	三七九	三五五	七三四	二・八	三		
同上ニ養蠶ヲ兼營ムモノ	一・三六一	二・一六三	一・九八七	四・一五〇	三・〇	一八		
同上ニ蔬菜栽培ヲ兼營ムモノ	三二二	五七九	二八七	八六六	二・六	四		
同上ニ果樹栽培ヲ兼營ムルモノ	四	五	四	九	二・二			
同上ニ林業ヲ兼營ムモノ	三七〇	六五〇	三九四	一・〇四四	二・八	五		
同上ニ以上ノ内二ツ以上ヲ兼營ムモノ	一・五〇五	二・六五二	二・二八〇	四・九三二	三・二	二〇		
特用作物ノミ栽培スルモノ	一	一一	一〇	二一	一・九			
養蠶ノミ營ムモノ	二〇	三三	二三	五六	二・八			
蔬菜栽培ノミ營ムモノ	一	一	一	一	一			
果樹栽培ノミ營ムモノ	四	四	二	六	一・五			
林業ノミ營ムモノ	九	九	二	一一	一・二			
以上ノ内二ツ以上ヲ兼營ムモノ	一八	一九	二一	四〇	二・二			
其他ノモノ	三八	四二	三三	七五	一・九			
計	七・二五九	一一・二六七	九・四六四	二〇・七三一	二・八		八三	四九
農業ヲ兼業トスルモノ	一・五四六	一・四五二	一・一九六	二・六四八	一・七		一七	一〇
合計	八・八〇五	一二・七一九	一〇・六六〇	二三・三七九	二・六			五九

二宮村	普通農業	養蠶		蔬菜			特用作物	養畜
院庄村	同	同		同			同	同
芳野村	同	同		同			同	同
郷村	同	同	林業					同
大野村	同	同	同					同
小田村	同	同	同					同
上齋原村	同	同	同			同		同
津山町	同			蔬菜				養畜
西苫田村	同	養蠶		同			特用作物	
一宮村	同	同	林業			養畜	同	養畜
田邑村	同	同						同
香々美南	同	同	林業					同
香々美北	同	同	林業		特用作物	養畜		同
林田村	同	同		蔬菜			特用作物	同
高野村	同	同			特用作物			同
東苫田村	同	同			同			同

中谷村	同	同	同		特用作物	養畜
富村	同	同	同		同	同
久田村	同	同	同		同	同
泉村	同	同	同			同
羽出村	同	同	同			同
奥津村	同	同	同			同
東一宮村	同	同	林業			養畜
神庭村	同	同				
高倉村	同	同			特用作物	
高田村	同	同	林業		同	養畜
加茂村	同	同	同			同
西加茂村	同	同	同			同
東加茂村	同	同	同			同
上加茂村	同	同	同		特用作物	同
阿波村	同	同	同			同

（二）農業組織と耕作反別（大正十年三月三十一日現在）

種目	耕作反別歩合	農業ヲ本業トスルモノ	農業ヲ兼業トスルモノ	農家	計	%	三反未満	三反以上五反未満	五反以上一町未満	一町以上一町五反未満	一町五反以上二町未満	二町以上三町未満	三町以上五町未満	五町以上	計
普通農業（主トシテ穀菜類）ヲ營ムモノ		三四三	一四	一五	四三二		一・九八	一〇三	六二	三〇三	一二八	六	一五	三	三・三四一
同上ニ特用作物栽培ヲ兼營ムモノ		一五	四六	九八	一六九		一・九八	一〇三	六二	三〇三	一二八	六	一五	三	三・三四一
同上ニ養蠶ヲ兼營ムモノ		一五	四六	九八	一六九		一・九八	一〇三	六二	三〇三	一二八	六	一五	三	三・三四一
同上ニ蔬菜栽培ヲ兼營ムモノ		三元	九〇	一〇三	二三四		一・四六五	四六一	二九一	一三七	九一	三	八	一	一・六六一
同上ニ果樹栽培ヲ兼營ムモノ		一	一	一〇	二		一〇	一	一	一	一				二五
同上ニ林業ヲ兼營ムモノ		三九	一〇	一〇	五九		二・四三	一〇一	四一	一六	三	一	一		三・四四
同上ニ以上ノ内二ツ以上ヲ兼營モノ		七四	一六	一二	一〇二		二・五五七	一〇四	五四	一五	二				三・八一四
特用作物ノミ栽培スルモノ		四	八	三	一五		一・〇四	四一	一六	三					一・六六
養蠶ノミ營ムモノ		八	三	一	一二		二・一一	八	一						二・一二
蔬菜栽培ノミ營ムモノ		一	三	一	五		一・〇五〇	四一	一六	三					一・六六
果樹栽培ノミ營ムモノ															
林業ノミ營ムモノ		二	九	七	一八		二・五五七	一〇四	五四	一五	二				三・八一四
以上ノ内二ツ以上ヲ兼營ムモノ		四	一五	二	二一		一・〇六〇	四一	一六	三					一・六六
其ノ他ノモノ		二	七	二	一一		一・〇六〇	四一	一六	三					一・六六
計		五八一	二一七	一二	九八〇		二・七三	一一三	四三	一七	四	一			四・四二
農業ヲ兼業トスルモノ		一・〇六〇	七七	二	一・一四二		二・七三	一一三	四三	一七	四	一			四・四二
合計		一・六四一	二九八	一四	二・〇五三		二・七三	一一三	四三	一七	四	一			四・四二

（三）耕作反別と小作反別との關係（大正十年三月三十一日現在）

種目	耕作反別歩合	小作反別	一反未満	一反以上三反未満	三反以上五反未満	五反以上七反未満	七反以上一町未満	一町以上一町五反未満	一町五反以上二町未満	二町以上三町未満	三町以上五町未満	五町以上	計
耕作反別 三反未満	四二六戸		六三二	一四五	五五七	一六一	五〇三	二五七	六五〇	一九八	五七	一	一・〇四八
三反以上五反未満	七五		一四五	五五七	一六一	五〇三	二五七	六五〇	一九八	五七	一		一・〇四八
五反以上七反未満	四三		一二五	一六一	五〇三	二五七	六五〇	一九八	五七	一			一・〇四八
七反以上一町未満	五〇		一三五	一七四	二五七	六五〇	一九八	五七	一				一・〇四八
一町以上一町五反未満	二三		一三	一九	六五	一九八	五七	一					一・〇四八
一町五反以上二町未満	三五		八三	六五	一九八	五七	一						一・〇四八
二町以上三町未満	一〇		三三	一九	五七	一							一・〇四八
三町以上五町未満	二		五	四	一								一・〇四八
五町以上	六四		一・九二	一・一三	一								一・〇四八
計			六・七七	五	三三	三一	七六八	一・〇五五	一・二八四	八二七	七〇	一	

（四）自・小作と耕作反別との關係

種目	三反未満	三反以上五反未満	五反以上七反未満	七反以上一町未満	一町以上一町五反未満	一町五反以上二町未満	二町以上三町未満	三町以上五町未満	五町以上	計

（五）農業組織と自・小作戸數並に兼業との關係（大正十年三月三十一日現在）

種目	自作ニ近キ自作兼小作		小作ニ近キ小作兼自作		小作		計	
	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數
普通農業（主トシテ穀菽類）ヲ營ムモノ	三六七	七五	四四六	一六四	一・三三	六九五	一・二〇九	八〇四
同上ニ特用作用栽培ヲ兼營ムモノ	四〇	一〇	五四	一七	一〇七	五九	三四	三一
同上ニ蠶繭ヲ兼營ムモノ	三九	五三	五四	一三	五八二	二九五	一八六	九二
農業ヲ兼營スルモノ	七五	一七	四四六	一六四	一・三三	六九五	一・二〇九	八〇四
同上ニ蔬菜栽培ヲ兼營ムモノ	二五	六	六一	七	一二三	六九	一〇四	三五
同上ニ果樹栽培ヲ兼營ムモノ	一		二	一	一			
同上ニ林業ヲ兼營ムモノ	二〇七	五三	一一四	四八	四一	二一	七	四
同上ニ上ノ内二ツ以上ヲ兼營ムモノ	六一四	二〇三	五一三	二一三	三一三	一〇一	六六	二九
特用作物ノミ栽培スルモノ	二	一	一					
蠶繭ノミ營ムモノ	一五	四	一					

種目	自作ニ近キ自作兼小作		小作ニ近キ小作兼自作		小作		計	
	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數	總戸數	内兼業戸數
普通農業（主トシテ穀菽類）ヲ營ムモノ	五・四三	二〇三	一五四	二八三	一・九八五	四〇六	二一六	一三三
同上ニ特用作用栽培ヲ兼營ムモノ	二八	一二五	一四七	三〇〇	一・六三	五六二	三〇七	一一五
同上ニ蠶繭ヲ兼營ムモノ	一・四八	一三三	三五六	六二一	八二九	三四四	一一七	四七
農業ヲ兼營スルモノ	七〇三	四九	三三三	三四四	一・五六七	三五六	二・一一二	九八四
同上ニ蔬菜栽培ヲ兼營ムモノ	一・六四一	九九〇	一・五七七	六五二	二・七九六	一・一四八	三・二〇八	一・三〇三
同上ニ果樹栽培ヲ兼營ムモノ	九九一	四九	一・五六七	六五二	二・一一二	九八四	三・二〇八	一・三〇三
同上ニ林業ヲ兼營ムモノ	一・六四一	九九〇	一・五七七	六五二	二・七九六	一・一四八	三・二〇八	一・三〇三
同上ニ上ノ内二ツ以上ヲ兼營ムモノ	一・四八五	六九五	一・二〇九	八〇四	三・三四一	一・七二八	六・六六七	二・九三一
特用作物ノミ栽培スルモノ	一・三三	六九五	一・二〇九	八〇四	三・三四一	一・七二八	六・六六七	二・九三一
蠶繭ノミ營ムモノ	一〇七	五九	五四	三一	二五五	一二四	四六五	一九三

（六）農業組織と兼業の種類戸數及從業人員（大正九年中從業人數）

種目		工業的兼業ニ從事スル者		商業的兼業ニ從事スル者		水業的兼業ニ從事スル者		其他ノ兼業ニ從事スル者		計		平均一人兼業日數
		戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	
農業	普通農業（主トシテ穀菽類）ヲ營ムモノ	三三七	三一三	一〇六・二四	二六七	一九四・四三	一七三・六五	二三七	一四〇	一・七八八	二・二六七	一二五・一七
	同上ニ特用作物栽培ヲ兼營ムモノ	四四	八〇	三八・〇二	一一	一五・六五	一二・三五	五九	八七	一・三三	一・八二	一三・三五

種目		自小作戸數合計		農業ヲ本業トスルモノ		農業ヲ兼業トスルモノ		全農家
		戸數	人員	戸數	人員	戸數	人員	
農業	普通農業（主トシテ穀菽類）ヲ營ムモノ	一・五四四	四四一	一・九八五	四一三	一九	二八	三三
	同上ニ特用作物栽培ヲ兼營ムモノ	一・四五	四一三	一・六九三	五九九	八	二二	一九